

令和5年度

年間学習計画
〈シラバス〉



高知県立高知北高等学校 定時制 昼間部

はじめに

本校昼間部は、単位制の学校です。

単位制の学校では必履修科目(全員が履修しなければならない科目)もありますが、その他の科目は、将来進んでいく進路を考慮しつつ、自分で選択(登録)していくことになります。

したがって、各教科・科目について、学習計画・学習内容等を知っておくことが大切です。

本冊子は、その参考資料として作成しました。

この「年間学習計画」は、生徒の皆さんが本校昼間部で学ぶにあたり、

1	学習目標	2	学習内容	3	日常の学習にあたってのアドバイス
4	評価方法	5	備考		

等をまとめています。教科登録や日々の学習に役立ててください。

(注意) 1. 授業の進捗については、生徒の実態も考慮しながら進みますので、学習計画表と一部異なる場合があります。

また、体育等の実習を伴う科目の場合、授業の出席者数等によって、学習内容が一部変更される場合があります。

2. この冊子は、令和5年度用に作成されています。



目 次

【国語】		【芸術】	
国語総合	1	音楽Ⅰ	36
国語表現	2	音楽Ⅱ	37
現代文A	3	音楽Ⅲ	38
現代文B	4	美術Ⅰ	39
古典A	5	美術Ⅱ	40
		美術Ⅲ	41
【地歴・公民】		工芸Ⅰ	42
世界史A	6	工芸Ⅱ	43
世界史B	7	工芸Ⅲ	44
日本史A	8	書道Ⅰ	45
日本史B	9	書道Ⅱ	46
地理A	10	書道Ⅲ	47
地理B	11		
現代社会	12	【家庭】	
倫理	13	家庭総合	48
政治経済	14	消費生活	49
		子どもの発達と保育	50
【数学】		服飾手芸	51
数学Ⅰ	15	フードデザインA	52
数学Ⅱ	16	フードデザインB	53
数学Ⅲ	17		
数学A	18	【情報】	
数学B	19	社会と情報	54
【理科】		【商業】	
科学と人間生活	20	ビジネス基礎	55
物理基礎	21	簿記	56
化学基礎	22	情報処理	57
生物基礎	23	電子商取引	58
地学基礎	24		
化学	25	【自立活動】	
生物	26	未来を拓く(Ⅰ～Ⅲ)	59
【外国語(英語)】		【その他】	
コミュニケーション英語Ⅰ	27	総合探究	60
コミュニケーション英語Ⅱ	28	共通講座	61
コミュニケーション英語Ⅲ	29	高大連携	62
英語表現Ⅰ	30	登録基礎表	65
英語表現Ⅱ	31		
【保健体育】			
保健1	32		
保健2	33		
体育2	34		
体育3	35		

年間学習計画

教科：国語

科目：国語総合

単位：4単位（1年次生）

学習目標：国語の読解力や語彙力などの基礎的な力を養うとともに、現代文・古文・漢文の基本的な知識を身に付ける。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	1.現代文<随想> 「ルリボシカミキリの青」 2. 古文<説話> 「児のそら寝」(宇治拾遺物語)	・想を読んで、筆者のものの見方や感じ方、表現の仕方を読み取る。 ・古文と現代文の違いを知り、古文に親しみ、古文を読むための基礎を学ぶ。
	5	3. 現代文<小説> 「とんかつ」 4. 漢文 「訓点」	・小説に親しみ、話の展開をとおしてその面白さを読み取る。 ・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解する。
	6	5. 現代文<評論> 「未来をつくる想像力」 6. 古文<隨筆> 「徒然草」	・筆者の考えを読み取り、関心の幅を広げ、自分の意見を発表できるようにする。 ・古文の表現に慣れ、作者の考え方を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにする力を養う。
	7	7. 漢文 「格言」 8. 古文<詩歌> 「折々のうた」	・格言を読んで、漢文の世界に親しむ。 ・人々に親しまれてきた詩歌を読み味わい、鑑賞する力を養う。
	8	9.現代文<小説> 「羅生門」	・小説の主題をとらえ、人間の心理について考えを深める。
	9		
	10	10. 漢文 「故事」 11. 現代文<詩> 「空をかついで」「二十億光年の孤独」「冬が来た」	・故事を読んで、漢文の世界に親しませる。 ・詩に親しみ、表現の特色や、詩の言葉の微妙なはたらきを知り、詩を深く味わう力を養う。
	11	12. 古文<物語> 「伊勢物語」 13. 現代文<随想> 「待つということ」「里山物語」	・物語に描かれた人物や情景・心情などを読み取り、想像力をはたかせながら物語の世界を読み味わう。また、和歌の形式の知識を得る。 ・説明や描写を通して、個性的なものの見方や感じ方に触れ、感受性を養う。
	12	14. 漢文<唐詩> 「春暁」「山亭夏日」「山行」 15. 現代文<短歌・俳句> 「その子二十」「春風や」	・漢詩にうたわれた情景を読み取り、作者の心情を味わう。 ・短歌・俳句に親しみ、そこに描かれた世界を読み味わう。
1	16.漢文 「論語」 17. 現代文 「鍋洗いの日々」	・内容を理解するとともに、ものの見方や考え方を豊かにさせる。 ・働く人の思いに触れ、社会に生きる自分の将来について考える。	
2			
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に真面目に取り組む。 ・授業中のルールとマナーを守る。 ・積極的に考え、発表する。 ・日ごろから新聞を読んだり読書に親しんだりすることで、さまざまな言葉や考えに触れる。 ・学習内容は年度により、予定を前後させることがある。 			定期考査、ノート提出、その他の提出物や授業態度等を総合的に見て評価する。 ・定期考査 70% ・提出物 30%
備考			

年間学習計画

教科：国語

科目：国語表現

単位：3単位（2年次以上）

学習目標：実生活で求められる、基礎的な語句・文法の知識・作文のルール等を習得する。

言葉を通して他者の考えや気持ちを考えるとともに、言葉によって自分の考えや気持ちを伝えようとする姿勢を身に付ける。

場に応じた言葉遣いを心掛け、言葉によるコミュニケーション能力を向上させる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	1 言葉に変える ・視写、聴写、メモなど	・正確に書くためには集中することが必要であることを確認する。
	5	2 声の表現 ・文字を声に変える ・声の発表会	・相手によく聞こえるように意識して発表する。 ・人前で発表することに慣れる。
	6	3 人とつながる言葉	・日々の言葉遣いを振り返るとともに、正しい敬語の知識を身に付ける。
	7	4 面接 ・自己分析 ・質問と応答のレッスン ・模擬面接 ・志望動機	・過去の自分を振り返り、現在の自分を見つめ、将来になりたい自分について考える。 ・面接練習をすることで、応答の仕方や、自分の考えを伝える方法を身に付ける。 ・志望動機を書くことで、になりたい自分はどんな自分かを文章化する。
	8 9	上記の課題と並行して副教材を使用し、基本的な文法事項や文章の書き方を確認する。	原稿用紙の書き方・文の係り受け・適切な助詞の使用・副詞の呼応・仮名遣い・送り仮名などの基本事項を確認する。
後期	10	5 実用的な文章 ・手紙・はがき・案内状・年賀状・履歴書など	・手紙などの形式を学び、実生活で必要とされる文書の書き方を習得する。
	11	6 小論文 ・小論文の型(三段構成) ・課題文のある小論文	・型を習得することで、意見が相手に伝わりやすくなることを確認する。 ・根拠を示すことで、説得力が増すことを確認する。 ・課題文を読み要約することで、相手が何を言いたいのかを考える。
	12	6 データを読む ・データ型小論文	・データから読み取れる傾向・特徴や背景を考え、そこにどのような問題があるかを考える。
	1	7 さまざまな表現に挑戦 ・川柳・俳句・短歌 【3・4年次生後期末考査】 ・作文 ・小論文	・これまで学習したことをもとにして、さまざまな表現に挑戦する。 ・自分の考えや心情を文章化する。その際、相手に適切に伝わるよう表現を工夫する。
	2	上記の課題と並行して副教材を使用し、基本的な文法事項や文章の書き方が身についているかを確認する。	前期に確認した基本事項をもとに、応用問題に取り組む。
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
①授業に真面目に取り組む。 ②提出物を必ず出す。 ③積極的に考え、発表する。 ④授業中のルールとマナーを守る。			・定期考査を中心に、出席状況や授業への取り組み状況(関心・意欲・態度)などを総合的に判断して評価します。 ①提出物・レポート 4割 ②定期考査6割 ただし、科目の性質上、提出状況がもよまない場合減点とする。
備考	・この授業は文章を書くことが中心となる。また、発表することもある。 ・学習内容は状況に応じて変更することがある。		

年間学習計画

教科 : 国語
 科目 : 現代文A
 単位 : 2単位 (2年次生以上)
 学習目標 : 『国語総合』の現代文での学習をふまえ、近代以降の文章について、読解・鑑賞・読書の方法を修得し、ものの見方や考え方を深めるとともに、表現力をも高めることを目標とする。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	<ul style="list-style-type: none"> 小説編<現代> 「みどりのゆび」 吉本ばなな 	<ul style="list-style-type: none"> 短編小説の読み方の基本を確認し、小説の面白さを味わう。
	5	<ul style="list-style-type: none"> 随想・評論編<文学> 「さくらさくらさくら」 俵 万智 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の流れをつかみ、本文中の日本人独特の感覚と筆者の考えについてまとめる。
	6	<ul style="list-style-type: none"> 小説編<近代> 「山椒魚」 井伏鱒二 	<ul style="list-style-type: none"> 小説の面白さを味わい、その鑑賞の仕方を学ぶ。
	7	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動編 「朗読して味わう」 「図表から情報を読み取って論じる」 	<ul style="list-style-type: none"> 朗読を通じてその作品特有の表現を味わい、作品に対する理解を深める。 様々な形態の図から何をどのように表しているものかを確認し、話し合う。
	8 9	<ul style="list-style-type: none"> 随想・評論編<言語> 「言葉は世界を切り分ける」 今井むつみ 	<ul style="list-style-type: none"> 他言語と比較することで言葉の意味のあり方を理解し、言語生活を豊かにする。
後期	10	<ul style="list-style-type: none"> 小説編<現代> 「ナイン」 井上ひさし 	<ul style="list-style-type: none"> 小説の時代背景を想像しながら、登場人物の人間関係とその心情を読み取る。
	11	<ul style="list-style-type: none"> 随想・評論編<社会> 「身銭を切るコミュニケーション」 内田 樹 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者独自の表現や具体例の働きに注意して読み、コミュニケーションの在り方について考える。
	12	<ul style="list-style-type: none"> 小説編<近代> 「清兵衛と瓢箪」 志賀直哉 	<ul style="list-style-type: none"> 近代の代表的な小説を読解・鑑賞する力を身に付けるとともに、小説世界を自分に引き付けて考える。
	1	<ul style="list-style-type: none"> 随想・評論編<労働> 「おのずから」を感じ取る 内山 節 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の考え方に触れ、社会で働くことにおける自分の役割について考える。
	2	<ul style="list-style-type: none"> 小説編<近代> 「蠅」 横光利一 <p style="text-align: center;">【3, 4年次生後期末考査】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 短編小説の持つ緊密な構成を理解し、鑑賞を深めるとともに文章表現の豊かさを味わい、想像力や感受性を豊かにする。
		<ul style="list-style-type: none"> 言語活動編 「読み比べて考える」 <p style="text-align: center;">【2年次生後期末考査】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 同じテーマの文章を読み、その内容を正確に把握し、適切に比較して自分の考えを持つ。
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 授業に真面目に取り組む。 授業中のルールとマナーを守る。 積極的に考え、発表する。 日ごろから新聞を読んだり読書に親しんだりすることで、さまざまな言葉や考えに触れる。 			<ul style="list-style-type: none"> 定期考査を中心に、出席状況や授業への取り組み状況(関心・意欲・態度)などを総合的に判断して評価します。 定期考査 70% 提出物等 30%
備考	<ul style="list-style-type: none"> ノート等、書く分量はかなり多い。 学習内容は、年度により変更することもある。 		

年間学習計画

教科：国語

科目：現代文B

単位：4単位（2年次生以上）

学習目標：
 ・近代以降の様々な文章に触れ、語彙力と表現力の向上を図るとともに、多様なものの見方、感じ方、考え方を知ることによって視野を広げ、主体的に物事を判断する力をつける。
 ・文学作品を読む楽しさを味わう。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	・随想 「最初のペンギン」 茂木健一郎	・筆者の主張と照らし合わせながら、自分の思考と行動を振り返る。
	5	・小説 「山月記」 中島 敦 ・評論 「ミロのヴィーナス」 清岡卓行	・登場人物の気持ちや心理について、具体的な場面の表現を通して理解する。 ・物語の構造に注意する。
	6	・詩 「二十億光年の孤独」谷川俊太郎 ・「永訣の朝」宮沢賢治	・比喩や対句など表現効果について理解する。□ ・本文の構成や展開、例示など論証の工夫を理解する。□ ・日常の言葉とは異なる詩の言葉の働き方について理解する。
	7	・評論 「コンクリートの時代」 隈 研吾	・詩が書かれた背景を理解し、方言や難解語、特徴的な詩の表現について理解を深める。
	8	・小説 「蠅」 横光利一	・今日のグローバルゼーションについて筆者の考えを、「コンクリート」との関係で理解する。 ・人間の運命が自らの意志を超えたものによって翻弄されることについてどう思うか。自身の考えを持つ。
後期	9		
	10	・評論 「であることとすること」 丸山真男	・指示語や接続詞、比喩表現を文脈に沿って理解する。 ・筆者の思考の仕方を参考にして社会の出来事をとらえなおし、自分なりの考えを文章にまとめる。
	11	・小説 「こころ」 夏目漱石	・作者の生涯と作品についての知識・理解を深める。 ・小説を読むことを通して自己を見つめなおし、内面の充実や人間社会への洞察力を養う。
	12	・評論 「わかりやすいはわかりにくい」 鷲田清一	・「わからないままに正確に対処する」ことの大切さを、想定される場面の違いに沿って整理する。 ・本文を通じて筆者が述べようとしていることを読み取る。
	1	・小説 「鞆」 安部公房 【3・4年次生後期末考査】	・物語の寓話的意味（「鞆」の意味）を理解する。 ・この小説の投げかけている問題について、自分の考えをまとめる。
	2	・評論 「忘れられる権利」 宮下紘	・筆者が用意した事例の意図や意味を考える。 ・筆者の意見に基づいて、他の社会的出来事についても考えを広げる
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業に真面目に取り組む。 ・授業中のルールとマナーを守る。 ・積極的に考え、発表する。 ・日ごろから新聞を読んだり読書に親しんだりすることで、さまざまな言葉や考えに触れる。 	<p style="text-align: center;">g</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 70% ・提出物 30%
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の提出物が多い。 ・作文・意見文を書くことが多い。 ・学習内容は、年度により変更することもある。 		

年間学習計画

教科：国語

科目：古典A

単位：3単位（2年次以上）

学習目標：古典としての古文と漢文、古典に関する文章を読むことによって、わが国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	● 古文 「古事談」 「発心集」	<ul style="list-style-type: none"> ・古文に描かれたものの見方や感じ方について関心を持つ。 ・古文の文章を歴史的仮名遣いなどに注意しながら音読する。 ・描かれている出来事の経緯をおおむね理解する。 ・古文に特有の表記法や表現、語彙などがあることを理解する。 ・古文に描かれた人物の心情や考えを理解する。
	5		
	6	● 漢文 「故事成語」 ・塞翁が馬 ・朝三暮四 ・杞憂	
	7	● 古文 「宇治拾遺物語」	
	8		
後期	9		<ul style="list-style-type: none"> ・説話に描かれた世界の面白さに関心を持つ。 ・古文の文章を内容や展開、人物の様子などを考えて音読する。 ・説話に描かれた古代人のものの見方や考え方を理解する。 ・基本的な助動詞や助詞の意味や用法について理解する。
	10	● 漢文 「論語」 「老子」 「莊子」	
	11	● 古文 「今昔物語集」 「十訓抄」	
	12		
	1	● 詩文 漢詩四編 【3, 4年次生後期末考査】	
	2	2年次生は演習問題・復習を行う 【2年次生後期末考査】	
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に真面目に取り組む。 ・授業中のルールとマナーを守る。 ・積極的に考え、発表する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査を中心に、出席状況や授業への取り組み状況(関心・意欲・態度)などを総合的に判断して評価します。 ・定期考査 70% ・提出物等 30%
備考	生徒の状況に応じて、上の内容とは一部異なる場合がある。		

年間学習計画

教科：地歴・公民

科目：世界史A

単位：2単位（2年次生以上）

学習目標：近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	1部 世界の一体化と日本	○諸地域世界の古代文明についての基本的事項を学ぶ。 ○16世紀に繁栄していたアジアの大国についての基本的事項を学ぶ。 ○ルネサンス、宗教改革、大航海時代などの15・16世紀のヨーロッパの変化についての基本的事項を学ぶ。 ○市民革命、産業革命を経て資本主義社会にいたるヨーロッパの変化について学ぶ。 ○ヨーロッパのアジア進出に伴うアジアの変化についての基本的事項を学ぶ。
		1章 前近代の諸文明	
		序説 人類のはじまり	
	5	1節 東アジアの文明	
		2節 南アジアの文明	
		3節 東南アジアの文明	
	6	4節 西アジア・北アフリカの文明	
		5節 ヨーロッパの文明	
		6節 南北アメリカの文明	
7	7節 ユーラシアの交流圏 〈 前期中間考査 〉		
	2章 一体化に向かう世界		
	1節 繁栄するアジア		
8	2節 大航海時代と新たな国家の形成		
	3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺		
	1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命		
9	3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺		
	2節 自由主義・ナショナリズムの進展		
	3節 アジア諸国の動揺		
後期	10	4節 東アジアの大変動 〈 前期末考査 〉	
		2部 地球社会と日本	
		1章 現代社会の芽生えと世界大戦	
	11	1節 現在につながる社会の形成	
		2節 第一次世界大戦がもたらしたもの	
		3節 “民族自決”を求めて	
	12	4節 経済危機から第二次世界大戦へ 〈 後期中間考査 〉	
		2章 冷戦から地球社会へ	
		1節 冷たい戦争の時代	
1	2節 冷戦終結への道のり		
	3節 地球社会への歩み		
	4節 持続可能な社会を目指して 〈3・4年次生 後期末考査 〉		
2	復習・問題演習		
	〈2年次生 後期末考査 〉		
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		○授業を大切にする。 ・教科書・ノート・筆記用具等を持参する。 ・ノートをとる。 ○プリントなどの課題に取り組む。	1. 定期考査等:7割 2. 授業に取り組む姿勢(関心・意欲・態度)等:1割 3. 提出物:2割 以上を基準に、総合的に評価する。
備考	・通信科目の授業は半期であり、1部が中間考査まで、2部が期末考査までの学習内容となる。 ＊評価(定期考査:3割、レポート:4割、授業に取り組む姿勢等:1割、提出物:2割)これを基準に総合的に評価する。		

年間学習計画

教科：地歴・公民

科目：現代社会

単位：3単位（1年次生）

学習目標：
 1. 現代社会と人間について、広い視野に立って理解を深めます。
 2. 現代社会の基本的な問題について、主体的に考え公正に判断する力や、人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養います。
 3. 自らの個性を發揮し、文化・福祉の向上、発展に貢献する能力と、平和で民主的な社会生活の実現、推進に向けて主体的に参加・協力する態度を育てます。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点	
前期	4	第1部 わたしたちの生きる社会 第1章 地球環境問題 1. 破壊される地球(1) 2. 破壊される地球(2) ●1地球環境の危機 3. 地球環境問題への取り組み ●2自然破壊から共生へ 第3章 生命科学と情報技術の課題 1. 現代医学が問う生死のあり方 2. 脳死と臓器移植	第2章 資源・エネルギー問題 1. かぎりある資源 ●3資源をめぐる動向 2. エネルギーの開発と利用 ●4原子力と再生可能エネルギー 3. 人口問題と食料・水資源 ●5人口と食料 4. 資源循環型社会の形成 3. 遺伝子技術と生命 4. 高度情報化社会と情報倫理	・地球環境問題の現状について把握するとともに、これらの問題は自分たちにとって身近な問題であることに気づく。 ・資源・エネルギーの利用において国家間の利害が衝突している現状を認識する。とくにエネルギー問題にあつては、国内の情勢だけでなく国際的な動向にも注目し、原子力や新エネルギーによる発電がどうあるべきかを考察する。
	5	第2部 現代の社会と人間 1 青年期の自己の形成 第1章 自分らしく生きる 1. 青年期とは 2. 自己形成の課題(1) 3. 自己形成の課題(2) 4. 職業生活と社会参加	第2章 人間としてよく生きる 1. 哲学と人間 2. 宗教と人間 3. 科学と人間 4. 自由と幸福 5. 人間性の回復と主体性の確立 6. 他者の尊重 第3章 日本人としての自覚 1. 古代日本人の思想 2. 外来思想の受容と伝統 ●6日本の宗教・思想の展開 (前期中間考査)	・青年期の意義と自己形成の課題について考察し、青年としての生き方を自覚する。 ・倫理や進路指導と関連させる。 ・先哲の思想や宗教の意義に触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察する。 ・現代社会で「正義」「公正」「幸福」はいかにすれば達成されるのか、さまざまな思想家の主張を比較・考察する。
	6	2 現代の民主政治と日本国憲法 第1章 現代国家と民主政治 1. 民主政治の基本原則 2. 法の支配と法の意義・役割 3. 民主政治のしくみと課題 4. 世界のおもな政治制度 □	5. 人権のひろがりと公共の福祉 6. 平和主義とわが国の安全 7. こんにちの防衛問題 (前期末考査)	・世界の主な国の政治体制を比較しながら理解するとともに望ましい政治や主権者としての参政の在り方について考える。
	7	第2章 日本国憲法の基本的性格 1. 日本国憲法の制定 2. 自由に生きる権利 3. 平等に生きる権利 4. 社会権と参政権・請求権	3 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会 1. 経済社会の変容 2. 市場のしくみ 3. 現代の企業	・日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義などを理解し、民主政治において主体的に生きる人間としての在り方生き方を考える。
	9	第3章 日本政治の政治機構と政治参加 1. 政治機構と国会 2. 行政権と行政機能の拡大 3. 公正な裁判の保障 4. 地方自治と住民福祉 5. 政党政治と選挙制度 6. 世論と政治参加	4. 国民所得 5. 経済成長と国民の福祉 6. 金融の役割 7. 日本銀行の役割 8. 財政の役割と租税 9. 日本の財政の課題	・議会制民主主義と権力分立について、その意義や多数決の原理と運用方法などについて理解するとともに、民主政治の権力分立の意義を法の支配や基本的人権の保障と関連づけて理解を深める。 ・国家の行為に対して最終的には国民自らが責任をもつことになるということを理解する。 ・法に関する基本的な考え方を身に付ける。 ・新聞などを利用して、身近な話題を知る。 ・政治・経済、日本史や世界史の学習内容と関連させる。 ・激動する経済社会について、様々な角度から理解を深め、個人や企業の経済活動における社会的責任について考察する。 ・金融の意義や役割を理解するとともに、金融政策の目的と手段について理解する。 ・新聞記事を題材にし、現実の動きと関連させる。 ・都市型・生活型公害や身近な環境汚染の事例をもとに、その解決には法整備だけでなく、個人や企業にも社会的な責任が課されていることに気づく。 ・近年の雇用や労働の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から考察する。
後期	10	5. 公害の防止と環境保全 6. 労働問題と労働者の権利 7. こんにちの労働問題 8. 社会保障の役割 4 国際社会と人類の課題 ●7国際政治の動向 ●8かわるアフリカ	第2章 日本経済の特質と国民生活 1. 日本経済のあゆみ(1) 2. 日本経済のあゆみ(2) 3. 中小企業と農業 4. 消費者問題 (後期中間考査)	・国際政治は貿易や為替を中心として身近な問題として考察する。 ・人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解するとともに、医療・介護・年金などの保険制度にみられる現状と課題を理解する。 ・主権や国際政治、国際経済などの諸問題を理解し、国際社会における日本の役割や日本人の生き方を考える。 ・国際政治は国連を中心として、国際経済は貿易や為替を中心として身近な問題として考察する。 ・国際経済について、輸入品の価格や海外旅行など身近な例を挙げて解説する。 ・情報通信技術の発達や世界的な規制緩和により、経済のグローバル化が展開していることに注目するとともに、地域的経済統合が進展する背景や影響について考察する。 ・経済協力や国際的な援助の在り方について、国家間の方策だけでなく、NGOやNPOなども重要な主体となっていることを、その理由とともに考察する。 ・持続可能な社会の形成に参画する個人としての自覚を促すとともに、多文化共生社会を実現させるために必要な個人の在り方生き方について考察を深める。
	11	4. 人種・民族問題 5. 軍拡競争から軍縮へ 6. 国際平和と日本の役割 第2章 国際経済の動向と国際協力 1. 貿易と国際収支 2. 外国為替市場のしくみ 3. 第二次世界大戦後の国際経済	4. こんにちの国際経済 5. 発展途上国の諸課題 6. 経済協力と日本の役割 第3部 共に生きる社会をめざして 1. WTO体制と発展途上国 2. 個人の自由と持続可能な社会	
	12	復習・問題演習	(後期末考査)	
	1	復習・問題演習	(後期末考査)	
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法	
		・授業をきちんと受けましょう。 話をよく聞いて、黒板の板書以外も大切なことはノートに書きましょう。 ・新聞やニュースで、私たちの身の回りに起こるいろいろなできごとを、日ごろから関心をもち、知っておきましょう。 ・わからないことがあれば、そのままにせず、質問しましょう。	1. 定期考査等：7割 2. 授業に取り組む姿勢(関心・意欲・態度)等：1割 3. 提出物：2割 以上を基準に、総合的に評価する。	
備 考				

年間学習計画

教科：地歴・公民

科目：日本史A

単位：2単位（2年次生以上）

学習目標：近世末期の学習に続き、近代社会が成立し発展する過程について、諸外国との交流など我が国を取り巻く国際環境との関連に留意しながら現代までの歴史を理解する。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	序章 私たちの時代と歴史 (1) 私たちと歴史の結びつき (2) 私たちの時代	○国際社会の中で日本の役割について考える。 ○地球的な規模の課題とその中で日本がどのような役割を果たすことができるかを考察する。
	5	第1章 国際環境の変化と明治維新 (1) 19世紀世界の動向と日本 (2) 開国と倒幕	○開国以後、近代日本が急速に形成された過程を国際的な動きと関連付けて追及する。
	6	(前期中間考査) (3) 明治新政府の諸改革と社会の変化 (4) 明治初期の外交と反政府運動	○対外政策と、国会開設要求や反政府運動の発生理由について考察する。
	7	第2章 近代国家の成立と国際関係の推移 (1) 自由民権運動の展開 (2) 立憲体制の成立	○自由民権運動がめざしたものや、この運動がどのように発展し、衰退していったのかについて考察する。
	8 9	(3) 日清戦争と国際関係 (4) 日露戦争前後の世界と日本 (前期末考査)	○日清・日露戦争の原因と経過やその影響について考察する。
後期	10	第3章 両世界大戦をめぐる国際情勢と日本 (1) 帝国日本と第一次世界大戦 (2) 政党政治と大衆文化	○第一次世界大戦前後から第二次世界大戦終結までの我が国の状況について国内や国際情勢と関連づけながら考察する。
	11	(3) 軍国日本への道 (4) 太平洋戦争と日本	○日本とアメリカが次第に対立を深め、ついには破局に至った経過をまとめその原因を考察する。
	12	(後期中間考査) 第4章 現代世界と日本 (1) 現代世界の開幕と日本の戦後改革 (2) 日本の再建と復興への道	○第二次世界大戦後の世界情勢の変化を理解する。 ○日本国憲法制定の過程と、その基本的性格、日本国民にとっての意味について理解する。
	1	(3) 米ソ二極構造の世界と国内の再編 (4) 高度経済成長の時代 (5) 低成長から経済大国へ (6) 冷戦の終焉と日本 (3・4年次生 後期末考査)	○沖縄の復帰を、沖縄の戦後日本における位置づけの中で理解する。 ○日中国交回復と日中平和友好条約締結についての理解を深める。
	2	復習・問題演習 (2年次生 後期末考査)	
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		○授業を大切にす。 ・教科書・ノート・筆記用具等を持参する。 ・ノートをとる。 ○プリントなどの課題に取り組む。	1. 定期考査等:7割 2. 授業に取り組む姿勢(関心・意欲・態度)等:1割 3. 提出物:2割 以上を基準に、総合的に評価する。
備考	・通信科目の授業は半期であり、2章までが中間考査、残りが期末考査の学習内容である。 *評価(定期考査:3割、レポート:4割、授業に取り組む姿勢等:1割、提出物:2割)これを基準に総合的に評価する。		

年間学習計画

教科：地歴・公民

科目：地理A

単位：2単位（2年次生以上）

学習目標：現代世界の地理的な諸課題について地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点	
前期	4	第I編 現代世界の特徴 第1章 地球儀や地図からとらえる現代世界 1観光による結びつき 2地域間の結びつき 3国と国の結びつき	<p>○交通・インターネット・貿易の構造について学び、地域間の結びつきやその変化、現代の特質を理解する。鉄道路線敷設についての考察、航空写真の読みとりを通じて地理的技術を養う。</p> <p>○国家の3要素・国境、日本と外国との関係日本と周辺諸国との間の領有権問題等を学び、国境の意義や領土問題が人々の生活に及ぼす影響などを考察できるようにする。</p> <p>○球体としての地球、季節と時差、地球儀とおもな図法による世界地図、現代の地図とGISを学習する。</p> <p>○大地形について、形成・分布の特色・地下資源との関係について世界的な視野から学習する。平野の小地形を学習する。</p> <p>○大気の大循環と気候の地域性、世界の気候区分、各気候帯・気候地域の自然環境の特色とそこで営まれる生産活動を世界的な視野から学習する。</p> <p>○世界の農業・工業の発達と特色、民族・言語・宗教等についての学習を通じて、経済と文化における地理的環境や歴史的背景の影響について理解する。</p> <p>○自然環境の特色、各地域の宗教と言語などの学習を通じて、文化の多様性、環境と生活・産業の関わり、経済発展の要因を理解する。</p> <p>○イスラム教等の学習を通じて、宗教や自然環境、資源開発と人々の暮らしとの関連を理解する。パレスチナ紛争の学習を通じて国際問題を考察する力を養う。</p> <p>○EU統合による各地域の変化を捉え、問題点を考察する。</p> <p>○南北アメリカの自然環境や資源、植民地としての歴史等が多様な文化・産業のありように結びつき、地域性をつくりだしていることを理解する。</p>	
	5	4地球儀と地図 まとめと復習 岩倉使節団の行程をたどる		
	6	第2章 世界の生活・文化の多様性 1人々を取りまく地形 2人々を取りまく気候 3人々を取りまく環境（前期中間考査） 4世界各地の生活・文化		
	7	まとめと復習 白地図ワーク 1) 東・南・東南 アジアの生活・文化 2) 西・中央アジアの生活・文化 3) アフリカの生活・文化 4) ヨーロッパの生活・文化 5) アングロ・ラテンアメリカの生活・文化		
	8	6) オセアニアの生活・文化		
	9	まとめと復習 世界各地の生活・文化 ステップアップ 観光計画を立てよう （前期末考査）		
	後期	10		第3章 地球的課題の地理的考察 1環境問題 2資源・エネルギー問題 3人口・食料問題 4居住・都市問題 まとめと復習 相互に関連する地球的課題 ステップアップ 食料の確保と援助
		11		第II編 生活圏の課題 第1章 地図は生活必需品（後期中間考査） 1身のまわりの地図 2地形図の読み方 まとめと復習 地図で読む「二十四の瞳」
		12		第2章 自然環境と防災 1日本の自然環境の特色 2自然災害の事例 3日本の自然災害への取り組み ステップアップ 防災に地図を活用しよう。
1		第3章 生活圏の諸課題と地域調査 1生活圏の諸課題 2東京都青梅市の地域調査 ステップアップ 環境地図をつくろう（3・4年次生 後期末考査）		
2		復習・問題演習 （2年次生 後期末考査）		
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法	
		<p>○授業を大切にす。</p> <p>・教科書・ノート・筆記用具等を持参する。</p> <p>・ノートをとる。</p> <p>○プリントなどの課題に取り組む。</p>	<p>1. 定期考査等:7割</p> <p>2. 授業に取り組む姿勢(関心・意欲・態度)等:1割</p> <p>3. 提出物:2割</p> <p>以上を基準に、総合的に評価する。</p>	
備考				

年間学習計画

教科：地歴・公民

科目：地理B

単位：4単位（2年次生以上）

学習目標：現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点		
前期	4	第Ⅰ編 地図と地理的技能 第1章 地理情報と地図 第1節 世界観の変化と地図 第2節 地球儀と世界地図 第3節 地理情報の地図化	○地図の種類とそれぞれの特色を理解する。現代世界に関する統計を地理情報に加工し、分布図や階級区分図を作成できる地理的技能を習得する。		
	5	第2章 地図と地域調査 第1節 地図の活用 第2節 身近な地域の調査 第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察	○地形図、都市計画図、住宅地図などの特色を理解し、地域調査の目的や方法に適した地図を選択し、入手できる能力を習得する。		
	6	第1章 自然環境 第1節 地形 第2節 気候 第3節 自然と生活 第4節 自然環境に関する諸問題 〈 前期中間調査 〉	○地球規模でみた気温・降水量・大気循環、海洋や水の循環を取り上げ、それぞれの特色や形成要因を考察・理解する。 ○地球温暖化、オゾン層の破壊等を取り上げ、自然環境の諸問題に関する分布や形成要因を考察し、基礎的・基本的な知識を習得する。		
		7	第2章 資源と産業 第1節 農林水産業 第2節 資源・エネルギー 第3節 工業 第4節 流通と消費	○世界の農業・水産業・林業を取り上げ、特色や分布、形成要因等について考察し、基礎的・基本的知識を習得する。 ○世界の資源・エネルギーを取り上げ、それぞれの特色や分布、形成要因などについて考察し、基礎的・基本的知識を習得する。	
			8	第3章 人口と村落・都市	○世界の人口分布、人口増加・人口構成に関する動向を取り上げて、形成要因に関して考察し、基礎的・基本的知識を習得する。
			9	第1節 人口 第2節 村落・都市 〈 前期末考査 〉	
	後期	10	第4章 生活文化と民族・宗教 第1節 衣食住 第2節 言語と宗教 第3節 民族と国家 第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察	○世界の衣食住、言語と宗教を取り上げ、それらの分布と特色を理解し、基礎的・基本的知識を習得する。	
		11	第1章 現代世界の地域区分 第2章 現代世界の諸地域 第1節 中国 第4節 インド 第2節 韓国 第5節 西アジア・中央アジア 第3節 東南アジア 〈 後期中間考査 〉 第6節 アフリカ 第9節 ロシア 第7節 EU 第10節 アメリカ 第8節 ドイツとポーランド	○各国・地域の位置や歴史的背景、自然、工業、農業、人々の暮らし、それぞれの抱える課題などを学び、地域的特色と地球的課題を考察・理解し、基礎的・基本的知識を習得する。	
			12	第11節 ブラジル 第12節 オーストラリアとカナダ	○日本の自然、産業構造、人口構成と居住問題等について、日本がかかえる地理的な課題を発見し、その課題を多面的・多角的に考察、探究する。
1				第3章 現代世界と日本 第1節 世界の中の日本 第2節 持続可能な社会に向けて 〈3・4年次生 後期末考査〉	
2			復習・問題演習 〈2年次生 後期末考査〉		
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法		
		○授業を大切に。 ・教科書・ノート・筆記用具等を持参する。 ・ノートをとる。 ○プリントなどの課題に取り組む。	1. 定期考査等:7割 2. 授業に取り組む姿勢(関心・意欲・態度)等:1割 3. 提出物:2割 以上を基準に、総合的に評価する。		
備考	・通信科目の授業については上記に準じます。 *評価(定期考査:3割、レポート:4割、授業に取り組む姿勢等:1割、提出物:2割)これを基準に総合的に評価する。				

年間学習計画

教科：地歴・公民

科目：現代社会

単位：3単位（1年次生）

学習目標：1. 現代社会と人間について、広い視野に立って理解を深めます。
 2. 現代社会の基本的な問題について、主体的に考え公正に判断する力や、人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養います。
 3. 自らの個性を発揮し、文化・福祉の向上、発展に貢献する能力と、平和で民主的な社会生活の実現、推進に向けて主体的に参加・協力する態度を育てます。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	第1部 わたしたちの生きる社会 第1章 地球環境問題 1. 破壊される地球(1) 2. 破壊される地球(2) ●1地球環境の危機 3. 地球環境問題への取り組み ●2自然破壊から共生へ 第3章 生命科学と情報技術の課題 1. 現代医学が問う生死のあり方 2. 脳死と臓器移植	・地球環境問題の現状について把握するとともに、これらの問題は自分たちにとって身近な問題であることに気づく。 ・資源・エネルギーの利用において国家間の利害が衝突している現状を認識する。とくにエネルギー問題にあつては、国内の情勢だけでなく国際的な動向にも注目し、原子力や新エネルギーによる発電がどうあるべきかを考察する。 ・青年期の意義と自己形成の課題について考察し、青年としての生き方を自覚する。 ・倫理や進路指導と関連させる。 ・先哲の思想や宗教の意義に触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察する。 ・現代社会で「正義」「公正」「幸福」はいかにすれば達成されるのか、さまざまな思想家の主張を比較・考察する。 ・世界の主な国の政治体制を比較しながら理解するとともに望ましい政治や主権者としての参政の在り方について考える。 ・日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義などを理解し、民主政治において主体的に生きる人間としての在り方生き方を考える。
	5	第2部 現代の社会と人間 1 青年期の自己の形成 第1章 自分らしく生きる 1. 青年期とは 2. 自己形成の課題(1) 3. 自己形成の課題(2) 4. 職業生活と社会参加	
	6	第2章 人間としてよく生きる 1. 哲学と人間 2. 宗教と人間 3. 科学と人間 4. 自由と幸福 5. 人間性の回復と主体性の確立 6. 他者の尊重 第3章 日本人としての自覚 1. 古代日本人の思想 2. 外来思想の受容と伝統 ●6日本の宗教・思想の展開 (前期中間考査)	
	7	2 現代の民主政治と日本国憲法 第1章 現代国家と民主政治 1. 民主政治の基本原則 2. 法の支配と法の意義・役割 3. 民主政治のしくみと課題 4. 世界のおもな政治制度 □	
	9	第2章 日本国憲法の基本的性格 1. 日本国憲法の制定 2. 自由に生きる権利 3. 平等に生きる権利 4. 社会権と参政権・請求権 5. 人権のひろがりと公共の福祉 6. 平和主義とわが国の安全 7. こんにちの防衛問題 (前期末考査)	
後期	10	第3章 日本の政治機構と政治参加 1. 政治機構と国会 2. 行政権と行政機能の拡大 3. 公正な裁判の保障 4. 地方自治と住民福祉 5. 政党政治と選挙制度 6. 世論と政治参加 3 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会 1. 経済社会の変容 2. 市場のしくみ 3. 現代の企業	・議会制民主主義と権力分立について、その意義や多数決の原理と運用方法などについて理解するとともに、民主政治の権力分立の意義を法の支配や基本的人権の保障と関連づけて理解を深める。 ・国家の行為に対して最終的には国民自らが責任をもつことになるということを理解する。 ・法に関する基本的な考え方を身に付ける。 ・新聞などを利用して、身近な話題を知る。 ・政治・経済、日本史や世界史の学習内容と関連させる。 ・激動する経済社会について、様々な角度から理解を深め、個人や企業の経済活動における社会的責任について考察する。 ・金融の意義や役割を理解するとともに、金融政策の目的と手段について理解する。 ・新聞記事を題材にし、現実の動きと関連させる。 ・都市型・生活型公害や身近な環境汚染の事例をもとに、その解決には法整備だけでなく、個人や企業にも社会的な責任が課されていることに気づく。 ・近年の雇用や労働の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から考察する。 ・人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解するとともに、医療・介護・年金などの保険制度にみられる現状と課題を理解する。 ・主権や国際政治、国際経済などの諸問題を理解し、国際社会における日本の役割や日本人の生き方を考える。 ・国際政治は国連を中心として、国際経済は貿易や為替を中心として身近な問題として考察する。 ・国際経済について、輸入品の価格や海外旅行など身近な例を挙げて解説する。 ・情報通信技術の発達や世界的な規制緩和により、経済のグローバル化が展開していることに注目するとともに、地域的経済統合が進展する背景や影響について考察する。 ・経済協力や国際的な援助の在り方について、国家間の方策だけでなく、NGOやNPOなども重要な主体となっていることを、その理由とともに考察する。 ・持続可能な社会の形成に参画する個人としての自覚を促すとともに、多文化共生社会を実現させるために必要な個人の在り方生き方について考察を深める。
	11	4. 国民所得 5. 経済成長と国民の福祉 6. 金融の役割 7. 日本銀行の役割 8. 財政の役割と租税 9. 日本の財政の課題 第2章 日本経済の特質と国民生活 1. 日本経済のあゆみ(1) 2. 日本経済のあゆみ(2) 3. 中小企業と農業 4. 消費者問題 (後期中間考査)	
	12	5. 公害の防止と環境保全 6. 労働問題と労働者の権利 7. こんにちの労働問題 8. 社会保障の役割 4 国際社会と人類の課題 ●7国際政治の動向 ●8かわるアフリカ ●9人間の安全保障 ●10バネチナ問題 ●11世界経済 第1章 国際政治の変化 1. 国際政治の特質 2. 国際連合と国際協力 3. 第二次世界大戦後の国際政治	
	1	4. 人種・民族問題 5. 軍拡競争から軍縮へ 6. 国際平和と日本の役割 第2章 国際経済の動向と国際協力 1. 貿易と国際収支 2. 外国為替市場のしくみ 3. 第二次世界大戦後の国際経済 4. こんにちの国際経済 5. 発展途上国の諸課題 6. 経済協力と日本の役割 第3部 共に生きる社会をめざして 1. WTO体制と発展途上国 2. 個人の自由と持続可能な社会	
	2	復習・問題演習 (後期末考査)	
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		・授業をきちんと受けましょう。 話をよく聞いて、黒板の板書以外も大切なことはノートに書きましょう。 ・新聞やニュースで、私たちの身の回りに起こるいろいろなできごとを、日ごろから関心をもち、知っておきましょう。 ・わからないことがあれば、そのままにせず、質問しましょう。	1. 定期考査等：7割 2. 授業に取り組む姿勢(関心・意欲・態度)等：1割 3. 提出物：2割 以上を基準に、総合的に評価する。
備 考			

年間学習計画

教科：地歴・公民

科目：倫理

単位：2単位（2年次生以上）

学習目標：自分という人間は、唯一の存在です。かけがえない命を与えられた私たちは、どんな人間になりたいのか、どのように生きていくのかということ、長い人類の歴史の中で生み出されてきた思想をてがかりにしながら考えます。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方 生き方 1章 人間の心と自己形成	1章 青年期は悩みが多く、不安な時期です。また、いろいろな可能性につながる時期でもあります。「人間とは何か」という根源的な問いから出発し、青年期は人生の中でどのような時期なのかということや、青年期の心理や自己形成の課題などを知り、青年期について考えます。
	5	2章 人間の存在や価値と宗教 ①ギリシア思想 ②ユダヤ教とキリスト教	2章 紀元前6～5世紀は、哲学・宗教・倫理など、いろいろな思想が生まれました。これらの思想にあらわされた「人間としての自覚」のさまざまな姿を学びます。人間や人生について、自ら考える出発点にできるよう学習を進めていきます。
	6	③イスラーム ④仏教 〈 前期中間考査 〉	
	7	⑤中国の思想 ⑥宗教や芸術 3章 人間のあり方と社会	3章 現代は、人やものの移動だけでなく、文化や情報などが国家の枠組みを超えて伝えられ、地球規模で広がっている国際化した社会となりました。そこで生きる私たちにとって、異なる民族や文化をもった人との相互理解は大きな課題となっています。相互理解を深め、世界に貢献できる国際社会の一員として生きるために、まず日本と日本人についての深い理解が必要です。日本人の考え方や特質はどのように形成されてきたのかを知り、日本人としてどのように行動していくべきかを考えていきます。
	9	①人間の尊厳 ②科学革命の時代と自然観 ③自由で平等な社会の実現 ④人間性の回復と主体性の確立 〈 前期末考査 〉	
後期	10	4章 現代の人間と社会をとらえる思想 ①現代の思想と人間像 ②生命への畏敬と社会参加	
	11	5章 国際社会に生きる日本人としての自覚 ①日本固有の思想 ②外来思想の受容	1章 私たちのものの考え方や価値観は、近代以降の西洋社会ではぐくまれた自然観や人間観を反映しているものが多くあります。近代の西洋社会は、人間の尊厳を知り、科学を発展させ、自由と平等を実現しようとしました。しかし一方で、理性中心の人間観や機械論的自然観に対する反省も生じ、これらを克服しようとする新しい思想が生み出されます。このような西洋の人間観や自然観を知り、私たちに根づいているものの考え方や価値観をみつめなおしていきます。
	12	③町人思想のめざめと庶民思想 ④西洋思想との出会い	
	1	第2編 現代の諸課題と倫理 1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理 ①生命の問題と倫理的課題 ②地球環境の問題と倫理的課題 〈3・4年次生 後期末考査〉 2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理	*2章は、1～7の課題の中からいくつか選択して学習します。 現代は、物質的に豊かになった半面、倫理的な見方・考え方が必要とされ、課題となっていることがたくさんあります。地域社会や情報化社会、国際化と文化摩擦、地域紛争の現状などの問題を自己の課題とつなげて主体的に追及し、これらの諸課題の解決について考えていきます。
	2	復習・問題演習 〈2年次生 後期末考査〉	
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業をきちんと受けましょう。 話をよく聞いて、黒板の板書以外も大切なことはノートに書きましょう。 ・新聞やニュースで、私たちの身の回りに起こるいろいろなできごとを、日ごろから関心をもち、知っておきましょう。 ・わからないことがあれば、そのままにせず、質問しましょう。 	1. 定期考査等：7割 2. 授業に取り組む姿勢（関心・意欲・態度）等：1割 3. 提出物：2割 以上を基準に、総合的に評価する。
備考			

年間学習計画

教科：地歴・公民

科目：政治経済

単位：2単位（2年次生以上）

学習目標：広い視野で、民主主義の本質に関する理解をしたり、現代の政治・経済・国際関係などについて学習します。また、それらに関する諸課題について考えたり、公正な判断力を養ったり、良識ある公民として必要な能力と態度を身につけます。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治・経済 〔政治分野〕 第1節 日本国憲法と現代政治のあり方	現代の日本の政治や国際政治の動向について関心をもち、基本的な人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を学習します。また、民主政治の本質について考えたり、政治についての基本的な見方や考え方を身につけます。
	5		日本国憲法の基本的性格と国会、内閣、裁判所などの政治機構を知り、政治と法の機能、人権保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義について学びます。
	6	第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方	民主政治の本質や現代政治の特質について考えたり、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方や主権者としての参政の在り方について考えます。
	7	〔経済分野〕 第3節 市場経済の機能と限界	日本経済の様子を知り、日本経済の国際化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の機能について理解します。また、経済についての基本的な見方や考え方を学習します。
	9	第4節 持続可能な財政および租税のあり方 第5節 金融を通じた経済活動の活性化 (前期末考査)	財政の機能と仕組み、租税の種類と特徴について学習します。 国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、資金の循環と金融機関の働きについて学習します。
後期	10	第6節 経済活動と福祉の向上	現代経済の特質についてや、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考えたりします。現代の日本経済及び世界経済の動向について関心をもち、日本経済の国際化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の機能について学習します。また、経済についての基本的な見方や考え方を身につけます。
	11	第2章 現代日本の諸課題の探究 第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 第1節 国際法の果たす役割	環境、平和、福祉など私たちがかかえる課題はたくさんあり、解決への道りはきびしいものばかりです。解決には、自分の幸せの追求だけでなく、共にどう生きていくのがよいのかという視点も必要です。政治・経済の基本的な知識やいろいろな視点から、望ましい解決のあり方について考えます。
	12	第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割	国際政治の動向、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の防衛を含む安全保障の問題について学びます。また、国際政治の特質や国際紛争の諸要因についてや、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考えます。
	1	第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質 第4節 国際経済において求められる日本の役割 (3・4年次生 後期末考査)	貿易の意義と国際収支の現状、為替相場の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解し、国際経済の特徴や、国際経済における日本の役割について考えます。
	2	第2章 国際社会の諸課題の探求 復習・問題演習 (2年次生 後期末考査)	社会的な見方・考え方を働かせ、他者と協働して持続可能な社会の諸課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて考えます。
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業をきちんと受けましょう。 話をよく聞いて、黒板の板書以外にも大切なことはノートに書きましょう。 ・新聞やニュースで、私たちの身の回りに起こるいろいろなできごとを、日ごろから関心をもち、知っておきましょう。 ・わからないことがあれば、そのままにせず、質問しましょう。 	1. 定期考査等:7割 2. 授業に取り組む姿勢(関心・意欲・態度)等:1割 3. 提出物:2割 以上を基準に、総合的に評価する。
備考			

年間学習計画

教科：数学

科目：数学I(新課程)

単位：3単位 (1年次生)

学習目標：方程式と不等式、二次関数及び図形と計量について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点	
前期	4	第1章 数と式	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校の数学を理解する上で最も大切なことのひとつに、いろいろな数や式についての計算能力を十分に養うことが挙げられる。また、数の構造についての理解を深めることも大切である。 ○ 中学校で学んだことを復習しつつ、式の計算を、筋の通った考え方にしながら、正しくかつ自由自在に行う能力を養う。 ○ 中学校までに学習した数を分類、統合し、実数について理解する。絶対値記号、根号を含む式の計算、分母の有理化ができるようにする。 ○ 数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、1次不等式及び連立不等式についての理解を深め、それらを活用できるようにする。 ・基礎事項の確認を第一とし、あまり難解な問題には立ち入らない。 ○ 集合の表し方、用語、記号を学び、部分集合、全体集合と補集合などの知識を通じて、集合の考え方を理解する。 ○ 命題の真偽、反例を考えることができるようにする。 ○ いろいろな証明方法を学び、論理的な思考力を養う。 	
		1. 数と式 整式 整式の加法・減法・乗法 展開の公式 因数分解 実数 根号		
	5	2. 1次不等式		
		6		不等式 不等式の性質 1次不等式の解き方 連立不等式 不等式の応用
		7		第2章 集合と命題 集合と部分集合 共通部分、和集合、補集合
	8	9		命題と集合 命題と証明
		後期		10
	11			2. 2次方程式と2次不等式 2次関数のグラフとx軸の共有点 2次不等式
	12			第4章 図形と計量 1. 三角比 鋭角の三角比 三角比の利用 三角比の相互関係・拡張
1			2. 正弦定理 余弦定理 正弦定理 余弦定理 三角形の面積	
2	第5章 データの分析 度数分布表 代表値 散らばりぐあいを表す値 分散と標準偏差 相関関係			
日常の学習についてのアドバイス			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の予習復習を大切にすること。 ・できるだけ毎日問題に取り組む。(反復練習) ・授業をよく聞き、分からないところがあれば質問をする。(放課後でも可) 			<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期考査(70%) 2. 意欲・態度等(20%) 3. 課題(10%) 4. 小テスト 以上を総合的に評価する。 	
備考	生徒の実態を考慮しながら進んでいきますので、うへの学習計画表と一部進度や内容が異なる場合があります。 通信科目の授業については上記に準じます。評価方法は、定期考査(60%)、意欲・態度・出席(20%)、レポート(20%)			

年間学習計画

教科：数学

科目：数学Ⅱ

単位：4単位（2年次生以上）

学習目標：いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	第1章 式と証明・複素数と方程式 第1節 式と証明 整式の除法と因数分解 二項定理 分数式の計算、恒等式 等式の証明、不等式の証明、相加平均と相乗平均	○ 多項式・分数式の計算を学び、理解を深める。 等式や不等式の式の証明を学ぶ。
	5	第2章 複素数と方程式 複素数、複素数の計算 2次方程式の解と判別式、解と係数の関係 剰余の定理と因数定理、高次方程式の解法	○ 負の数の平方根を理解し、複素数の四則演算を理解する。 ○ 2次方程式を解くことや、因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。
	6	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 直線上の点、平面上の点 直線の方程式、2直線の関係	○ 2点間の距離や内分点・外分点について学ぶ。
	7	第2節 円・軌跡と領域 円の方程式、円と直線、軌跡 不等式の表す領域、連立不等式と領域	○ 直線の方程式を学び、円と直線との位置関係を調べる。 ○ 平面上の点の軌跡を式で求め、どのような図形かを考える。 ○ 不等式の表す領域を理解し、図示することができるようにする。
	8 9	第4章 三角関数 第1節 三角関数 一般角、弧度法、三角関数、性質 三角関数のグラフ、三角関数の方程式・不等式	○ 一般角を動径で図示したり、度数法と弧度法の関係を学ぶ。 三角関数をグラフなどを通して性質を学び、値を求める。
後期	10	第2節 加法定理 加法定理、加法定理の応用、三角関数の合成	○ 指数について学び、累乗や、指数法則を利用した計算をする。 ○ 指数関数・対数関数のグラフの概形や特徴を知る。 ○ 具体的な事柄の考察をし、微分積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや、面積を求めることができるようになる。 3, 4年次生は後期末考査
	11	第5章 指数関数と対数関数 指数法則、指数関数とそのグラフ 対数、対数の性質、対数関数とそのグラフ 常用対数	
	12	第6章 微分法と積分法 第1節 微分法 平均変化率と極限值、接線の傾きと微分係数 導関数、微分法の公式、接線 関数の増減、極大・極小	
	1	第2節 積分法 不定積分、不定積分の計算 定積分、定積分の性質、面積の計算	
	2	2年次生は数学Ⅱの内容の復習をする	
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の予習復習を大切にする。 ・できるだけ毎日問題に取り組む。(反復練習) ・授業をよく聞き、分からないところがあれば質問をする。(放課後でも可) 			1. 定期考査(70%) 2. 意欲・態度等(20%) 3. 課題(10%) 以上を総合的に評価する。
備考	通信科目の授業については上記に準じます。 評価方法は、定期考査(60%)、意欲・態度等(20%)、レポート(20%)		

年間学習計画

教科：数学

科目：数学Ⅲ

単位：5単位（3年次生）

学習目標：数学Ⅱで学んだ関数と極限、微分法及び積分法について理解を深め、知識の習得と技能を習熟し、事象を数学的に考察し処理する能力を身に付ける。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	第1章 複素数平面	<ul style="list-style-type: none"> 数学Ⅱで学んだ複素数の1つ1つを、点として表す座標平面どうしの加法、減法、乗法、除法についての理解を深める。また、図形への応用について学ぶ。
	5	第2章 式と曲線	<ul style="list-style-type: none"> x, yについての2次方程式で表される曲線について考える。また、平面上の点を、従来のx座標、y座標を用いずに表す方法である極座標についても学ぶ。
	6	第3章 関数	<ul style="list-style-type: none"> 分数式で表される関数や、根号の中に変数を含む関数について考える。さらに、逆関数、合成関数についても学ぶ。
	7	第4章 極限 第1節 数列の極限	<ul style="list-style-type: none"> 数Bで学んだ数列の極限の値について学習する。一般項の極限が済んだら、次に「数列の和」の極限を考える。
	8 9		
後期	10	第2節 関数の極限	<ul style="list-style-type: none"> 数学Ⅱの微分法の続きで、2次式以上の関数を学習する。 これは、関数の連続という話題と関係があり、これまで学習してきた関数はすべて「連続」な関数だった。連続でない関数では、これまでの常識が成り立たないことがたくさんあることを理解させる。
	11	第5章 微分法	<ul style="list-style-type: none"> 数学Ⅱでは3次以下の有理整関数に対象にして微分法について学習した。ここでは、取り扱う関数の範囲を三角関数、指数関数、対数関数といった関数にまで広げるとともに、それらの導関数を求める手段としての合成関数、逆関数の微分法を学習する。そして、関数の増減、関数のグラフの凹凸の様子などを調べることによって関数のグラフの全体の姿をはっきりと把握できるようにする。
	12	第6章 微分法の応用	
	1	第7章 積分法 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用	<ul style="list-style-type: none"> 数学Ⅱにおいて、整式で表される関数を対象にして、微分法の逆演算としての不定積分の求め方、定積分の計算法、並びにそれらに結びつくいろいろな性質を学習した。ここでは、第3章で取り上げた積の微分法、商の微分法、合成関数の微分法なども活用し、整式で表される関数から三角関数、指数関数、対数関数、さらにいろいろな形で表される関数も含めた範囲における不定積分や定積分について学習する。さらに応用として、図形の面積、体積などを求める計算などを学習する。
	2		
<p style="text-align: center;">日常の学習についてのアドバイス</p> <p>問題を解く鍵は？・・・ 参考書で勉強した問題のパターンを思い出してその中から使えそうなパターンを選び出し、これを問題に当てはめて解く。つまり、数学もパターンの暗記が必要だということ。 勉強の仕方は？・・・ 参考書で勉強する際、少し考えてもわからない場合は、すぐに解答をみて解き方を暗記する。もちろん暗記の仕方にはコツがあり、意味も分からずに、式や数値を丸暗記するのはダメ。まず解答の意味を理解し、参考書の解答を自分で箇条書きにしてみたり、解答の要旨を文書にまとめてみる。そして道筋を暗記し、暗記ができたと思ったら、参考書を閉じて、別の紙に自力で解いてみる。これで完璧だ。</p>			<p style="text-align: center;">評価方法</p> <p>定期試験(年4回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期考査(70%) 2. 意欲・態度等(20%) 3. 課題(10%) <p>以上を総合的に評価する。</p>
備考	生徒の実態を考慮しながら進んでいきますので、うえの学習計画表と一部進度や内容が異なる場合があります。		

年間学習計画

教科：数学

科目：数学A

単位：3単位（2年次生以上）

学習目標：場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考え処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点	
前期	4	第1章 場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> ○ 与えられた条件のもとで起こりうるすべての場合を、もれなく合理的に分類・整理するという態度を育てたうえで数学との関連を学んでいく。 ○ 図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し、実生活にも役立つ学習をしていく。 ○ 具体的な例を通して、順列・組合せや確率について理解し、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考え処理する能力を育てる。 ・記号の意味をしっかりと理解させることも忘れてはいけない。そのために、プリント学習等による反復練習も行いたい。 ○ 私たちの周囲にある偶然に支配されると考えられる事柄も、実は同様の現象を数多く観察し、得られた資料を整理していくと法則性が発見される。このような偶然を科学的に活用したり、日々の生活に生かせるよう指導する。 ・記号の意味をしっかりと理解させることも忘れてはいけない。そのために、プリント学習等による反復練習も行いたい。 ○ 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考え処理できるようにする。 ○ この教科書では、具体的な数値の問題でこの図形の性質の章が構成されていることから、平面図形の諸定理やオイラーの多面体定理を、論証より実際に適応できる能力を育くむ。 ○ 空間における直線や平面の位置関係を理解し、立体の切断面を考えることで空間の問題を平面の問題に帰着して処理することができるようにする。 ・中学校までに学習した平面図形の性質を生徒がすべて把握しているとは限らないので、必要に応じて小中学校の内容も確認しながら進んでいく。 ○ 今まで学習してきた自然数、整数の体系について整理し、約数や倍数を整数の範囲で考察し、問題を処理できるようにする。 ○ 素因数分解をすることによって最大公約数や最小公倍数を求め、最大公約数や最小公倍数を利用して問題を解決できるようにする。 ○ 互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができるようにする。 ○ 割った余りに関する問題を、1次不定方程式に帰着させて解くことができるようにする。 ○ 10進法、位取り記数法、n進法、2進法について理解する。 ・身近に使用している10進法をもとに、生徒の実態に合わせて進めていく。 3, 4年次生は後期末考査 	
		5		第1節 場合の数 集合 集合の要素の個数 樹形図 和の法則 積の法則 順列 円順列と重複順列 組合せ
				第2節 確率 確率の意味 確率の計算 確率の基本性質 和事象の確率 余事象の確率 独立な試行の確率 反復試行の確率 条件付き確率
	後期	8		第2章 図形の性質
				第1節 平面図形 角の二等分線と辺の比 三角形の外心、内心、重心 三角形の 辺の比の定理 円周角の定理
		9		円に内接する四角形 円と接線 接線と弦の作る角 方べきの定理 2つの円 作図 線分の長さで作図 第2節 空間図形 空間における直線と平面 多面体
	後期	10		第3章 整数の性質
		11		第1節 約数と倍数 約数と倍数 倍数の判定法 素因数分解 最大公約数と最小公倍数 割り算における商と余り 余りによる整数の分類
				第2節 ユークリッドの互除法 ユークリッドの互除法 1次不定方程式
12		第3節 整数の性質の活用 有理数の小数表現 n進法		
1		2年次生は数学Aの内容の復習をする		
2				
日常の学習についてのアドバイス			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の予習復習を大切に。 ・できるだけ毎日問題に取り組む。(反復練習) ・授業をよく聞き、分からないところがあれば質問をする。(放課後でも可) 			1. 定期考査(70%) 2. 意欲・態度等(20%) 3. 課題(10%) 以上を総合的に評価する。	
備考	生徒の実態を考慮しながら進んでいきますので、うえの学習計画表と一部進度や内容が異なる場合があります。 通信科目の授業については上記に準じます。 評価方法は、定期考査(60%)、意欲・態度等(20%)、レポート(20%)			

年間学習計画

教科：数学

科目：数学B

単位：2単位（2年次生以上）

学習目標：数列、ベクトル、統計または数値計算について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 ベクトルの和 ベクトルの差 ベクトルの実数倍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大きさと向きをもつ量をベクトルという。ベクトルの演算と性質について学び、数式の演算方法との類似点を考察しようとする。 ○ 成分表示されたベクトルの内積を求められる。 ○ ベクトルの平行、垂直条件を理解し、計算に利用できる。 ○ ベクトルで表された等式を、位置ベクトルを用いた証明に取り組む。 ○ 直線のベクトル方程式を学び、直線上の点を位置ベクトルで考察する。 ○ 空間における図形を、図や座標を利用して示す。 ○ 平面的ベクトルの拡張として、空間のベクトルをとらえる。 ○ ベクトルの内積を平面から空間に拡張して考える。 ○ ベクトルの性質が、平面の場合と同じことを理解して、利用する。 ○ 数列について知り、表記できる。 ○ 等差数列・等比数列の隣接する項の関係を知り、数列の一般項を求めることができる。 ○ 数列の和をΣを用いて表し、簡単に計算できる。 ○ 階差数列を利用して、数列の一般項を求めることができる。 ○ 漸化式の意味を理解し、項が求められる。 ○ 数学的帰納法を利用して、証明に取り組む。
	5	ベクトルの成分と演算 ベクトルの内積	
	6	ベクトルの平行 ベクトルの垂直 内積の性質	
	7	第2節 ベクトルと平面図形 位置ベクトル ベクトルと図形 ベクトル方程式	
	8	第2章 空間のベクトル 空間の座標 空間のベクトル・成分と演算	
後期	9	空間のベクトルの内積 位置ベクトル・空間図形への応用	
	10	第3章 数列 第1節 数列とその和 数列 等差数列と等差数列の和 等比数列と等比数列の和 和の記号 Σ いろいろな数列の和 階差数列と一般項	
	11	第2節 漸化式と数学的帰納法 漸化式と一般項	
	12	数学的帰納法	
	1	2年次生は数学Bの内容の復習をする	
2		3, 4年次生は後期末考査	
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の予習復習を大切にする。 ・できるようになるまで反復練習をする。 ・授業をよく聞き、分からないところがあれば質問をする。 	1. 定期考査(70%) 2. 意欲・態度等(20%) 3. 課題(10%) 以上を総合的に評価する。
備考	生徒の実態を考慮しながら進んでいきますので、うえの学習計画表と一部進度や内容が異なる場合があります。		

年間学習計画

教科：理科

科目：科学と人間生活

単位：2単位（1年次生）

学習目標：自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点	配当時間等
前期	4	1章 科学と技術の発展	科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解すること。	35
	5	2章 物質の科学	※1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。	
		1節 材料とその再利用	身近な材料であるプラスチックや金属の種類、性質及び用途と資源の再利用について理解すること。	
		1. 生活の中のさまざまな物質 2. 金属 3. プラスチック 4. セラミック		
	6	2節 食品と衣料	身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について理解すること。	
7	3章 生命の科学	※1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。		
8	1節 ヒトの生命現象	植物の生育、動物の行動及びヒトの視覚と光とのかかわりについて理解すること。		
	1. 私たちの生活環境と眼 2. ヒトの生命活動と健康の維持 3. ヒトの生命現象とDNA			
9	2節 微生物とその利用	様々な微生物の存在と生態系での働き、微生物と人間生活とのかかわりについて理解すること。		
後期	10	2. 微生物の利用 3. 生態系での微生物		35
	11	4章 光や熱の科学	※1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。	
		1節 熱の性質とその利用	熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について理解すること。	
	12	2節 光の性質とその利用	光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解すること。	
		1. 光 2. 電磁波の利用	※1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。	
1	5章 宇宙や地球の科学	太陽や月などの身近に見られる天体と人間生活とのかかわりに、太陽系における地球について理解すること。太陽・月・地球の位置関係や地球の自転が潮汐にかかわっていることを理解すること。		
2	1節 太陽と地球			
2	1. 太陽系の天体と人間生活 2. 潮汐と人間生活 3. 太陽と放射エネルギー			
	2節 身近な自然景観と自然災害	身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、太陽の放射エネルギーによる作用や地球内部のエネルギーによる変動と関連付けて理解すること。		
		6章 これからの科学と人間生活	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、そのかかわり方について考える。	35
日常の学習についてのアドバイス				評価方法
<p>・日常生活で利用する家電製品や光や電気などのエネルギーについて、科目の内容との関連性に注目することで理解をより深めることができます。</p> <p>・教科書の中に出てくる生物や地形は、私たちが生活する身近な場所に存在します。実物を観察するように心がけましょう。</p>			<p>【評価の基準】</p> <p>定期考査の平均点×0.7+平常点(30点)</p> <p>※平常点(小テスト・提出物・授業態度等)</p> <p>以上を総合的に評価する。</p>	計70
備考	<p>使用教科書【科学と人間生活 実教出版】</p> <p>・通信科目の授業については上記に準じるとともに、レポートの提出と成績が重要となる。</p>			

年間学習計画

教科 : 理科

科目 : 物理基礎

単位 : 3単位 (2年次生以上)

学習目標 : 物理的な事象・現象について、探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	
		章・節		
前期	4	1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界	・運動している物体のようすを表すのに必要な物理量について理解する。 ・等速直線運動の $x-t$ グラフや $v-t$ グラフの特徴について理解する。 ・実験結果をもとに、速度と時間の関係を見いだす。	
		5	・自由落下運動のようすを表す式について、等加速度直線運動の式から導けることを理解する。 ・投げた物体のようすをグラフで表すときの軸の取り方と式の間を知る。 ・水平投射、斜めに投げ上げた物体の運動について理解を深める。	
			2章 力と運動の法則	・力の3要素について理解し、必要に応じ演習を通して、力の合成と分解のしかたの理解を深める。 ・身近な例を通して面から受ける力について考える。ばねの伸びや縮みとはたらく力の大きさについて理解する。 ・身近な例をもとに、慣性の法則について理解する。
	7	・物体にはたらく力、物体に生じる加速度、物体の質量についての関係(運動の法則)と運動方程式について理解し、ニュートンの運動の3法則について知る。 ・綱引きを例に、動摩擦力の学習をもとにして、物体が静止しているときの摩擦力に気付く。 ・アルミニウムカップを用いて、重さと空気抵抗の関係を実感する。船の例をもとに、水深と水圧、大気圧について理解する。		
		3章 力学的エネルギー	・日常生活の中で使用するエネルギーに着目し、考える。 ・荷物を持って階段を上がることを例に、仕事や仕事の効率について考える。 ・身の回りの現象を例に、運動エネルギーや位置エネルギーについて考える。	
	後期	10	・運動エネルギーと位置エネルギーが移り変わる運動について定量的な実験を行い、力学的エネルギーとの関係について理解する。 ・必要に応じ、演習を通して、力学的エネルギー保存の法則について理解を深める。	
			2編 さまざまな物理現象とエネルギー	
		11	1章 熱	・温度が熱運動の激しさを表し、熱がエネルギーであることについて理解する。 ・調理などで使用される器具などをもとに、熱量の保存や身のまわりのものと比熱容量の関係について考える。 ・熱を加える以外にも内部エネルギーを大きくすることができことや、熱効率について理解する。
			12	2章 波
1		3章 電気		・電流と電気抵抗、回路、電圧と電気抵抗について理解する。 ・家庭用コンセントを例に、磁力や磁場、直流と交流について理解する。 ・電磁波が身近なところでどのように利用されているか考える。
		2	4章 エネルギーとその利用	・エネルギー保存の法則について理解する。 ・放射能と放射線について理解し、エネルギー資源をどのように利用していくべきか考える。
2年次生の学習内容 演習・実験を行う			・知識を定着させ、理解を深める。	
日常の学習についてのアドバイス			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の予習復習を大切にする。 ・授業をよく聞き、わからないことがあれば質問をする。 			【評価の基準】 定期考査の平均点 $\times 0.7$ +平常点(30点) ※平常点(小テスト・提出物・授業態度等) 以上を総合的に評価する。	
備考	使用教科書【新編 物理基礎 東京書籍】 ・小グループでの学習活動を行う場合があります。			

年間学習計画

教科：理科

科目：化学基礎

単位：3単位（2年次生以上）

学習目標：化学的な事象・現象について、探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

学期	月	学習内容 編・章・節	学習上の目標と留意点など	
前期	4	1編 科学と人間生活 1章 化学とは何か 身のまわりのさまざまな化学 2章 物質の成分と構成元素 1節 物質の成分	<ul style="list-style-type: none"> ・物質には性質があり、私たちはそれを利用して生活していることを理解する。 ・純物質と混合物の性質を理解する。 ・混合物を純物質に分離する方法を理解する。 	
		2節 物質の構成元素 3節 物質の三態	<ul style="list-style-type: none"> ・物質は約120種類の元素からつくられていることを理解する。 ・純物質（単体と化合物）・同素体・炎色反応（元素を確認）について理解する。 ・物質には三態があることを理解し、三態における熱運動について推察する。 ・物理変化・化学変化・状態変化の違いを理解する。 	
	6	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表 1節 原子の構造 2節 電子配置と周期表	<ul style="list-style-type: none"> ・物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 ・原子の構造（陽子・中性子・電子）について理解する。 ・原子の電子配置について理解する。 ・元素の周期表を理解し、元素の性質の規則性について考察する。 	
		2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合 2節 分子と共有結合	<ul style="list-style-type: none"> ・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオン化エネルギー、イオン結合、イオン結晶の性質を理解する。 	
	7	3節 金属と金属結合 4節 化学結合と物質の分類	<ul style="list-style-type: none"> ・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合、分子式や構造式、分子の極性、共有結合の結晶について理解する。 ・金属結合、金属の性質とその利用について理解する。 ・化学結合と結晶の分類についてまとめる。 	
		3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量 2節 物質質量	<ul style="list-style-type: none"> ・原子量・分子量・式量について理解する。 	
8・9		3節 溶液の濃度	<ul style="list-style-type: none"> ・単位としての物質質量を理解し、物質質量と粒子の数・質量・気体の体積の関係を理解する。 ・質量パーセント濃度を理解する ・モル濃度を理解する 	
後期	10	4節 化学反応の表し方 5節 化学反応式の表す量的関係	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応式、イオン反応式の書き方を理解する。 ・化学反応式の表す量的な関係について理解し、反応前後で変化する物質の質量や体積を予想する。 	
		2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度とpH	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の性質、酸と塩基の定義について理解する。 ・酸と塩基の価数、酸と塩基の強弱について理解する。 ・pHの表す数値の意味について理解し、酸性、塩基性の強弱の表し方を学ぶ。 ・pHの指示薬とpHの測定について理解する。 	
	12	3節 中和反応と塩の生成 4節 中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の組み合わせで、どのような化学反応式が起こるか理解する。 ・塩の種類について理解する。 ・中和反応の量的関係について理解する。 ・中和滴定の操作について理解する。 ・滴定曲線について理解する。 	
		3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素、水素、電子の授受と酸化、還元について理解する。 ・酸化数と酸化還元反応について理解する。 ・酸化剤と還元剤の定義について理解する。 ・酸化剤と還元剤のイオン反応式の作り方を理解する。 ・電子の授受と酸化還元反応式について理解する。 ・酸化剤と還元剤の働きの違いについて理解する。 ・酸化還元滴定について理解する。 	
	2	3節 金属の酸化還元反応 4節 酸化還元反応の応用	<ul style="list-style-type: none"> ・金属のイオン化傾向について理解する。 ・金属の反応性について理解する。 ・電池のしくみについて理解する。 ・金属の製錬について理解する。 ・電気分解について理解する。 	
	2	2年次生の学習内容 演習・実験を行う。		○知識を定着させ、理解を深める。
	日常の学習についてのアドバイス			評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の予習復習を大切にす。 ・授業をよく聞き、わからないことがあれば質問をする。 			<p>【評価の基準】 定期考査の平均点×0.7+平常点(30点) ※平常点(小テスト・提出物・授業態度等)</p> <p>以上を総合的に評価する。</p>	
備考	使用教科書【新編 化学基礎 東京書籍】 ・小グループでの学習活動を行う場合があります。			

年間学習計画

教科：理科

科目：生物基礎

単位：3単位（2年次生以上）

学習目標：生物の多様性と共通性や遺伝子DNAの構造や働きについて理解する。また、動物の生命の維持システムと植物の生活と環境との関係、生態系とその保全についても考える。

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など
前期	4	第1章 生物の特徴 探究的な学習の進め方 観察・実験・調査の手引き 第1節 生物の共通性	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な探究の流れを理解する ・光学顕微鏡の操作を理解する ・多様な生物の共通性を見いだす(観察1) ・生物にみられる3つの共通性を理解する ・生物の共通性は起源が共有されるものであると考察できる
		第2節 生物のエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・原核生物と真核生物にみられる細胞構造と細胞小器官の特徴を理解する ・生命活動におけるエネルギーの重要性を理解する ・ATPの構造とその役割を資料から読み取ることができる ・カタラーゼの触媒作用が理解できる
	6	第2章 遺伝子の働き 第1節 遺伝情報とDNA	<ul style="list-style-type: none"> ・光合成と呼吸の過程をATPを作り出すたり消費したりする過程に結び付けて理解する ・身近な材料を用いてDNAを抽出する ・DNAの塩基の相補的な結合を示した資料からDNAの構造の特徴を見だし、DNAの基本的な構造を理解する ・玉ねぎの根端資料を用いて、細胞周期を理解する
		第2節 遺伝情報とタンパク質合成	<ul style="list-style-type: none"> ・生体内には多種多様なタンパク質が存在し、酵素などとしてさまざまな働きをしていることを理解する。 ・DNAの塩基配列がmRNAの塩基配列に写し取られ(転写)、これがアミノ酸配列に置き換えられる(翻訳)という流れを理解する。
	8・9		<ul style="list-style-type: none"> ・全遺伝子が常に発現しているのではなく、細胞によって発現する遺伝子が異なっていることを理解する。
後期	10	第3章 ヒトのからだの調節 第1節 からだの調節と情報の伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 ・からだには体内環境の変化を情報として伝達するしくみがあることを見いだし、自律神経系と内分泌系による調節について理解する。(運動前後の心拍数の変化測定やチロキシンの分泌調節を例に理解する。) ・糖尿病の原因と症状について理解する。
			<ul style="list-style-type: none"> ・体温調節のしくみについて理解する。
	12	第2節 免疫	<ul style="list-style-type: none"> ・血液凝固のしくみと体内環境の維持との関係について理解する。 ・生体防御について理解する。 ・資料から、白血球の役割について理解を深める。 ・自然免疫と獲得免疫の病原体排除の流れを理解する。 ・二次応答について、資料をもとに同じ感染症にかかりにくい理由を考察する。 ・身近な免疫に関する疾患や医療方法について理解する。
			<ul style="list-style-type: none"> ・植生は、相観によって3つに大別され、森林・草原・荒原の特徴を理解する。 ・グラフを通じて光の強さと光合成速度の関係を、グラフを通じて理解する。 ・植生は不変ではなく、遷移していることを調査結果をもとに考察し、理解する。 ・湿生遷移、二次遷移について理解する。 ・現存するバイオームと、その地域における気温や降水量の分布を対応させた資料から、多様なバイオームがみられることを理解する。
	2	第2節 生態系とその保全	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌生態系を構成する生物の観察から、身近な環境でみられる生物の種の多様性に気づく。 ・生態系の種の多様性や個体数は環境と密接に関係していることを理解する。 ・食物連鎖を通じて間接的に他生物に影響を与えることがあることを理解する。 ・キーストーン種によって生態系のバランスが保たれている場合があることを理解する。
		2年次生の学習内容 演習・実験を行う	<ul style="list-style-type: none"> ○知識を定着させ、理解を深める。
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・1時間1時間の授業を大切にしましょう。復習は、教科書を繰り返し読むこと。 ・医療・看護系の進路を志す生徒は、「生物基礎」を修得後、「生物」を履修することを勧めます。 			<p>【評価の基準】 定期考査の平均点×0.7+平常点(30点) ※平常点(実験レポート・授業態度等)</p> <p>以上を総合的に評価する。</p>
備考	使用教科書【高等学校 新生物基礎 第一学習社】 ・小グループでの学習活動を行う場合があります。		

年間学習計画

教科 : 理科

科目 : 地学基礎

単位 : 3単位 (2年次生以上)

学習目標 : 地学的な事物・現象について、探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など
前期	4	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球	・地球の概観について学び、その内部構造について理解する
		第1節 地球の概観	
		第2節 地球の内部構造	
	5	第2章 活動する地球 第1節 プレートテクトニクスと地球の活動	・プレートと地球の活動について学び、地質構造、変成岩の形成、地震、火山活動、火成岩の形成について理解する。
		第2節 地震	
		第3節 火山活動と火成岩の形成	
	6		【第4部 自然と共生:第2節 地震災害】
			【第4部 自然と共生:第2節 火山災害】
	7	第2部 大気と海洋 第1章 大気構造 第1節 大気圏	・大気の層構造および水と気象の関係について学ぶ
		第2節 水と気象	
	8・9	第2章 太陽放射と大気・海洋の運動 第1節 地球のエネルギー収支	・地球全体のエネルギー収支について理解し、大気の大循環や海水の循環について学ぶ
後期	10	第2節 大気の大循環	・日本で見られる冬から春、夏から秋への季節の気象について学ぶ
		第3節 海水の循環	
		第3章 日本の天気 第1節 日本の位置	
	11	第2節 冬から春の天気	【第4部 自然と共生:第3節 気象災害】
		第3節 夏から秋の天気	
		第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生 第1節 宇宙の誕生	
	12	第2節 太陽系の誕生	・宇宙のはじまりの様子や太陽系の誕生、および太陽系の各天体の特徴について学ぶ
	1	第2章 地球と生命の進化 第1節 先カンブリア時代	・古生物の変遷と地球環境の変化について学ぶ
		第2節 顕生代	
		第3章 地球史の読み方 第1節 地層からわかること	
	2	第2節 地層の形成 第3節 地層の読み方	・堆積岩とその形成や地層について学び、地球の歴史の組み立てについて理解する
第4部 自然との共生 第1節 地球環境と人類			
第4節 災害と社会 第5節 人間生活と地球環境の変化			
2	2年次生の学習内容 演習・実習を行う。	○知識を定着させ、理解を深める。	
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の予習復習を大切にする。 ・授業をよく聞き、わからないことがあれば質問をする。 			【評価の基準】 定期考査の平均点×0.7+平常点(30点) ※平常点(小テスト・提出物・授業態度等) 以上を総合的に評価する。
備考	使用教科書【高等学校地学基礎 啓林館】 ・小グループでの学習活動(実習等)を行う場合があります。		

年間学習計画

教科：理科

科目：化学

単位：4単位（3年次生以上）

学習目標：化学的な事物・現象について、探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

学期	月	学習内容(無機分野と有機分野を同時進行で)	学習上の目標と留意点
前期	4	第1編 物質の状態 物質の三態と状態変化 気体の性質 溶液の性質	<ul style="list-style-type: none"> ○ 状態変化に伴うエネルギーの出入りや物理的性質と化学結合を学ぶ。 ○ 気体の体積と圧力・温度の間に成り立つ法則などを学ぶ。 ○ 溶解のしくみや希薄溶液の性質、コロイド粒子の溶液について学ぶ。 ○ 結晶の成り立ちを理解し、その構造と種類について学ぶ。
	5	化学結合と固体の構造	
	6	第2編 化学反応とエネルギー 化学反応と熱・光 電池と電気分解	
	7	第3編 化学反応の速さと平衡 化学反応の速さ 化学平衡	
	8		
	9		
後期	10	第4編 無機物質 周期表と非金属元素 金属元素(典型元素) 金属元素(遷移元素)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 元素の分類と周期表、非金属元素についてなどを学習する。 ○ 典型元素の単体や化合物について学習する。 ○ 鉄や銅などの身近なものや、触媒など重要な遷移元素を学習する。
	11	第5編 有機化合物 有機化合物の特徴と構造 炭化水素	
	12	アルコールと関連化合物 芳香族化合物 有機化合物と人間生活	
	1		
	2	第6編 合成高分子化合物	
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の予習復習を大切にす。 ・ノートをしっかり取る。 ・授業をよく聞き、わからないことがあれば質問をする。 			<p>【評価の基準】 定期考査の平均点×0.6～0.7+平常点 ※平常点(小テスト・提出物・授業態度等)</p> <p>以上を総合的に評価する。</p>
備考	<p>使用教科書【改訂 新編化学 東京書籍】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学基礎の習熟度により学習内容の順番を変更する場合があります。 ・小グループでの学習活動(実験・実習等)を行う場合があります。 		

年間学習計画

教科：理科

科目：生物

単位：4単位（3年次生以上）

学習目標：前期は、生物体がどのような物質によって成り立っているのか、またDNAの遺伝情報の発現のしくみについて理解する。後期は、生物と環境のかかわりや生態系、さらに地球の歴史とともに生物がどのように進化してきたのかを理解する。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点	
前期	4	1編 生命現象と物質 1章 生物物質と細胞 2章 生命現象を支えるタンパク質	生物を構成する細胞は、様々な物質からできており、特にタンパク質は重要な働きをしている。この章では、タンパク質の分子構造をはじめ、細胞を構成する様々な分子の働きについて理解する。	
		3章 代謝とエネルギー	生物は呼吸や光合成などを行うことによって、生命活動に必要なエネルギーを獲得している。この章では、主に代謝の代表的な例であるこれらのしくみをエネルギーの変換の観点から理解する。	
	6	2編 遺伝子のはたらき 1章 DNAの構造と複製 2章 遺伝情報の発現 3章 遺伝子の発現調節 4章 バイオテクノロジー	DNAの遺伝情報が発現してタンパク質が合成されるが、その発現は組織や時期に応じて精妙に調節されている。この編では、遺伝情報の発現とその調節のしくみ、遺伝情報の変化による形質への影響とゲノムの多様性について理解する。	
		7	3編 生殖と発生 1章 多様な個体が生じる有性生殖 2章 動物の発生	生物は両親から引き継いだ遺伝情報をもとに、たった1個の受精卵から、複雑な構造をもつ新しい個体を形成する。この編では、生殖によって多様な遺伝的組み合わせが生じるしくみ、生物の初期発生の過程とそこで見られる細胞間の相互作用などについて理解する。また、バイオテクノロジーと私たちのくらしとの具体的なかかわりについて学習する。
			3章 動物の発生のしくみ 4章 植物の発生	
		後期	10	4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激の受容と反応 2章 動物の行動
	3章 植物の環境応答			植物は、動物のようにからだを自由に動かしたり移動したりすることができない。そのため、自分を取り巻く外界から様々な刺激を受け取り、それに応じて自らの成長を調節することで生命活動を営んでいる。この章では、植物が環境からどのように刺激を受け取り、それに対してどのような反応が現れるのかを理解する。
	12		第5編 生態と環境 1章 生物の多様性と生態学 2章 個体群と生物群集 3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 4章 生態系と生物多様性	地球上には様々な環境があり、その中で同種の生物どうし、また、異種の生物どうしが互いにかかわりあいながら生活している。この編では、生態系の中で、人間とほかの生物とのかかわりの含め、多様な生物が共存している様子やそのしくみを理解する。
			1	6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物変遷 2章 進化のしくみ 3章 生物の系統
2				
日常の学習についてのアドバイス			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・1時間1時間の授業を大切に、教科書を読むことで内容をよく理解しましょう。 ・理系・医療系の進学を志す生徒は、授業では扱うことのない発展的な内容の理解も重要です。教科書の発展部分もよく読み、内容の理解に努めましょう。 			<p>【評価の基準】</p> <p>定期考査の平均点×0.6～0.7+平常点</p> <p>※平常点(実験レポート・授業態度等)</p> <p>以上を総合的に評価する。</p>	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「生物基礎」を履修していること。 使用教科書【スタンダード生物 東京書籍】 ・探究活動として、実験実習にグループに分かれて取り組む場合があります。 			

年間学習計画

教科：外国語

科目：コミュニケーション英語 I

単位：3単位（1年次生）

学習目標：英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

学期	月	課	学習内容	学習のねらい	主な言語材料	学習上の留意点
前期	4 5	L.1	Kerama Blue	・沖縄県慶良間諸島の海にあるサンゴ礁が果たす役割について知る。	・be 動詞 ・一般動詞	・be 動詞や一般動詞の現在形を用いて、身近な様子や状況を描写し、相手に伝えられるようにする。
		L.2	Cool Japan	・ふだんは気づかない身近にある日本の魅力について考える。	・疑問文 ・現在進行形	・疑問文では、疑問詞を用いる場合、用いない場合でその答え方が違うことに留意する。
		L.3	Mexican Dishes	・日本でも見られるようになったメキシコ料理はどのようにして特色ある食文化となったかを知る。	・助動詞 ・過去形	・助動詞の意味の違いに注意する。 ・一般動詞の過去形では、語尾の形やその発音の違いに注意する。
	6 7 8 9	L.4	The Olympics	・近代オリンピックの発祥と過去のユニークなオリンピック競技や意義を知る。	・SVO(= that~) ・SVOO, SVOC	・I think that ~ の構文を使って自分の考えを言えるようにする。 ・動詞のあとの語順に注意する。
		L.5	Baobabs in Madagascar	・バオバブが直面している問題を知り、どうしたら保護できるかを考える。	・不定詞	・不定詞の意味の使い分けに慣れる。
		L.6	Toothbrushing in Edo	・江戸時代の生活習慣（歯磨き）について知る。	・動名詞	・日本文化を英語で紹介する。 ・動詞と動名詞の違いに注意する。
後期	10 11	L.7	Machu Picchu	・マチュピチュの建物の特徴や遺跡に隠された謎と魅力について知る。	・現在完了形	・動詞の過去分詞形に慣れる。 ・現在、過去、現在完了を使い分けられるようにする。
		L.8	Motala and Landmines	・人間のおこなっていることのような面をモタラの話が象徴しているかを考える。	・受け身	・能動態と受け身の違いに留意する。
		L.9	Dick Bruna	・「ミッフィー」でおなじみの画家ディック・ブルーナの社会的役割を知る。	・関係代名詞	・関係代名詞の主格・目的格の使い分けに注意する。
	12 1 2	L.10	Tsujii, the Great Pianist	・辻井伸行さんのインタビューを通して、偉業を達成するためには何が大切かを考える。	・関係副詞 ・形式主語 It	・関係副詞を用いて、自分にとって特別な日や場所について説明してみる。 ・形式主語 It を用いて、何をすることが重要だと思うかを述べてみる。
		L.11	Ideas from Nature (3,4年次生ここまで)	・自然界からヒントを得て作られたものが私たちの暮らしを便利にしていることを知る。	・分詞構文	・分詞構文を利用して、読み手や聞き手の注意を引く表現ができるようにする。
		L.12	Steve Jobs	・世界に革命をもたらしたスティーブ・ジョブズについてのブログから彼の語った言葉の意味について考える。	・仮定法過去	・仮定法過去を使って、自分の考えなどを述べるができるようにする。
日常の学習についてのアドバイス					評価方法	
<p>○授業を大切に取り組みましょう。</p> <p>○家庭での復習を心がけ、覚えたことを定着させましょう。</p> <p>○英語の音を注意深く聞き、発音できるように音読をしましょう。</p> <p>○覚えた単語や文を使って英文を書き、英語の文字に慣れましょう。</p>					<p>1. 定期テスト 70% 2. スピーキング・ライティングテスト10%</p> <p>3. 提出物 10% 4. 授業への取り組み 10%</p> <p>以上を総合的に評価する。</p>	
備考						

年間学習計画

教科： 外国語

科目： コミュニケーション英語Ⅱ

単位： 4単位（2年次生以上）

学習目標： 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

学期	月	課	学習内容	学習のねらい	主な言語材料	学習上の留意点
前期	4 5 6	L.1	Birthdays, Here and There	・3つの国の誕生日の祝い方から文化の違いを知る。	・疑問詞で始まる節 ・ifで始まる節	・疑問詞やifで始まる節を用いて、疑問や不明であることを伝えられるようにする。
		L.2	The Emerald Isle	・アイルランドの言語や文化、日本との共通点を知る。	・原級を用いた比較 ・比較級	・比較の表現を用いて、さまざまなものを比べられるようにする。
		L.3	The Sagrada Familia	・世界遺産サグラダファミリアの設計と自然との関係を知る。	・名詞を修飾する過去分詞 ・名詞を修飾する現在分詞	・過去分詞と現在分詞を使い分けられるようにする。
	6 7 8 9	L.4	Nobel Prize Episodes	・国際的権威のある賞の1つ、ノーベル賞についてのこぼれ話を知って関心を深める。	・知覚動詞 ・tell ~ to do	・知覚動詞の形に慣れる。 ・tell ~ to doなどの形に慣れる。
		L.5	Flowers in the Tomb	・ハワード・カーターがツタンカーメンの墓で最も美しいと思ったのは何だったかを知り、その理由を考える。	・使役動詞 ・関係代名詞 what	・使役動詞の形に慣れる。 ・関係代名詞 what の使い方に慣れる。
後期	10 11	L.6	Becoming the Best	・錦織圭選手へのインタビューから世界で活躍する秘訣を学ぶ。	・how to do ・It seems that ~.	・疑問詞と不定詞の組み合わせに慣れる。 ・seem の用法に慣れる。
		L.7	The Galapagos Islands	・今、ガラパゴス諸島に起こっていることは何かを知る。	・現在完了進行形 ・形式目的語 it	・現在完了形と現在完了進行形を使い分けられるようにする。 ・形式主語 it と形式目的語 it の違いを理解する。
		L.8	Shodo, Old and New	・伝統文化を新しいスタイルで発展させることについて考える。	・部分否定 ・can be done	・部分否定の訳し方に注意する。 ・さまざまな助動詞+受け身の形に慣れる。
	12 1	L.9	Water World	・昔の水族館、現代の水族館について知り、また現代技術の果たした役割を考える。	・関係代名詞の非制限用法 ・have been done	・関係代名詞の制限用法と、非制限用法を使い分けられるようにする。 ・さまざまな現在完了形+受け身の形に慣れる。
		L.10	A Long Friendship (3,4年生ここまで)	・日本とトルコの友好関係を知り、協調、共生のためにはどんな心がけが必要かを考える。	・過去完了形 ・強調構文	・現在完了形と、過去完了形を使い分けられるようにする。 ・強調構文の形に慣れる。
	2	Enjoy Reading	I'm afraid of Manjyu!	・古典落語「まんじゅうこわい」を英語で鑑賞する。	・相槌、聞き返しなど、コミュニケーションを円滑にする表現	・話の流れのポイントを押さえながら読み進めるようにする。
日常の学習についてのアドバイス					評価方法	
<p>○授業を大切に取り組みましょう。</p> <p>○家庭での復習を心がけ、覚えたことを定着させましょう。</p> <p>○英語の音を注意深く聞き、発音できるように音読をしましょう。</p> <p>○覚えた単語や文を使って英文を書き、英語の文字に慣れましょう。</p>					<p>1.定期考査 70%</p> <p>2.スピーキング・ライティングテスト 10%</p> <p>3.提出物 10% 4.授業への取り組み 10%</p> <p>【S5】</p> <p>1.定期考査 70% 2.レポート 20%</p> <p>3.提出物 5% 4.授業への取り組み 5%</p> <p>以上を総合的に評価する。</p>	
備考	通信科目(S)は上記の学習計画に準じる。					

年間学習計画

教科：外国語

科目：コミュニケーション英語Ⅲ

単位：4単位（3年次生以上）

学習目標：英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	Lesson 1 Mystery Circles under the Sea [題材内容] 海底にできたミステリーサークルの意外な作成者について読む。 [言語材料] 動詞の現在形・過去形 [言語活動] 生き物について、写真を示しながらその特徴を英語で述べる。	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする姿勢を身に付ける。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解できるようになる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができるようになる。 4. 言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができるようになる。
	5	Lesson 2 Gifts to Barcelona [題材内容] ガウディの建築物の特徴を理解する。 [言語材料] 現在完了形: <have + 過去分詞> [言語活動] 建築物について、その特徴をあげて英語で述べるができる。	
	6	Lesson 3 Images on Coins [題材内容] ユーロ硬貨に描かれている絵にはどのような意味があるのかを理解する。 [言語材料] 不定詞・動名詞 [言語活動] 国や地域を象徴するものについて、例をあげて英語で述べるができる。	
	7	Lesson 4 Witnesses of War [題材内容] 第2次世界大戦中の広島で路面電車の運転手だった小西幸子さんの経験を学ぶ。 [言語材料] 受け身 [言語活動] 訪れた場所で経験したことや考えたことについて、まとまりのある文章を英語で書く。	
	8	Lesson 5 Love Letters [題材内容] ハナさんが開設したウェブサイトではどのようなサービスをなぜ提供しているのかを理解する。 [言語材料] 関係代名詞 [言語活動] 自分の考えや思いを伝える手紙を、英語で書く。	
	9	Lesson 6 The Natural Treasures of Ogasawara [題材内容] 2011年に世界自然遺産に登録された小笠原諸島の特別さや課題について学び自然との共生について考える。 [言語材料] 仮定法過去 [言語活動] 自然環境との共生について、自分の意見を論理的に英語で述べる。	
	10	Lesson 7 The Terracotta Warriors [題材内容] 中国の「兵馬俑」の特徴や秦の始皇帝の墓について読み、史跡発掘の状況を把握する。 [言語材料] 使役動詞make [言語活動] 史跡について、まとまりのある文章を英語で書く。	
	11	Lesson 8 The Journey of Our Clothes [題材内容] 誰が服を作っているのかを知り、服と人権とのかかわりを理解する。 [言語材料] 後置修飾の分詞 [言語活動] 社会問題について、自分の意見を論理的に英語で述べる。	
	12	Lesson 9 Challenges for the Future [題材内容] 再生可能エネルギーの可能性について、コスタリカの例をもとに考える。 [言語材料] 比較表現 [言語活動] エネルギー問題について、国や地域を比較して英語で述べる。	
	1	Lesson 10 The Story of Ruby Bridges [題材内容] ルビー・ブリッジズさんが自ら語る、彼女の経験と彼女がアメリカの公民権運動に与えた影響について理解し考える。 [言語材料] 分詞構文 [言語活動] 社会に影響を与えた人物について、まとまりのある文章を英語で書く。	
2			
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		○授業を大切に取り組みましょう。 ○授業をよく聞き、分からないところがあれば先生に質問をしましょう。 ○家庭での復習を心がけ、覚えたことを定着させましょう。 ○教科書の音読をしっかりとしましょう。	1. 定期考査 70% 2. スピーキングテスト 10% 3. ライティングテスト 10% 4. 授業への取り組み 10% 以上を総合的に評価する。
備考			

年間学習計画

教科 : 外国語

科目 : 英語表現 I

単位 : 2 単位 (2 年次生以上)

学習目標 : 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前 期	4	Lesson 1 Hello, Everyone! 「自己紹介」 肯定文・否定文 (be動詞/一般動詞)	<p>○与えられた話題について、即興で話す。</p> <p>また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。</p> <p>○読み手や目的に応じて、簡潔に書く。</p> <p>○聞いたり、読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。</p>
		Lesson 2 She Is from Canada 「留学生」 疑問文/命令文	
		Lesson 3 My School Life 「学校生活」 S+V/S+V+C	
		Lesson 4 We Enjoy Club Activities 「クラブ活動」 S+V+O/S+V+O1+O2	
		Lesson 5 My Hobby 「趣味・余暇」 S+V+O+C / There is..., There are ...	
	6	Lesson 6 My Trip to Australia 「旅行」 現在形・現在進行形/過去形・過去進行形	
		Lesson 7 Today's Weather Forecast 「天候・気候」 will, be going to 未来を表す現在形・現在進行形	
		Lesson 8 Let's Have a Party! 「パーティー」 現在完了形(完了・結果)/現在完了形(経験・継続)	
		Lesson 9 Let's Enjoy Cooking! 「料理」 can, may / must, have to	
		Lesson 10 What's the Matter? 「健康・病気」should / Will you ~?, Shall I ~?, Shall we ~?	
		Lesson 11 A Great Ballpark 「スポーツ」 受動態(現在・過去)/受動態(未来)	
後 期	10	Lesson 12 I Like Movies 「映画」 by以外の前置詞を用いる受動態/感情を表す受動態	
		Lesson 13 Online Information 「情報」 to不定詞(名詞用法)/ It is...to ~	
		Lesson 14 Out of Fashion 「ファッション」 to不定詞(形容詞用法)	
		Lesson 15 My Father Is a Good Cook 「家事・生活」 to不定詞(副詞的用法:目的、感情の原因・理由)	
		Lesson 16 School Festival 「文化祭」 want [ask,tell]+O+to~/ 疑問詞+to~	
		Lesson 17 Doing a Homestay 「ホームステイ」 動名詞/前置詞+動名詞	
		Lesson 18 Our National Sport 「日本文化」 現在分詞の形容詞用法/過去分詞の形容詞用法	
	1	Lesson 19 Let's Clean the River! 「ボランティア」 比較(原級)/比較(比較級)	
		Lesson 20 Events in My Town 「地域の行事」比較(最上級)/最上級の意味を表す比較表現	
		Lesson 21 I Have a Foreign Friend 「異文化」 関係代名詞(主格・目的格)	
Lesson 22 My Future Dream 「将来の夢」 関係代名詞(所有格・that)			
日常の学習についてのアドバイス		評価方法	
<p>○授業を大切に取り組みましょう。</p> <p>○教科書の音読をしっかりとしましょう。</p> <p>○コミュニケーション活動に積極的に取り組みましょう。</p> <p>○復習を心がけ、覚えたことを定着させましょう。</p>		<p>1. 定期考査 80% 2. 提出物 10%</p> <p>3. 授業への取り組み 10%</p> <p>[S6後期]</p> <p>1. 定期考査 70% 2. レポート 20%</p> <p>3. 提出物 5% 4. 授業への取り組み 5%</p> <p>以上を総合的に評価する。</p>	
備考	通信科目(S)は上記の学習計画に準じる。		

年間学習計画

教科 : 外国語

科目 : 英語表現Ⅱ

単位 : 4単位 (3年次生以上)

学習目標 : 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	Lesson 1 現在形, 過去形, 現在進行形, 過去進行形/ 未来を表す表現	○文構造・文法を学びながら、語彙を増やす。 ○英文を聞き取り、情報を整理して質問に答える。 ○空所補充問題、並べかえ問題で演習し、文法事項を定着させる。 ○文章全体の文脈を考えながら、日本語の内容を英語で適切に表現する。 ○場面や目的に応じて英語で自己表現する。
		Lesson 2 現在完了形のみ/ 現在完了進行形	
		Lesson 3 過去完了形, 過去完了進行形 / 未来進行形, 未来完了形	
		Lesson 4 助動詞のみ/ 助動詞+have+過去分詞	
	5	Lesson 5 受動態のみ / 助動詞+受動態	
		Lesson 6 進行形・完了形の受動態 / 群動詞の受動態	
		Lesson 7 to-不定詞の名詞用法, 形容詞用法, 副詞用法	
	7	Lesson 8 seem to-不定詞, It seems that .../S+V+O(it)+C+to-不定詞	
		Lesson 9 It takes [costs] ... to-不定詞 / to-不定詞+前置詞	
		Lesson 10 動名詞のみ / S+V+O(動名詞, to-不定詞)	
		Lesson 11 動名詞の否定と意味上の主語/完了形の動名詞	
8			
9			
後期	10	Lesson 12 分詞のみ / S+V+O+C(分詞)	
		Lesson 13 知覚動詞+O+原形[分詞] / 使役動詞+O+原形, have [get]+O+過去分詞	
		Lesson 14 ~ingを含む表現 / with+名詞+分詞	
		Lesson 15 比較のみ / 劣等比較, 倍数表現	
		Lesson 16 比較級・最上級の強調 / 比較級を用いた表現	
	11	Lesson 17 接続詞(時、条件、譲歩) / 接続詞(原因・理由、目的、結果)	
		Lesson 18 関係代名詞のみ / 関係代名詞what	
	12	Lesson 19 関係副詞/複合関係詞	
		Lesson 20 仮定法過去, 仮定法過去完了 / I wish+仮定法	
		Lesson 21 部分否定, 二重否定 / 否定語主語, 準否定	
1	Lesson 22 強調構文 / 名詞構文		
2			
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
○授業では重要事項を確認し、演習・活動に積極的に取り組みましょう。 ○家庭学習を習慣にし、予習・復習をしっかりとしましょう。 ●レポートの提出期限を守りましょう。			1. 定期考査 70% 2. レポート(12回) 20% 3. 提出物 5% 4. 授業への取り組み 5% 以上を総合的に評価する。
備考			

年間学習計画

教科 : 保健体育
 科目 : 保健 1
 単位 : 1 単位 (1 年次生)
 学習目標 : 個人および社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につける。

学期	学習内容	学習上の目標と留意点	
前 期	4	<p>わが国の現在の健康水準や健康問題の変化について学び、今日の健康課題について理解する。 健康の成立要因をふまえた上で、自分なりの健康のとらえ方について考える。</p> <p>健康を保持増進するためにはどのような意志決定・行動選択をすべきか、その方法や工夫のしかたについて学ぶ。また健康づくりには個人の努力だけでなく、自然環境づくりやヘルスプロモーションの考え方にもとづく社会環境づくりが重要であることを理解する。</p> <p>代表的な生活習慣病とその症状などについて学ぶとともに、それらが食事、運動、休養・睡眠、喫煙、飲酒といった生活習慣によって大きく影響されることを理解し、生涯にわたって適切なライフスタイルを選択・実践できるようにする。</p> <p>薬物が心身にもたらす悪影響や薬物乱用による社会問題について学び、薬物には絶対に手を出してはならない理由を再認識するとともに、もし薬物をすすめられた場合には絶対にNOといえる態度を身につける。 新興感染症や再興感染症といった現代の感染症の現状について理解し、予防対策を正しく理解する。またエイズの実態について日本および世界の状況を説明できるようにし、エイズを含む性感染症は正しい知識と適切な行動によって予防することができることを理解する。</p> <p>人間の言動の源となる欲求、それが満たされない場合に起こる欲求不満、さらには心の安定を保とうとする適応機制という働きについてそれぞれ理解し、合理的な判断と対応がとれるようにする。 心と体には密接な関連があり、心の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることを学ぶ。</p> <p>わが国の交通事故の現状をふまえ、交通事故を引き起こす要因について理解する。また、交通事故の防止には運転者の行動や規範を守る意識、安全な交通社会づくりが必要不可欠であり、交通事故には責任や補償問題が生じることも理解させ、自らが事故を起こさないようにする心構えをもてるようにする。 応急手当の意義や手順・方法について学び、日常生活や災害現場のなかで応急手当や心肺蘇生法が正しくおこなえるようにする。</p>	
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	後 期		13
			14
			15
16			
17			
18			
1			
2			
日常の学習についてのアドバイス		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の予習、復習をすること。・教科書、学習ノート、筆記用具は必ず持参のこと ・健康に関する問題を身近なものとして受け止め、課題の解決について積極的に学習すること。 ・生涯を踏まえた視点を持って学習に取り組むこと。 		各学期の定期考査、提出物、出席状況、学習態度等を総合的に評価する。 通信科目の授業(S6前期) 取り組み態度等(30%) レポート(30%) テスト(40%)	
備考	年間学習計画は、あくまでも予定ですので、授業内容が変更になることもあります。		

年間学習計画

教科：保健体育

科目：保健 2

単位：1単位 (2年次生)

学習目標：年齢とともに変化していく私たちの心と体について理解を深めるとともに、私たちの健康を支えている保健・医療のしくみや活用のしかたについて学ぶ。また、健康に関連する環境・食品の問題や、労働と健康の関係などについても学ぶ。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	1. 思春期と健康 2. 性意識と性行動の選択	思春期における体と心の大きな変化について理解を深めるとともに、男女間の性意識の違いを知り、性的関心の高まりとともに誤った情報や性衝動のままに行動して妊娠や性感染症などの問題が起きないように、性に関する適切な意志決定・行動選択ができるようにする。
	5	3. 結婚生活と健康 4. 妊娠・出産と健康	人生の大きな出来事の一つである結婚とその後の結婚生活をよりよく過ごすためにはどうしたらよいか、また新しい命を育む上で重要となる妊娠・出産期を健康的に過ごすにはどのような事項に注意したらよいかを学び、生涯のパートナーとの相互理解をはかることの重要性を理解する。
	6	5. 家族計画と人工妊娠中絶 6. 加齢と健康	すべての子どもが望まれて生まれてくる子であるために、計画的に子どもを産み育てる方法と、望まない妊娠・出産が起きた場合の問題点についても理解を深める。また、世界有数の長寿国となっている日本において、中高年期をよりよく過ごすための工夫を学ぶ。
	7	7. 高齢者のための社会的取り組み	高齢者が抱える健康課題について具体的に理解を深め、高齢者を含めたすべての人が健康で安全に暮らすための保健・医療・福祉の連携の在り方や社会づくりについて理解する。
	8	8. 保健制度とその活用	わが国における保健・医療制度について理解し、行政や医療機関で展開されているさまざまな保健・医療サービスを活用する方法を身につける。
	9	9. 医療制度とその活用	
	10	10. 医薬品と健康 11. さまざまな保健活動や対策	医薬品の種類と正しい使い方について理解する。また、医薬品がもたらす作用を理解した上で、薬害等の問題が起きないように安全対策がとられていることを学ぶ。 私たちの健康づくりのために、国の枠を越えた世界規模の保健活動や対策がとられていることを知る。
	11	1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁・土壌汚染と健康	大気汚染・水質汚濁・土壌汚染についてそれぞれ理解を深め、地球規模で起こっている環境問題についてどのようにしてかかわっていくべきなのか、人々の健康面の問題と合わせて考えられるようにする。
	12	3. 健康被害の防止と環境対策	環境汚染による健康被害を防ぐためにはどのような社会的対策がとられているのか、また自分たちでできる環境対策について具体的に考えて実践できるようにする。
後期	1	4. 環境衛生活動のしくみと働き 5. 食品衛生活動のしくみと働き	私たちの生活と直結しているごみ処理・上下水道整備・し尿処理といった環境衛生活動と、食品の安全を守る食品衛生活動についてそのしくみと具体的な対策について学ぶ。
	2	6. 食品と環境の保健と私たち 7. 働くことと健康	食の安全を守るため、また環境の汚染を防ぐために私たちに求められていることは何か、具体的な役割について学ぶ。 働くことの意義や働くことによって起こる健康問題について理解を深める。また労働が原因で起こるけがや病気を防止するためにどのような対策がとられているかについても学び、健康的な職業生活を送る上での取り組みや余暇の活用のしかたを知る。
	日常の学習についてのアドバイス		評価方法
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の予習、復習をすること。・教科書、学習ノート、筆記用具は必ず持参のこと。 ・健康に関する問題を身近なものとして受け止め、課題の解決について積極的に学習すること。 ・生涯を踏まえた視点を持って学習に取り組むこと。 		各学期の定期考査、提出物、出席状況、学習態度等を総合的に評価する。 取り組み態度等(40%) テスト(60%) 通信科目(S6後期)の授業については、 取り組み態度等(30%) レポート(30%) テスト(40%)
	備考		

年間学習計画

教科：保健体育

科目：体育2

単位：2単位（2年次生）

学習目標：各種の運動の合理的な実践を通して、知識や運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの社会的態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点	
前期	4	男女：オリエンテーション 男女：体づくり運動（7h） 男女：体育理論（6h）	<p>【体育理論】 運動やスポーツの合理的、計画的な実践を通して、知識や技能を深め、楽しさや喜びを味わい、それらを生涯にわたって豊かに実践できるようにするため、単に運動やスポーツを受動的に楽しむだけでなく、スポーツはどのような発展や変化をしてきたのか、どのような役割を果たしているのかといったスポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解できる。</p> <p>【体づくり運動】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の学習に主体的に取り組み、体力などの違いに配慮し、合意形成に貢献することなどに意欲をもち、健康や安全を確保するとともに、体力の構成要素や体づくり運動の実生活への取り入れなどを理解し、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。</p> <p>【水泳】 水泳の学習に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることや、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たすことなどに意欲をもち、健康や安全を確保するとともに、技術の名称や行い方、課題解決の方法などを理解し、自己や仲間との課題に適した運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにすることを通して、記録の向上や競争の楽しさや喜びを深く味わうことができる。</p> <p>【球技】 それぞれの種目独自のルールを理解し、技能の段階に応じて作戦をたてて勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わうことができるようにする。また自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、公正な態度や安全の確認、健康・安全に留意して練習やゲームができる態度を身に付ける。</p> <p>【陸上競技】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを深く味わい、陸上競技の学習に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることや、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たすことなどに意欲をもち、健康や安全を確保するとともに、技術の名称や行い方、課題解決の方法などを理解し、自己や仲間との課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。</p>	
	5	男女：球技 (バドミントン、サッカー、卓球、ソフトボール、バスケットボール、テニス、バレーボールetc)		
	6	↓		
	7	男女：水泳		
	8	↓		
	9	↓		
	後期	10		男女：球技 (バドミントン、サッカー、卓球、ソフトボール、バスケットボール、テニス、バレーボールetc)
		11		男女：持久走
		12		↓
1		男女：球技 (バドミントン、サッカー、卓球、ソフトボール、バスケットボール、テニス、バレーボールetc)		
2		↓		
日常の学習についてのアドバイス			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に参加し、自分にできる事を発見して積極的に取り組むこと。 ・運動の重要性を理解し、仲間と協力して活動すること。 ・健康、安全に配慮して活動すること。 ・授業に参加する場合は、必ず指定の体操服を着用すること。 (更衣をしない場合は、授業に参加できません) 			<p>関心・意欲・態度、知識・理解、思考・判断、技能より総合的に評価する。 取り組み態度等（50%） 実技評価（50%） 通信科目（S6前期）の授業については、 取り組み態度、実技等（30%） レポート（30%） テスト（40%）</p>	
備考	<p>年間学習計画は、あくまでも予定ですので、授業内容が変更になることもあります。 授業場所についても、武道場等、体育館・グラウンド以外でも行われることがあります。</p>			

年間学習計画

教科：保健体育

科目：体育3

単位：3単位（3年次生）

学習目標：各種の運動の合理的な実践を通して、知識や運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの社会的態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	男女：オリエンテーション 男女：体づくり運動（8h） 男女：体育理論（6h）	<p>【体育理論】 運動やスポーツの合理的、計画的な実践を通して、知識や技能を深め、楽しさや喜びを味わい、それらを生涯にわたって豊かに実践できるようにするため、単に運動やスポーツを受動的に楽しむだけでなく、スポーツはどのような発展や変化をしてきたのか、どのような役割を果たしているのかといったスポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解できる。</p> <p>【体づくり運動】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の学習に主体的に取り組み、体力などの違いに配慮し、合意形成に貢献することなどに意欲をもち、健康や安全を確保するとともに、体力の構成要素や体づくり運動の実生活への取り入れ方などを理解し、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。</p> <p>【水泳】 水泳の学習に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることや、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たすことなどに意欲をもち、健康や安全を確保するとともに、技術の名称や行い方、課題解決の方法などを理解し、自己や仲間の課題に適した運動を継続するための取り組み方などを工夫できるようにすることを通して、記録の向上や競争の楽しさや喜びを深く味わうことができる。</p> <p>【球技】 それぞれの種目独自のルールを理解し、技能の段階に応じて作戦をたてて勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わうことができるようにする。また自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、公正な態度や安全の確認、健康・安全に留意して練習やゲームができる態度を身に付ける。</p> <p>【陸上競技】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを深く味わい、陸上競技の学習に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることや、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たすことなどに意欲をもち、健康や安全を確保するとともに、技術の名称や行い方、課題解決の方法などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。</p>
	5	男女：球技 (バドミントン、サッカー、卓球、ソフトボール、 バスケットボール、テニス、バレーボールetc)	
	6	↓	
	7	男女：水泳	
	8	↓	
後期	9	↓	
	10	男女：球技 (バドミントン、サッカー、卓球、ソフトボール、 バスケットボール、テニス、バレーボールetc)	
	11	男女：持久走	
	12	↓	
	1	男女：球技 (バドミントン、サッカー、卓球、ソフトボール、 バスケットボール、テニス、バレーボールetc)	
		↓	
<p style="text-align: center;">日常の学習についてのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に参加し、自分にできる事を発見して積極的に取り組むこと。 ・運動の重要性を理解し、仲間と協力して活動すること。 ・健康、安全に配慮して活動すること。 ・授業に参加する場合は、必ず指定の体操服を着用すること。 (更衣をしない場合は、実技に参加できません) 			<p style="text-align: center;">評価方法</p> <p>関心・意欲・態度、知識・理解、思考・判断、技能より総合的に評価する。 取り組み態度等（50%） 実技評価（50%）</p>
備考	<p>年間学習計画は、あくまでも予定ですので、授業内容が変更になることもあります。 授業場所についても、武道場等、体育館・グラウンド以外でも行われることがあります。</p>		

年間学習計画

教科 : 芸術

科目 : 音楽 I

単位 : 3 単位 (1年次生以上)

学習目標 : 音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	○五線譜を見てみよう ○リズム ○メロディー	・楽譜の読み方などを学び、音楽表現の基礎・基本を身につける。
	5	○みんなで歌おう 「少年時代」「翼をください」	・シンコペーションの表現を身につけ、歌うことの楽しさを感じる。
	6	○世界の心 「オーソレミオ」「アニーローリー」「おおシャンゼリゼ」	・楽曲の背景と曲想との関りを意識し、声の表現を工夫する。
	7	○歌い継ぎたい愛唱歌 「花の街」「夏の思い出」「里の秋」 ○ミュージカル 「A Whole New World」「すべての山に登れ」	・唱歌の詩の意味を理解し、詩とメロディー、リズムの関連を考え歌唱する。 ・総合芸術であるミュージカルの特徴を理解し、劇や物語と音楽との関りを意識した表現の工夫や鑑賞をする。
	8 9	*前期を通して以上の内容を学習します	
後期	10	○ギターを弾こう 「よるこびのうた」「エーデルワイス」	・ギターの楽譜の読み方、メロディーの基礎的な演奏方法を実習する。
	11	○アンサンブル	・身体を使ったリズムによる音楽(ボディー・パーカッション)を通じて楽譜を読む力を身につける。拍子や強弱、音の質に注目し、演奏する。
	12	○鑑賞 交響曲 管弦楽曲 協奏曲 室内楽曲 独奏曲 歌曲 合唱曲 オペラ	・西洋音楽の表現形態の特徴を理解する。 ・音楽のよさや美しさ、音楽を聴いて感じたことを自分の言葉で書き、自己表現力を身につける。
	1	○日本の 「この道」「小さな空」	・日本の芸術歌曲を歌唱し、“言葉と音楽”の関連について考え、理解を深める。また、音楽用語の意味をどのように歌唱するか、表現の工夫をする。
	2	*後期を通して以上の内容を学習します	
日常の学習についてのアドバイス ○毎時間の授業に積極的に真面目に取り組むことが重要です。 ○楽器の準備片付けにも丁寧に取り組みましょう。			評価方法 ○実技の技能、知識 (実技試験40%、筆記試験40%)…80% ○実技、鑑賞に取り組む態度 ……20% 以上の基準をもとに総合的に評価します。
備考	○内容は一部変更される場合があります。 ○Sの授業では実技の時間が少なくなります。		

年間学習計画

教科：芸術

科目：音楽Ⅱ

単位：2単位（2年次生以上）

学習目標：音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	○みんなで歌おう 「上を向いて歩こう」「やさしさに包まれたなら」	・歌唱の活動を通して、表現を工夫したり、二部合唱に広げる楽しさを味わう。
	5	○日本の心 世界の心 「ていんさぐぬ花」「愛の賛歌」「春の日の花と輝く」 ○舞台芸術 能と文楽 ミュージカル	・多様な地域や国の音楽に親しむ。曲調に応じた豊かな表現を目指し、表現に必要な発声を身につける。 ・日本の音楽に触れ、良さや美しさを理解する。 ・劇や物語と音楽の関係を理解し、より豊かなイメージをもって表現したり鑑賞する。
	6	○ピアノで伴奏しよう	・コードネームを理解し、メロディーに対する和音の工夫を行い、キーボードで演奏する。
	7	*前期を通して以上の内容を学習します。	
	8		
後期	9	○ギターで伴奏しよう	・アコースティック(フォーク)ギターでコードコード弾きができるようになる。
	10		
	11	○鑑賞<器楽曲>	・鑑賞を通し器楽に触れ、その特長や音楽の文化的・歴史的背景を理解する。
	12		
	1	○歌唱と鑑賞<声楽曲> <歌の翼に><Lascia chio pianga><からたちの花><初恋>	・日本とヨーロッパの芸術歌曲を歌唱・鑑賞し、歌詞の内容や楽曲の背景を研究し、より豊かなイメージをもって表現したり、鑑賞を通して楽曲の価値を理解する。
2	*後期を通して以上の内容を学習します。		
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		○授業に出席し、積極的に実技実習に取り組みましょう。 ○楽器の準備、片付けも全員で行います。演奏に使用する楽器を大切に扱きましょう。	○実技の技能、知識 (実技試験40%、筆記試験40%)…80% ○実技、鑑賞に取り組む態度 ……20% 以上の基準をもとに総合的に評価します。
備考	○内容は一部変更される場合もあります。 ○S6後は④1に比べ、実技の時間が少なくなります。		

年間学習計画

教 科 : 芸術
 科 目 : 音楽Ⅲ
 単 位 : 2単位 (3年次生以上)
 学習目標 : 音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育て、感性を磨き個性豊かな音楽の能力を高める。

学期	月	学 習 内 容	学 習 上 の 目 標 と 留 意 点
前 期	4	○みんなで歌おう 「ふるさと」 「海の声」 「思い出がいっぱい」 …など	・豊かに声を張って歌い、みんなで共に歌う楽しさを感じ取る。
	5		
	6	○歌曲の歌唱 「Nina」 「Wiegenlied」 「Beautiful Dreamer」 …など	・音楽史における作曲家、楽曲の位置づけを理解し、それにふさわしい歌唱をする。
	7	○西洋音楽史(鑑賞) 古代 中世 ルネサンス	・時代とともに変化する音楽様式について知る。
	8	バロック 9 古典派 *前期を通して以上の内容を学習します	
後 期	10	○個人演奏と発表	・技術向上を目指して個人練習を行い、練習の成果を選択者全員で発表・鑑賞をし、表現の多様さを知る。
	11	○西洋音楽史(鑑賞) ロマン派 国民楽派 近代・現代	・時代とともに変化する音楽様式について知る。
	12	○日本音楽史(鑑賞) *後期を通して以上の内容を学習します	・文化的、歴史的背景を理解し、さまざまな楽器や声による表現効果を感じとる。
	1	○卒業ライブの合唱練習	・高校生活を振り返り、思いを込めて音楽選択者全員で歌い、楽曲にふさわしい表現の工夫をする。 ・読譜力を高める。
	2		
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		○毎時間の授業に積極的に真面目に取り組むことが重要です。 ○音楽史上に残る曲が、テレビCM、アニメやゲーム音楽などに多く使われています。日常生活の中で耳にする音楽を意識して聴いてください。	○実技の技能、知識 (実技試験40%、筆記試験40%)…80% ○実技、鑑賞に取り組む態度 ……20% 以上の基準をもとに総合的に評価します。
備 考	○内容は一部変更される場合があります。 ○選択者の進路によっては、楽典など理論やピアノ実技など行う場合もあります。		

年間学習計画

教科：芸術

科目：美術 I

単位：3単位 (1年次生以上)

学習目標：美術に関する専門的な学習を通して、美的体験を豊かにし、感性を磨き、創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、美術文化の発展と創造に寄与する態度を育てる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	○オリエンテーション ○色彩構成	<ul style="list-style-type: none"> 美術 I の学習内容について理解し、学習の目安や目標を立てる。 色鉛筆やアクリル絵の具を使って、色彩のもつ働きを学習する。 色の3原色、色の混合、補色など、構成の原理・色彩学の基礎的知識とその活用について理解する。
	5		
	6	○切り絵	<ul style="list-style-type: none"> 用具、材料の特質を理解し、適切な使用方法を身につける。 形の整理・簡略化や白黒のバランスを考える。完成までの見通しを持ち丁寧に制作するなど表現の基礎的能力を身につける。
	7	○素描(デッサン)	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆を使って、ピン・林檎・円錐石膏など基本的な形を観察し、表現する。 鉛筆の使い方、明暗、陰影、効果的な活用表現について理解する。 次の課題への理解を促すための体験的な内容とする。
	8 9	○公募展に出品しよう	<ul style="list-style-type: none"> 前題材の成果を活かし、身近なものの新たなデザインを構想する。
後期	10	(CIDヘアーデザイン・トイレのデザインコンテスト) ○凹版画 ドライポイント	<ul style="list-style-type: none"> 目的や条件に応じて表現を工夫する。 用具や材料の使い方、版画の特質を理解し、効果的に活用する。 複数枚刷ることのできる版画の特徴を利用して、インクの濃さを変えるなど様々な表現を楽しむ。
	11	○風景画(①校内 ②石立神社 ③新月橋)	<ul style="list-style-type: none"> 見慣れた校内外の風景を、視点や遠近感の表現を切り口に見つめ直しスケッチできる力を育てる。
	12	○スタンプ作り	<ul style="list-style-type: none"> 想像力をはたらかせてイメージを作り、塊から自分がデザインした形を彫り出し、磨き、完成させる力を育てる。 スタンプ(はんこ)の役割を理解しスタンプ面のオリジナルデザインと、手で握る部分のデザインを考える。
	1	(3、4年次生は1月末で授業終了)	
	2	○風景画着色 (1、2年次生のみ授業)	<ul style="list-style-type: none"> これまでにスケッチしてきた風景画の課題を、色鉛筆や水彩絵の具で着色する。形だけでなく色についても対象をよく観察し、描く。
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		<p>○授業の課題については、できるかぎり授業時間内に終わるよう、積極的に活動してください。</p> <p>○課題が終わらない場合は、放課後に残って制作するか、自宅に作品を持ち帰って制作してもらいます。</p> <p>○制作だけでなく、「準備」、「片付け」をする力も身につけましょう。</p>	<p>○課題作品の完成度・・・80% (作品は全て完成させ提出)</p> <p>○授業への取り組み方(意欲・態度)・・・20%</p> <p style="text-align: center;">以上の基準をもとに総合的に評価をします。</p>
備考	※1年間に制作する材料費(実費)として、1000円を徴収させていただきます。		

年間学習計画

教科：芸術

科目：美術Ⅱ

単位：2単位（2年次生以上）

学習目標：美術に関する専門的な学習を通して、美的体験を豊かにし、感性を磨き、創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、美術文化の発展と創造に寄与する態度を育てる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	○オリエンテーション	・美術Ⅱの学習内容について理解し、学習の目安や目標を立てる。
	5	○オリジナルキャラクターデザイン	・「企業キャラクター」など、多くの人に浸透し販売促進などの効果を持つキャラクターについて学び、人を引き付けるデザイン、構図や配色を工夫し効果的にあらわす力をつける。 ・視覚的に情報を伝える様々なデザインの例に学び表現する。 ・完成した作品について、その意図や工夫した点について簡単なプレゼンテーションを行う。
	6	○鳥獣人物戯画 ①透き写し ②臨模	・1年次のデッサンについての学習をふまえ、さらに形体のとらえ方や、表現力を高める。 ・日本画の優れた作品を模写することで、対象を効果的に模倣し、その表現力を身につける。模写の基本的な手法①透き写し②臨模を学ぶ。
	7	③オリジナル鳥獣人物戯画	・模写自体の面白さを知り、今後の制作に新たな息吹を取り込む。 ・模写力をつけ、筆に慣れたら動物たちを自由に組み合わせで描き、オリジナルの鳥獣人物戯画を完成させる。模倣から創造へという考え方や工程は日本画の原点といえる。
	9	○公募展に出品しよう (CIDヘアードesign・トイレのデザインコンテスト)	・前題材の成果を活かし、身近なものの新たなデザインを構想する。 ・目的や条件に応じて表現を工夫する。
後期	10		
	11	○ボールペン細密画	・モチーフは動物。動物の毛並みや表情をボールペンで表現する。 ・資料は参考にすが、想像力を働かせ、自由に細やかに描く。 ・ボールペンの使い方、明暗、陰影、効果的な活用表現について理解する。 ・白黒のモノトーンの美しさの表現と線描の細やかさの技術を学ぶ。 ・ボールペンのインクがなくなるまで制作を続ける。
	12		
	1	○作品鑑賞会 (3、4年次生は1月末で授業終了)	・完成した作品を通して、対話による意味生成的な美術鑑賞を行う。 他の作者の考えや作品を、尊重するとともに自分の内面で自分の見方を言語化することで、言語力・自己表現力の育成を目指す。
	2	○風景画 (1、2年次生のみ授業)	・見慣れた校外内の風景を、視点や遠近感の表現を切り口に対象をよく観察し、描写・着彩できる力をつける。
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
○授業の課題については、できるかぎり授業時間内に終わるよう、積極的に活動してください。 ○課題が終わらない場合は、放課後に残って制作するか、自宅に作品を持ち帰って制作してもらいます。 ○制作だけでなく、「準備」、「片付け」をする力も身につけましょう。			○課題作品の完成度・・・80%（作品は全て完成させ提出） (美術Sは作品40%・定期考査20%・レポート20%) ○授業への取り組み方(意欲・態度)・・・20% 以上の基準をもとに総合的に評価をします。
備考	※1年間に制作する材料費(実費)として、1000円を徴収させていただきます。 ・通信科目の授業については上記に準じる。		

年間学習計画

教科：芸術

科目：美術Ⅲ

単位：2単位（3年次生以上）

学習目標：美術に関する専門的な学習を通して、美的体験を豊かにし、感性を磨き、創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、美術文化の発展と創造に寄与する態度を育てる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	○オリエンテーション ○鉛筆デッサン（さまざまな素材をつかって）	・1年間の学習内容について理解し、学習の目安や目標を立てる。 ・これまでにデッサンについて学習したことをふまえ、さらに形の捉え方、表現力を高める。
	5		・「石膏デッサン」から、「人物」など、さまざまな素材を描くことで、「量感」、「質感」、「立体感」など造形的な要素について学習する。
	6	○油彩画(風景) ～校舎～	・さまざまな芸術家の作品について、資料を使って学習し、表現の多様さについて学ぶ。 ・線遠近法、透視図などの表現の工夫や適切な技法を学ぶ。
	7		・用具、材料の特質を理解し、適切な使用方法を身につける。 ・観察による表現(立体的な捉え方・全体のバランス・色彩の効果)でできる力を身につけ制作する。
	8 9	○公募展に出品しよう (CIDへアーデザイン・トイレのデザインコンテスト)	・前題材の成果を活かし、身近なものの新たなデザインを構想する。 ・目的や条件に応じて表現を工夫する。
後期	10	○干支の置物(モデリング)	・用具、材料の特質を理解し、適切な使用方法を身につける。 ・抽象的な文様や、形体のよさ、美しく仕上げるための技術を学ぶ。 ・デザインを決め、細やかな装飾をする。
	11	○卒業制作	
	12	(絵画・デザイン・立体の中から1つを選択する) ①発想 → 下絵 ②アイデアスケッチ → 制作 → 完成 (制作の過程で進行状況など発表し中間批評会も行う)	・これまでに学習した、色彩や形体がもたらす効果について振り返り自分の意図に合わせて表現する。(表現方法・使用材料の工夫) ・自由な発想で描く。(テーマは自由) ・用具、材料の特質を理解し、目的に合った適切な使用方法を学ぶ。 ・完成した作品を通して、対話による意味生成的な美術鑑賞を行う。他の作者の考えや作品を、尊重するとともに自分の内面で自分の見方を言語化することで、言語力・自己表現力の育成を目指す。
	1	○作品鑑賞会	・美術Ⅲらしい完成度の高い作品制作に努める。
	2		
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
○授業の課題については、できるかぎり授業時間内に終わるよう、積極的に活動してください。 ○課題が終わらない場合は、放課後に残って制作するか、自宅に作品を持ち帰って制作してもらいます。 ○制作だけでなく、「準備」、「片付け」をする力も身につけましょう。			○課題作品の完成度・・・80% (作品は全て完成させ提出) ○授業への取り組み方(意欲・態度)・・・20% 以上の基準をもとに総合的に評価をします。
備考	※1年間に制作する材料費(実費)として、1500円を徴収させていただきます。		

年間学習計画

教 科 : 芸術

科 目 : 工芸 I

単 位 : 3 単位 (1 年次以上)

学習目標 : 工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前 期	4	○オリエンテーション (工芸 I について)	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸 I の学習内容について理解し、学習の目安と目標をもつ。 ・生活の中で工芸の果たす役割について考える。 ・土をモチーフとして食器類を作り、日常生活に手作りの良さや使う喜びを味わう。 ・土の特性を体感し粘土についての知識をもつと同時に釉薬と焼成法の関係などについて知る。 ・成形の技術は色々であるが、どの手法も反復練習が重要であることを理解させる。
	5	○陶工芸・初級基本編 土練 箸置き(手びねり) 豆皿・豆鉢・茶碗(手びねり・玉作り) 湯のみ(ひも作り) 葉皿(板作り)	
	6	・ 絵付け	
	7	・ 釉掛け	
	8		
後 期	9	○木工芸 スプーン・フォーク	<ul style="list-style-type: none"> ・木材の性質と加工法を知る。 ・握るという行為と、道具として作用することの関係について考える。 ・道具としての実用性をもつものを、造形美をそなえた立体で表現ができる能力を養う。 ・基本的な電動工具の種類や使用方法について体験を通して理解を深める。 ・塗装についての基礎的知識を学習し、身の回りの塗装製品についての興味と意識を喚起し、塗装の選択や扱いが適切にできるようにする。 ・食器としての安全な塗装法を学ぶ。 ・銅版切抜き技法による七宝工芸制作 ・身に着ける形のデザインの工夫 ・金属板の加工法 ・七宝釉薬の扱い方 ・電気炉での焼成方法 ・アクセサリー・キーホルダー・ストラップへの加工法
	10	・ デザイン ・ 電動糸鋸機による切断 ・ 小刀・彫刻刀で成形 ・ 金やすり・紙やすりでの研磨 ・ 安全塗装	
	11		
	12	○七宝工芸 アクセサリー ・ デザイン ・ 銅版切断と研磨 ・ 釉薬塗布 ・ 焼成 ・ 仕上げ加工	
	1	(3、4年次生は1月末で授業終了)	
	2	○七宝工芸 自由制作 (1、2年次生のみ授業)	<ul style="list-style-type: none"> ・初級制作を経て、中級制作へ進む。 ・デザインや加工方法、七宝釉薬やビーズ・ガラス破片の使用等工夫する。
<p style="text-align: center;">日常の学習についてのアドバイス</p> <p>○授業中は集中して主体的に制作に取り組んで下さい。</p> <p>○制作が遅れたり仕上がらない場合は放課後残るか持ち帰って制作してもらいます。</p> <p>○作品づくりも大切ですが、道具を決められた場所に返し、散らかしてしまった所は掃除するなど、後片付けもとても大切な学習です。</p>			<p style="text-align: center;">評価方法</p> <p>○課題作品の完成度・・・80%(作品は全て完成させ提出) (工芸Sは作品40%・定期考査20%・レポート20%)</p> <p>○授業への取り組み方(意欲・態度)・・・20%</p> <p style="text-align: right;">以上の基準をもとに総合的に評価をします。</p>
備 考	<p>※1年間に制作する材料費(実費)として、2000円(通信科目は1000円)を徴収させていただきます。</p> <p>・通信科目の授業については上記に準じる。</p>		

年間学習計画

教科 : 芸術
 科目 : 工芸Ⅱ
 単位 : 2単位 (2年次以上)
 学習目標 : 工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし工芸を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術文化についての理解を深め、個性豊かな工芸の能力を高める。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	○オリエンテーション (工芸Ⅱについて)	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸Ⅱの学習内容について理解し、学習の目安と目標をもつ。 ・生活の中で工芸の果たす役割について考える。
	5	○陶工芸・初級応用編 1.玉つくり・ひも作りによる食器・オブジェ	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した制作技術をもとに、さらに高度な技術や、斬新な形を発想する力をつける。 ・粘土の特性と成形方法、機能美について理解を深める。
	6	2.手びねりによる大きな器作り 3.電動ろくろによる成形	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の使い方や、釉薬と焼成による変化と知識の理解を深める。 ・土器・陶器・磁器・石器などの性状の特徴や原料や工程の違いについての理解を深める。
	7	4.下絵付け・施釉・窯詰め・窯出し	<ul style="list-style-type: none"> ・顔料の使い方、下絵付け、上薬のかけ方、本焼きについて体験し、理解を深める。 ・電動ろくろによる制作と技術を習得する。
	8		<ul style="list-style-type: none"> ・陶土の調整の理解・作品の大小、形状に合わせた調整や下絵など加飾の知識と技術を習得する。
	9		
後期	10	○金属工芸 ペーパーナイフ(真鍮) ・デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸分野で用いられる金属材料の種類や、特性を理解する。 ・基礎的な技術・素材などを体験して、金工表現の基本を学び、金工制作の楽しさを体感する。
	11	・手動糸鋸機による切断 ・金やすり研磨 ・耐水ペーパーによる研磨 ・研磨クリーム・研磨布による仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・金属を使った工芸作品を日常の生活の中に生かせるようにする。
	12	○紙ひも工芸 かご制作 ・基本編みで小かご制作 ・塗装	<ul style="list-style-type: none"> ・紙ひもを使ってのひも工芸。 ・紙ひもの素材の特性と成形方法を学習していく。 ・基本の編み方を学びながら、日常使いのかごを編む。 ・塗装の基本を学ぶ。
	1	○学習のまとめ 作品鑑賞 (3、4年次生は1月末で授業終了)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品を鑑賞し、作品の良さや素材の特質を理解する。 ・伝統工芸品の優れたデザインや美しさ、よさを学習する。
	2	○紙ひも工芸 かご自由制作 ・基本編みで自由にかご制作 ・塗装 (2年生のみ授業)	<ul style="list-style-type: none"> ・マスターしたかご制作の技法で自由制作(完成可能な大きさ)
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
○授業中は集中して主体的に制作に取り組んで下さい。 ○制作が遅れたり仕上がらない場合は放課後残るか持ち帰って制作してもらいます。 ○作品づくりも大切ですが、道具を決められた場所に返し、散らかしてしまった所は掃除をするなど、後片付けもとても大切な学習です。			○課題作品の完成度・・・80% (作品は全て完成させ提出) ○授業への取り組み方(意欲・態度)・・・20% 以上の基準をもとに総合的に評価をします。
備考	※1年間に制作する材料費(実費)として、2000円を徴収させていただきます。		

年間学習計画

教科 : 芸術

科目 : 工芸Ⅲ

単位 : 2単位 (3年次以上)

学習目標 : 工芸の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり工芸を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな工芸の能力を高める。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	○オリエンテーション (工芸Ⅲについて)	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸Ⅲの学習内容について理解し、学習の目安と目標をもたせる。 ・生活の中で工芸の果たす役割について考える。
	5	○陶工芸・初級基礎～応用編 自由制作 1.玉づくり・ひも作りによる食器・オブジェ	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した制作技術をもとに、さらに高度な技術や、斬新な形を発想する力をつける。 ・粘土の特性と成形方法、機能美について理解を深める。 ・用具の使い方や、釉薬と焼成による変化と知識の理解を深める。
	6	2.手びねりによる大きな器作り 3.電動ろくろによる成形	<ul style="list-style-type: none"> ・土器・陶器・磁器・石器などの性状の特徴や原料や工程の違いについての理解を深める。 ・顔料の使い方、下絵付け、上薬のかけ方、本焼きについて体験し、理解を深める。 ・電動ろくろによる制作と技術を習得する。
	7	4.下絵付け・施釉・窯詰め・窯出し	<ul style="list-style-type: none"> ・陶土の調整の理解・作品の大小、形状に合わせた調整や下絵など加飾の知識と技術を習得する。
	8 9		
後期	10	○木工芸 小さな家具「スツール」の制作 ・デザイン ・のこぎり・電動糸鋸機で切断	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの木工芸の集大成。知識や技術を生かして完成を目指す。 ・安全で便利でかわいい「小さな椅子」作りの楽しさとしっかりと制作することを学ぶ。 ・正確な製図と座面のデザインを考える。
	11	・だばによる組み立て作業 ・金やすり・サンダーでの研磨作業 ・紙やすりでの研磨仕上げ ・着色・ニス仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・電動糸の子機の使い方、研磨作業の修得。 ・だば接合の技術や塗装法の修得。 ・既成の製品と、自分たちの作品を比較し、どのように作られているのかを学び取る。
	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ものをつくり出す技術について改めて考えさせる。ものを大事にする姿勢、伝統的な工芸や技法を学び、工芸の特色や広がりを理解する。
	1	○自由制作 陶芸・木工芸・七宝工芸・金工芸・紙ひも工芸 (*ガラス工芸・シルバークレイ工芸)	<ul style="list-style-type: none"> ・いままでの制作体験を生かして、修了作品となるものを創っていく。 ・各人の希望を重視した選択制となる。 (*未体験の工芸分野も制作の可能性はある。)
	2	○学習のまとめ 合評および作品鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品を鑑賞し、作品の良さや素材の特質を理解する。 ・伝統工芸品の優れたデザインや美しさ、よさを学習する。
		準備・制作・片付けをしっかりとして下さい。	
<p style="text-align: center;">日常の学習についてのアドバイス</p> <p>○授業中は集中して主体的に制作に取り組んで下さい。 ○制作が遅れたり仕上がらない場合は放課後残るか持ち帰って制作してもらいます。 ○作品づくりも大切ですが、道具を決められた場所に返し、散らかしてしまった所は掃除をするなど、後片付けもとても大切な学習です。</p>			<p style="text-align: center;">評価方法</p> <p>○課題作品の完成度・・・80% (作品は全て完成させ提出) ○授業への取り組み方(意欲・態度)・・・20%</p> <p style="text-align: center;">以上の基準をもとに総合的に評価をします。</p>
備考	※1年間に制作する材料費(実費)として、2500円を徴収させていただきます。		

年間学習計画

教科：芸術

科目：書道 I

単位：3単位 (1年次生以上)

学習目標：書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写教育を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	① 書写から書道へ 1 書に親しもう 2 用具・用材を知ろう 3 姿勢・執筆法を身につけよう	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校までの学習を振り返る。 ・書写と書道の共通性と相違について理解する。 ・用具・用材について理解する。 ・姿勢や執筆法の基本を理解する。 ・漢字の書の変遷を学ぶ。 ・さまざまな漢字の古典を鑑賞し、自らの鑑賞力を高める。 ・古典に基づく基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ。 ・各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞する。
	5	② 漢字の書の学習 1 漢字の変遷と様々な書体 2 楷書の古典に学ぼう 唐の四大家 ・孔子廟堂碑 ・九成宮醴泉銘	
	6	・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑	
	7		
	8		
	9	3 行書の古典を学ぼう ・蘭亭序 ・風信帖	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の臨書学習により、行書の用筆法・運筆法を学ぶ。 ・古典の表現の多様性を知る。
後期	10	4 漢字の書の創作をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの思考や感動を表現できる語句を選び、楷行の特徴を理解し、用具・用材や形式、構成などの表現方法を工夫し、作品を制作する。 ・仮名の成立と変遷、種類などについて学ぶ。 ・平安時代の名筆の学習を通して、仮名の書のみよさと特徴を理解する。 ・仮名の書独特の筆づかひに慣れ、基本用筆を習得する。 ・仮名の基本用筆やリズムを生かし、単体を習得する。 ・変体仮名の意味を学び、慣れていく。 ・平安期の仮名独特の流動美や紙面構成を学び、表現を深めていく。
	11	③ 仮名の書の学習 1 仮名の書の世界へ 2 仮名の基本用筆を学ぼう 3 仮名のリズムをつかもう ・平仮名 ・変体仮名	
	12	4 平安時代の古筆に学ぼう ・蓬萊切 5 仮名の書の創作をしよう	
	1	④ 漢字仮名交じりの書の学習 (3, 4年次生は1月末で授業終了)	
	2	⑤ 生活の中の書 (1, 2年次生のみ授業)	
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の課題をきちんと提出する。 ・書道用具等忘れ物のないようにする。 ・「見て」「感じて」「考えて」書く。 			<ul style="list-style-type: none"> ○毎時の作品提出・・・80% (S書道は作品40%、定期考査20%、レポート20%) ○授業への取り組み(意欲、態度等)・・・20% <p>以上を総合的に評価する。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の教材費として2,000円程度を徴収する。(S書道は1,000円程度) ・授業の一環として、各種コンクールの出品を実施している。積極的に取り組もう。 ・通信科目の授業については、上記に準じる。 		

年間学習計画

教 科 : 芸術

科 目 : 書道Ⅱ

単 位 : 2単位 (2年次生以上)

学習目標 : 書道の創造的な諸活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書の文化や伝統についての理解を深め、個性豊かな表現の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前 期	4	① 書と文化 1 文字・文化・書	・中国と日本の書とその周辺文化について理解を深める。
	5	② 漢字の書の学習 1 隷書を知ろう ・乙瑛碑	・隷書の変遷を理解する。
		2 篆書を知ろう ・石鼓文	・小篆の臨書学習により、基本的な点画の用筆法・運筆法を学ぶ。
	6	3 篆刻を学ぼう	・雅印を制作し、作品へ押印しよう。
	7	4 草書を知ろう ・十七帖 ・真草千字文	・草書の変遷を理解し、草書の基本的な結構・用筆法・運筆法を学ぶ。
		5 行書の古典に学ぼう ・集王聖教序	・各古典の字形や線質の違いを理解し、自分の思考や感動を表現できる技法を習得する。
8	6 楷書の古典に学ぼう ・美人董氏墓誌銘	・各古典の字形や線質の違いを理解し、自分の思考や感動を表現できる技法を習得する。	
後 期	10	7 漢字の書の創作をしよう 8 漢字の書作品を鑑賞しよう	・仮名の書の変遷について学び、優美な日本の伝統美を理解する。 ・高野切第一種の特徴を理解し、自分の思考や感動を表現できる技法を習得する。
	11	③ 仮名の書の学習 1 仮名の書の美について知ろう 2 高野切第一種に学ぼう 3 臨書から創作へ ・三色紙	・各古筆の字形や線質の違いを理解し、自分の思考や感動を表現できる技法を習得する。 ・「三色紙」の学習を通して、散らし書きという日本独自の表現形式について理解を深める。
		4 仮名の書の創作をしよう	・仮名の書の特徴を理解し、自らの思考や感想を表現できる語句を選び、形式や構成などの表現方法を工夫し、制作する。
	12	④ 漢字仮名交じりの書 1 漢字仮名交じりの書とは 2 表現の工夫をしよう 3 表現を楽しもう (3, 4年次生は1月末で授業終了)	・用具・用材と表現の関係を理解し、漢字と仮名の調和した表現について学ぶ。 ・用具・用材の種類や扱い方によって表現が変化することを理解する。
		1	3 表現を楽しもう (3, 4年次生は1月末で授業終了)
2	⑤ 創作活動 1 創作をしよう 2 感想と反省を書こう	・1年間学習した分野の中で、好きなものを選び創作する。 ・1年間の学習を振り返り、書を通して自分自身を見つめ直す。	
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の課題をきちんと提出する。 ・書道用具等忘れ物のないようにする。 ・「見て」「感じて」「考えて」書く。 			<ul style="list-style-type: none"> ○毎時の作品提出・・・80% ○授業への取り組み(意欲、態度等)・・・20% <p>以上を総合的に評価する。</p>
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の教材費として2,000円程度を徴収する。 ・授業の一環として各種コンクールの出品を実施している。積極的に取り組もう。 		

年間学習計画

教科：芸術

科目：書道Ⅲ

単位：2単位（3年次生以上）

学習目標：書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心と書の文化や伝統を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き個性豊かな書の能力を高める。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点	
前期	4	① 半紙へ臨書をしよう ・礼器碑 ・木簡 ・喪乱帖 等	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの興味・関心に基づき、学習する古典を選択する。 ・選択した古典の書風や、用筆法・運筆法、特徴を把握する。 ・多角的に古典を分析し、その書風の特徴を生かして表現できるようにする。 	
	5			
	6			
	7	② 半切へ臨書をしよう		
	8			
9	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの興味・関心に基づき、学習する古典を選択する。 ・選択した古典の書風や、用筆法・運筆法、特徴を把握する。 ・半切サイズの紙に臨書することによって、全体の調和、まとめ方等に留意し、大きい紙へ制作することの難しさや、達成感を体得する。 ・制作した作品を鑑賞する。 			
後期	10	③ 創作をしよう ・半切1/2 や全紙サイズへ制作しよう ・団扇へ書こう ・カレンダーへ書こう	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの思考や感動を表現できる語句を選び、各書体の特徴を理解し、用具・用材や形式、構成などの表現方法を工夫し、作品を制作する。 ・全紙に表現し、大作に挑む。 ・制作した作品を鑑賞する。 	
	11			
	12			
	1	④ 創作活動 1 創作をしよう 2 感想と反省を書こう		<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習した分野の中で、好きなものを選び創作する。 ・1年間の学習を振り返り、書を通して自分自身を見つめ直す。
	2			
日常の学習についてのアドバイス			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の課題をきちんと提出する。 ・書道用具等忘れ物のないようにする。 ・「見て」「感じて」「考えて」書く。 			<ul style="list-style-type: none"> ○毎時の作品提出・・・80% ○授業への取り組み(意欲、態度等)・・・20% <p>以上を総合的に評価する。</p>	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の教材費として1,000円程度を徴収する。 ・授業の一環として各種コンクールの出品を実施している。積極的に取り組もう。 			

年間学習計画

教科：家庭

科目：家庭総合(東京書籍 家庭総合 自立・共生・創造)

単位：4単位 (2年次以上)

学習目標：人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解します。生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を身に付けます。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	第1章 自分らしい人生をつくる	○自分らしい生き方とは何か、よりよい人生を生きるために今の自分を見つめ、自立について考えよう。また、男女が協力して豊かな家庭生活や地域社会を創造していくために、家族と社会の関わりについて学んでいこう。
	5	第2章 子どもと共に育つ	○子どもの育つ力を理解し、親となったとき、あるいは地域や社会の一員として、子どもとどう関わり、育んでいこうか考えていこう。
	6	第3章 高齢社会を生きる	○いつか必ず迎える高齢期。高齢になることで心配な事、私たちに期待されている事とはどのようなものだろうか。これからの高齢社会を生きるものとして、誰もが共に充実した毎日を送ることができる社会の在り方を考えよう。
	7	第4章 共に生き、共に支える	○人は一人では生きられない。私たちは支えあいながら生活している。社会で支えあっている仕組みを学び、これからどのようなシステムが必要になるか考えよう。
	8	第5章 経済生活を営む	○私たちは持続可能な社会を形成していく一員として、自立した生活を営めるように、意思決定をする力、収入を得る力、お金を適切に管理できる力、適切な消費行動をする力を身に付けるよう学んでいこう。
後期	10	第6章 食生活をつくる	○高校生の時期は心身ともに健康であるための基礎的な体作りや食習慣づくりの大切な時期である。より良い食習慣を身に付け、生活の質を高め、将来の生活習慣病予防や、資源や環境の視点から食生活を考えていこう。
	11	第7章 衣生活をつくる	○被服は、常に私たちの近くにあり体の一部ともいえるようなものである。暑さ寒さをしのいだり、気分を変え様々な思いを伝える手段ともなる。私たちが健康で快適に装うための衣生活を考えていこう。
	12	第8章 住生活をつくる	○住居は家族の生活の器であり、生活の拠点である。安全で快適な住居、街並みや周囲の自然環境に調和した持続可能な住生活を営むために様々な知識を得、住環境を創造できるようになろう。
	1	9章 生活を設計する	○家庭科で学んできた学習を振り返りながら、生涯を見通した自己の生活について考えさせ、主体的に生活を設計できるようになろう。
	2	ホームプロジェクトを実践する(2年生のみ)	○これまで学んできたことの発展として自分の生活を見直し、問題点を見極め、改善していくための行動を起こそう。
		3, 4年次生後期末考査	
		2年次生後期末考査	
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		○家庭科では、授業への取り組みや提出物を重視しています。 ○授業中集中しましょう。 ○教科書、ファイル、実習時に必要なものを忘れずと減点になります。 ○1時間1時間を大切に取り組んでください。	*1 中間試験は定期考査の素点のみになります。 *2 期末の評価については、定期考査の素点(50~60%) *3 授業への取り組み、振り返りシートの内容、忘れ物等の減点 } 40% *4 調理実習や被服実習、体験実習や実験等での授業態度 } ~ 50% 期末の評価は*2, 3, 4の総合評価になります。
備考	調理実習・被服実習・その他実習費として3,000円を集めます。 S6家庭総合は10月に1回ずつ(各2時間)調理実習と被服実習を行います。実習費は1,000円集めます。		

年間学習計画

教科：家庭

科目：消費生活（教育図書 消費生活）

単位：3単位（2年次以上）

学習目標：経済社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任、消費者と企業や行政との関わり及び連携の在り方などに関する知識と技術を習得させ、持続可能な社会の形成に寄与するとともに、消費者の支援に必要な能力と態度を育てる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点		
前期	4	第1章 社会を支える消費者 第1節 消費生活の役割 第2節 生涯の計画と管理 第3節 社会の変化と消費生活の変化	○消費市場、労働市場及び金融市場と家庭経済のかかわりについて理解し、経済の循環における家庭経済の役割について考える。 ○家族一人一人の生涯を見通した経済生活の計画と管理について理解する。		
		5	第2章 消費者被害と消費者の権利・責任 第1節 消費者が受ける不当な不利益 第2節 消費者の権利確立の方策	○これまでに発生した主な消費者問題を取り上げ、その背景と問題点、解決を目指した消費者運動の展開などについて理解する。	
			6	第3章 消費生活と安全と自由 第1節 消費生活の安全の確保 第2節 消費生活の自由の確保 第3節 信頼できる情報の確保	○消費者問題は、それぞれの時代の経済や産業、人々の価値観等を反映して変化してきており、悪質商法、消費者信用による多重債務、電子商取引等の進展に伴って生じている問題についても理解する。
	7	第4章 消費者の自立支援 第1節 支援の必要性 第2節 事業者からの支援		○商品やサービスに関する情報や企業の情報が、様々な方法で提供されていることを理解し、消費者や消費者団体からの情報発信等の双方向の情報授受によって、消費者問題の未然防止や解決が図られることについて考える。	
		8	前期中間考査		
	9				前期末考査
		後期	10	新聞バック、布エコバック、アクリルたわし等の製作	
	11			第5章 環境と消費者 第1節 豊かさや環境問題との関係 第2節 消費の価値観の変化と環境問題 第3節 頻発する自然災害	○行政からの情報、各種商品テスト、広告、表示、インターネット等を取り上げ、それぞれの情報の特徴や問題点などについて考え、適切に判断し、活用できるようになる。
			12	第4節 環境に対する国民の意識と活動の現状 第5節 低い幸福度、地域コミュニティの衰退 第6節 持続可能な社会への枠組み 第7節 環境問題と商品サービスの選択と利用 第8節 持続可能なライフスタイル	○地球温暖化や廃棄物問題などの環境問題は、人間の諸々の活動に起因していることに気づき、持続可能な社会実現を目指した消費活動ができるようにする。また、環境に配慮された商品やサービスに関心を持ち、環境負荷の少ない商品やサービスを選択できる力を身につける。
1				第6章 消費者契約と法 第1節 生活の中の契約 第2節 契約と責任 第3節 複雑・多様化する販売方法と悪質商法 第4節 消費者取引と関連法 第5節 電子商取引と消費生活 第6節 多様化する支払方法と資金調達 第7節 グローバル化と消費生活	○契約による商品やサービスの購入について、標準的な約款等を取り上げ、契約の成立、効力、解除等の契約に関する基礎的事項を理解する。特に、問題の多い未成年者や高齢者、障害者等の契約について、具体的な事例を通して理解する。
	3、4年次生後期末考査				
2	(2年生) 「くらしの豆知識」(国民生活センター発行)□ 1 ネット活用の心得			○スマホやタブレットでネットを利用することは、便利な面だけではなく自分が騙されたり(被害者)、他人に迷惑をかける(加害者)ことがある。その危険性について理解し、ネットを使いこなす力(ネットリテラシー)を身につけていく。	
	2年次生後期末考査				
日常の学習についてのアドバイス		評価方法			
<p>○年間数回、消費生活に関するもの(新聞バック、布エコバック、アクリルたわし等)の製作を行います。</p> <p>○授業は、教科書とプリントを使って進めていきますので、毎時間忘れずに持参しましょう。定期考査の前にはプリントを提出してもらうので、きちんと記入し、いつでも提出できるように準備しておきましょう。</p> <p>○忘れ物をしたり、授業中寝ていたり、プリントを提出しない場合は減点となります。毎時間、欠席せず真面目に授業に取り組み、提出物をきちんと提出しましょう。</p>		<p>1. 定期考査(3～4回)…50～60%</p> <p>2. 提出物(プリント、作品等)</p> <p>3. 授業への取り組み(意欲・態度等)</p> <p>等から総合的に評価します。 } (40～50%)</p>			
備考	○年間実習費として1000円を集めます。				

年間学習計画

教科：家庭

科目：子どもの発達と保育(実教出版 子どもの発達と保育 新訂版)

単位：3単位 (2年次以上)

学習目標：子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を学び、将来、子どもの発達や子育て支援に関わることができる能力と態度を身に付けます。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	1章 子どもの発達の特性 1節 発達と乳幼児期の意義 2節 発達と保育環境 3節 児童観と発達観	○乳幼児期は、人間の発達の基礎を培う大切な時期であり、大人による養護は欠かせません。子どもの発達に大きな影響を与える保育の環境や子どもへの接し方、保育環境の整え方について、関心を持って理解を深めよう。
	5	2章 子どもの発達の過程□ 1節 子どもの発育 2節 子どもの精神発達 3節 人間関係の発達	○胎児は母親の体内で出生までの時を過ごします。胎児の発育過程を知り、生命誕生に関わる母体環境の大切さについて学ぼう。 ○乳幼児の体は成長とともに様々な変化が起っています。乳幼児の身体的、生理的な特徴について理解を深めよう。
	6	第1回保育園実習 前期中間考査	○子どもの人格形成と、人間関係を築く基礎となるものに愛着関係の形成が大きく関わっています。乳幼児期に築く愛着関係の重要性について、理解し、愛着関係を築くにはどうすればよいか考えよう。
	7	3章 子どもの生活□ 1節 生活と養護□ 2節 子どもの遊び□ 3節 生活習慣の形成□	○乳幼児の健全な発育にはどのような養護や生活環境が必要か、また適切な生活習慣の形成にはどのような関りが大切かを学ぼう。
	8	4節 健康管理と事故防止 *児童文化財にふれよう	○子どもの発達に応じた布のおもちゃを作ります。また、絵本の読み聞かせや、手遊び、指遊びなど、子どもの遊びの世界を広げるいくつかの活動を紹介し、一緒に遊びます。
	9	前期末考査	
後期	10	4章 子どもの保育□ 1節 保育の意義と重要性□ 2節 家庭保育と集団保育□ 3節 保育の方法□	○子どもは多くの人と出会い、関わることで様々なことを学んでいきます。子どもが集団で過ごすことの意味を考えながら、家庭保育と集団保育の意義と役割について理解しよう。また、子どもや家庭を取り巻く状況が大きく変わっている中で、今どのような保育が求められているのか考えよう。
	11	第2回保育園実習 後期中間考査	
	12	5章 子どもの福祉 □ 1節 子どもの福祉 2節 子育て支援	○子どもの幸せとは何か、子どもが幸せに生活するために必要なものは何か考えてみよう。子どもに関する法律や制度を知り、施策や施設の現状を把握しよう。
	1	※年間を通して、おもちゃ製作や調理実習を行う。 3・4年次生後期末考査	○現在行われている子育て支援事業の内容と課題について把握し、自分たちが子どもを産み育てていくためにはどのような社会的支援が必要か考えよう。
	2	<2年生の学習内容> 発展学習 2年次生後期末考査	○教科書から、自分が興味を持った内容をピックアップし、インターネット等を使って調べ学習を行います。レポートに調べた内容をまとめ、自分の考えを深めていこう。(Activity, Topicsを参考にしてもいいです。)
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		○子どもについての関心を持ち、意欲的に学習に取り組みましょう。 ○保育園を訪問する際には、観察・参加・実習を伴います。事前学習を踏まえて各自が目標を持って実習に臨みましょう。また、実習に持参するおもちゃを製作します。子どもが遊ぶおもちゃについて日頃から興味を持って観察しましょう。 ○プリントや資料はファイルに保管し、いつでも提出できるように努めましょう。ノートは丁寧に記入しましょう。	1 確認テスト及び定期試験(年間2~4回)…40% 2 実習への取り組み(態度、忘れ物) …40% 3 提出物(プリント、ワークへの記入状況)及び授業態度等 …20% 以上を総合的に評価します。
備考	○年間実習費…1,500円。 ○保育園実習あり。(年間2回実施予定) ○調理実習(離乳食、幼児食、おやつ)…5回程度。エプロン、三角巾、手拭きタオルを準備してください。 ○おもちゃ製作。		

年間学習計画

教科：家庭

科目：服飾手芸

単位：2単位（2年次以上）

学習目標：手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	(1)基礎縫い、手縫い 刺し子の布巾、コースター製作 1.刺し子の色選び 2.さらし布の裁断、アイロン掛け 3.印しつけ	○刺し子の製作を通して、刺しゅう糸の種類や特徴、手縫いの基礎縫いなどの知識や技術を習得する。 ○刺し子糸の色を自由に選び、オリジナルの作品を作る。
	5	4.刺し子(手縫い) 5.仕上げ(アイロン掛け)	
	6		
	7	(2)ポーチの製作 1.生地選び 2.ポーチのデザイン 3.デザインの刺しゅう、アップリケ 4.ファスナー付け(しつけ縫い、ミシン本縫い)	○ポーチの製作を通して、刺しゅうの技法、ビーズ刺しゅう、アップリケ等の技術とミシンの扱い方を習得する。 ○ファスナー付けの技術習得や、マチのあるポーチ作りから立体的な袋の構成の仕方を習得する。
	8	5.ポーチの成形(しつけ縫い、ミシン本縫い)	○自由にデザインをして、オリジナルの作品を作る。
後期	9		
	10	(3)ティッシュボックスカバー 1.しるし付け、裁断(表布、裏布) 2.アイロン掛け(準備)、しつけ縫い 3.デザインを考え、本体につける 4.本体生地の成形(アイロン掛け、縫製)	○ミシンの直線縫いでオリジナルのティッシュボックスカバーを製作する。 ○アップリケや刺しゅうなど自由にデザインを考える。 ○ミシンとロックミシンを用いて布の端を始末したり、アイロン掛けをして、丁寧な作品作りに取り組む。
	11	5.クルミボタン作り 6.ティッシュボックスカバーの成形(仕上げ)	○サイズ、生地を自由に選び、クルミボタンを作る。
	12	(4)フェルトのキーホルダー作り	○フェルトを使って、色々なデザインのキーホルダーを製作する。
	1	(5)編み物 マフラー、ハンドウォーマー、ネックウォーマー、アクリルたわし等 (3、4年次生は1月末で終了)	○毛糸の扱い方、かぎ針編み、棒針編みなどを取り上げ基礎的な編み方の技法、仕上げなどを扱う。 ○毛糸の色、かぎ針編み、棒針編みなどを自由に選び、作りたい作品を自分で考えて製作する。
2	(2年次生) (6)バック作り	○サイズ、形を自由に決め、オリジナルのバックを製作する。 ○刺しゅう、アップリケ、パッチワーク、ポケットなど自由にデザインをして、自分が使いたいバックを製作する。	
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
<p>○デザインや色選びは自分で考え、オリジナル作品を製作します。</p> <p>○完成作品の評価の他に、実習態度や出席状況等からも評価をします。</p> <p>○未提出の作品があると、評価ができませんので、すべての課題作品を完成させて提出しましょう。また、自宅に持ち帰って作品を作ることはできませんので、授業の中で仕上げるようにしましょう。</p> <p>○欠席すると、進度が遅くなるので休まないようにしましょう。</p> <p>○定期考査は、授業の中で筆記試験や実技試験(基礎縫い等)を行う場合があります。</p>			<p>1.課題作品の完成度…80%</p> <p>2.授業への取り組み方 (意欲・態度・振り返り)…20%</p> <p>等から総合的に評価します。</p>
備考	○年間実習費として1500円を集めます。		

年間学習計画

教科：家庭

科目：フードデザインA (実教出版 フードデザイン 新訂版)

単位：3単位 (3年次以上)

学習目標：食品に関する知識を習得し、調理上の性質や加工方法を理解します。そして食生活を総合的にデザインする能力を育てます。また、食品の安全性について考え、実践できる力を養います。

学期	月	学習内容	実験実習	学習上の目標と留意点
前期	4	3章 食品の特徴・表示・安全	第1回実験実習(米) 第2回実験実習(小麦粉) 第3回実験実習(いも類) 第4回実験実習(砂糖) 第5回実験実習(豆類) 前期中間考査 第6回実験実習(野菜・肉類) 第7回実験実習(卵類) 第8回実験実習(乳製品) 前期末考査 第9回実験実習(ゼリー) 第10回実験実習(嗜好食品) 第11回実験実習(調味料) 後期中間考査 第12回調理実習(総合) 後期末考査	○日常よく使用される食品を取り上げ、その食品の特徴、調理上の性質及び加工品を理解する。さらに、実験によって、食品とその特質の理解を深めます。
		1節 食品の特徴と性質		
	5	1. 穀類		
		2. いも類		
	6	3. 砂糖		
		4. 豆類・5. 種実類		
	7	6. 野菜類		
		7. 果物		
	8	8. きのこと類		
		9. 海藻類		
9	10. 魚介類			
	11. 肉類			
後期	10	12. 卵		
		13. 牛乳・乳製品		
	11	14. 油脂類		
		15. 寒天・ゼラチン		
	12	16. 嗜好食品		
		17. 調味料・香辛料		
	1	18. 加工食品と加工方法		
		19. 特別用途食品と保健機能食品		
	2	2節 食品の生産と流通		
		1. 第1次産業の現状		
3	2. 食品の生産			
	3. 食品の流通			
4	3節 食品の選択と表示			
	1. 食品の多様化			
5	2. 食品の選択			
	3. 食品の表示			
6	4節 食品の衛生と安全			
	1. 食中毒			
7	2. 台所の衛生			
	3. 食品添加物			
日常の学習についてのアドバイス				評価方法
<p>○この科目を学ぶ上で最も大切なことは、単なる知識や技術の習得のみでなく学習した内容を実際の食生活に生かすことです。</p> <p>○授業に必要な用具(調理実習時のエプロン、三角巾、タオル)を忘れないこと。</p> <p>○授業で配布されるプリントやワークシートはファイルにとじること。</p> <p>○何事も意欲的に取り組んでください。調理実習等の班別行動は、仲間と協力、協調することが大切です。</p> <p>○毎時間の授業を休まず積極的に取り組んでください。</p>				<p>1.定期考査の素点50%～60%</p> <p>2.授業への取り組み、振り返りシートの内容、忘れ物等の減点</p> <p>3.調理実習や実験等での実習態度</p> <p>4.提出物や課題の内容</p> <p>*2, 3, 4で40%～50%</p> <p>これらの総合評価になります。</p>
備考	実習費として2000円集めます。			

年間学習計画

教科：家庭

科目：フードデザインB（実教出版 フードデザイン新訂版）

単位：4単位（3年次以上）

学習目標：食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を学びます。また、調理の目的を理解し、調理実習を通して基礎的・基本的な調理技術を学びます。

学期	月	学習内容		学習上の目標と留意点	
		講義	調理実習・その他実習		
前期	4	1章 食生活と健康 1節 食事の意義と役割 2節 食をとりまく現状	4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作 ＜調理実習＞ ・季節の和風献立 ・日常の洋風献立 ・簡単な中国風献立 ・デザート(和・洋) 5章 料理様式とテーブルコーディネート 1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート ＜実習1＞ ・箸袋の作製 ＜実習2＞ ・ランチョンマットの作製 6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 ＜調理実習＞ ・和風献立 ・洋風献立 ・中国風献立 ※ 調理実習・実験 年間10回程度	○私たちは毎日食事をしています。食事の持つ役割が、健康のための栄養摂取だけでなく、人との交流を楽しんだり、食文化を伝えるための社会的な役割も果たしていることについて理解を深めよう。(1章1節) ○食生活の洋風化やライフスタイルの変化など、日本の食をとりまく現状と抱えている問題点について理解しよう。食の安全性や、問題点の改善方法について、身近な所から考え行動できるようになろう。(1章2節) ○調理実習における衛生管理として、身だしなみの大切さや、衛生的な調理器具の扱い方について理解し、実習に臨めるよう準備しよう。また、実習を通して食品の特徴や調理上の性質をよく理解し、適切な調理が行えるようになる。(4章) ○私たちは食べ物に含まれる栄養素を利用して、エネルギーや体に必要な物質を作り出して生命を維持しています。成長や健康の維持・増進のために、5大栄養素の役割について詳しく学びながら、それらの栄養素を多く含む食品や代謝について理解を深めよう。(2章)	
	5	2章 栄養素のはたらきと食事計画 1節 からだのしくみと食べ物		○日本料理、西洋料理および中国料理の基本的なテーブルセッティングや、テーマにふさわしいテーブルコーディネートおよびサービスの方法を学ぼう。(5章1節) ○食事を心豊かにおいしく食べられるために、重要な食卓の演出について理解を深め、日常の生活に活かせるようオリジナルのランチョンマットを作って食卓の演出を考えてみよう。(5章2節) ○食べたものが消化されるためには、消化酵素の働きが必要です。消化器官から分泌される消化酵素とその働きについて理解し、摂取した食物が体内で消化・吸収され、排泄されるまでのしくみの概要について理解を深めよう。(2章8節) ○「日本人の食事摂取基準」をもとに、自分のエネルギー必要量と各栄養素の摂取量の基準について理解しよう。食品群別摂取量のめやすや食事バランスガイドを使って、栄養バランスの良い献立を作ってみよう。(2章9節)	
	6	2節 炭水化物		○ライフステージごとに体の成長の特徴は違っており、それに合わせて栄養の特徴も違っています。それぞれのライフステージの栄養上の注意点や生活上の留意事項、調理法の工夫などについて学んでいこう。(2章10節) ○これまでの調理実習で学んできた基本的な技術と合わせて、家庭生活でも家族の健康を考えた日常食が調理できるよう、献立作成の手順や要点を理解しよう。また、家族の嗜好や調理作業効率、食の国際化なども考慮しながら、加工食品や輸入食品等を適切に選択できるようになろう。(6章)	
	7	3節 脂質		○現在の私たちの食生活は多くの課題を抱えており、これらの問題に対処するために、食育活動を通して様々な取り組みが行われています。食育の意義と活動内容について理解し、身近な所で行われている食育活動について関心を持ち、自分たちでできる取り組みを考えよう。(7章)	
	8	4節 たんぱく質			
	9	5節 ビタミン			
	9	6節 ミネラル			
	9	7節 水・その他の物質			
	後期	10		8節 消化と吸収	
		10		9節 食事摂取基準と食事計画	
11		10節 ライフステージと栄養計画			
12		7章 食育 1節 食育の意義と推進活動			
1					
2					
日常の学習についてのアドバイス				評価方法	
○授業で学んだことを復習するように心がけ、日々の食生活に活用できるようにしましょう。 ○年間約10回の調理実習を予定しています。調理実習では、調理方法や手順、ポイントをあらかじめ頭に入れて臨み、効率的に実習を進められるよう取り組みましょう。エプロン、三角巾、手拭きタオル、爪を切るなど実習に関する約束事は守りましょう。(意欲・態度の評価の観点に含みます。)				1 定期試験(年間4回) …40% 2 調理実習への取り組み(態度、忘れ物) …40% 3 提出物(プリント、ワークへの記入状況)及び授業態度等 …20%	
○プリントや資料はファイルに保管し、いつでも提出できるように努めましょう。ノートは丁寧に記入しよう。				以上を総合的に評価します。	
備考	○年間調理実習費・・・5,000円 ○年間調理実習・実験回数・・・10回程度 ○外部講師による実習あり		○実習の際は、エプロン・三角巾・手拭きタオルが必須 つめを切ること		

年間学習計画

- 教科 : 情報
 科目 : 社会と情報
 単位 : 2単位 (2年次以上)
 学習目標 :
 1. 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる。
 2. 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して、情報を収集、処理、表現させる。
 3. 効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	第1章 情報社会 1 情報と情報社会 2 社会の変化と個人の責任 3 情報社会の問題 4 メディアとその特徴 5 メディアと広告 6 メディアの選択 7 個人情報とその保護	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報や情報社会とは何か、どのような特徴を持っているか考え、情報社会に参画する心がまえを養う。メディアの特性を理解し、その特性に応じてメディアを使い分けることができるようになる。情報の発信者としてメディアを理解し、情報社会で生きるための資質を養う。 ○ 個人情報・プライバシー・肖像権について理解し、保護・尊重する態度を養う。セキュリティ、ネチケットについて理解し、実践する態度を養う。インターネットを介したコミュニケーションの特性を理解し、信頼性を確保する方法を理解する。
	5	第2章 コミュニケーション 1 コミュニケーション 2 メール利用 3 ネットワーク 4 共通の取り決め 5 インターネットの仕組み 6 webページの閲覧とメールの仕組み 7 インターネットのサービス 8 合意形成 9 クラウドコンピューティング 人に優しい情報技術	<ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニケーションの形態やそれに变化ついて学ぶ。電子メールにおける機種依存文字や添付ファイルおよび電子メールにおける同報機能や誤解を招かない表現について理解する。 ○ ネットワークの構成およびさまざまな種類のネットワークの形態について学ぶ。プロトコルやファイル形式について理解を深め、データの記述の共通化やプラットフォームの共通化について学ぶ。 ○ IPアドレス、ドメイン名、パケット交換、回線の種類について学ぶ。Webページの閲覧の仕組み、電子メールの送受信の仕組みについて学び、リアルタイムのコミュニケーションについて理解する。Webページの閲覧の仕組み、電子メールの送受信の仕組みについて学ぶ。 ○ ネットワークを利用した情報の共有化・協働化、クラウドコンピューティングの仕組みや利用について学ぶ。バリアフリーやユニバーサルデザイン、遠隔医療や遠隔教育について学ぶ。
	6	第3章 情報安全 1 個人による安全対策 2 組織による安全対策 3 安全のための情報技術 4 暗号化(暗号化の仕組み) 5 法規による安全対策 6 知的財産権の概要と産業財産権 7 著作権 8 著作物の利用	<ul style="list-style-type: none"> ○ パスワード、コンピュータウイルスとウイルス対策ソフトについて学ぶ。不正アクセスとファイアーウォール、セキュリティーポリシー、アクセス制限、VLANについて学ぶ。 ○ 暗号化やフィルタリング、電子透かしなどの技術およびバリエーションチェックの仕組みについて学ぶ。共通鍵暗号や公開鍵暗号、SSLなどの暗号化、電子署名、RSA暗号の仕組みについて学ぶ。 ○ 個人情報の保護に関する法律や情報公開について学ぶ。商取引や不正アクセス、プロバイダなどに関する法律について学ぶ。知的財産権の種類、産業財産権、著作権の権利と伝達者の権利、例外規定や著作権の侵害例について学ぶ。 ○ 著作物を利用する際の方法及び私的録音・録画複製金制度、不正コピーについて学ぶ。
後期	10	第4章 デジタル化 1 デジタル情報の特徴 2 静止画像の扱い 3 数値や文字の表し方 4 音声のデジタル化 5 色のデジタル表現 6 画像のデジタル化(動画と立体表現) 7 圧縮の仕組み 8 さまざまな計算	<ul style="list-style-type: none"> ○ アナログとデジタル、およびその取り扱いについて理解する。数値、文字、音声、画像のデジタル化や圧縮の仕組みを理解する。動画再生用ソフトを用いて再生速度を変える実習やオートシェイプを用いて立体図形を描画する実習を行う。 ○ 音声や画像のデータ量、プリンタの解像度の計算問題や通信速度、2進数の四則計算の計算問題を解く。
	11	第5章 問題解決 1 問題を解決するには 2 情報の収集(検索と論理演算) 3 情報の整理と管理 4 分析のための工夫 5 関数と統計 6 表とグラフの活用 7 分析の実際 8 問題解決の実践 ・論理的な文章構成 ・表現の工夫 9 プレゼンテーションの方法 10 webページによる情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決の意味や手順・手法について理解を深める。表計算ソフトのデータ形式や、分析のためのデータ処理について理解する。表計算ソフトに実装されている、関数やグラフの機能を理解する。 ○ 具体的な事例で、手がける問題点を明確にする。表計算ソフトを利用して問題点を整理し、分析のためのワークシートの工夫をする。解決案に対する検討・評価・実施をへた反省をまとめ、次の問題解決に活かす。 ○ 情報を適切に表現し、スライドの作成およびプレゼンテーションを行い、相互に評価する。 ○ Webページの目的や留意点について理解し、基本的なHTMLの文法について学び、簡単なWebページを作成する。
	12	日常の学習についてのアドバイス ・1時間の授業を大切に集中して取り組む。 ・座学並びに実習中は説明をよく聞き、疑問点があれば質問する。 ・日々、身の回りの情報機器(携帯電話やパソコン等)や情報化社会、また、それらを取り巻く問題に興味・関心を持ち授業内容につなげる。	評価方法 1. 定期考査(60%) 2. 実技・プリント(20%) 3. 関心・意欲・態度(20%) 以上を総合的に評価する。
備考			

年間学習計画

教科 : 商業
科目 : ビジネス基礎
単位 : 3単位 (2年次生以上)
学習目標 :

- ・ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員として望ましい心構えを身につけさせるとともに、ビジネス・ビジネスに関する基礎的な知識・技術を習得させ、経済社会で生きていく力を身につけさせる。
- ・経済社会の一員としての心構えをもたせ、ビジネスの諸活動に適切に対応できるような能力・態度を養う。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前 期	4	第1章 商業の学習ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・のぞましい人間関係、倫理観や責任感、豊かな人間性、創造性、主体性、自己責任など抽象的な概念を具体的に説明する。 ・商業の4つの学習分野で学ぶ内容のアウトラインを第1節の4つのシーンを活用しながら紹介する。 ・自ら考え、自ら学ぶ、基礎基本の大切さ、進路、生涯学習の観点から商業の学び方を理解させる。
		1. いざ、ビジネスの世界へ 2. 私たちの社会とビジネス	
	5	第2章 ビジネスとコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスにおける信頼関係の構築の意義と重要性について理解させる。 ・ビジネスマナーの意義を理解し、場面に応じた行動が適切に取れるようになる。 ・企業活動における情報の重要性について理解し、入手した情報の活用・評価・改善ができるようになる。
		1. コミュニケーション	
		2. ビジネスマナー 3. 情報の入手と活用	
	5	第3章 経済と流通の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・商品(もの・サービス)の定義を紹介し、経済の仕組み(生産・流通・消費)や経済主体と経済循環などについて理解させる。 ・ものまたはサービスを生産するビジネスやものを流通させるビジネス、流通を円滑にするビジネスなど、経済を支えるビジネスに関心を向けさせ、ビジネスの定義および役割を理解させる。 ・三大生産要素(土地・資本・労働力)の意味を確認し、これらは限りあるものであること、すなわち希少性概念について理解させる。 ・生産と消費の隔たりを橋渡しすることが流通の役割であることを理解させる。 ・消費者ニーズが多様化(高級化・個性化など)していること、小売業が業種から業態に重点を置くようになったこと、電子商取引が活発になっていること、デジタルコンテンツビジネスが進展していること、顧客満足の表現に立つマーケティングが求められていることなど、流通をとりまく環境の変化について具体的に解説する。
		1. 経済のしくみとビジネス 2. 経済活動と流通	
	6	第4章 さまざまなビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの生産者には農業・林業・漁業などや原材料を加工して製品を作る製造業などがあるが、ここでは製造業について学ばせる。 ・消費者保護を目的としたPL法などが、自然環境などに配慮して容器包装リサイクル法などが施行されていることを紹介する。 ・サービスの生産者を具体例を挙げて説明し、サービスの生産とはサービスの提供を意味していることを理解させる。 ・サービスの生産者の種類を「日本標準産業分類」などを活用して紹介し、形のない商品(サービス)について理解させる。 ・小売業には、商品の販売のほか、情報提供や地域コミュニティの形成・地域文化の形成など広い役割があることを理解させる。 ・商店街やショッピングセンターなど小売業者の集まり、小売業者のチェーン化などの現状を紹介する。 ・卸売業者の基本的な役割のほか、生産者や小売業者への情報提供などの役割があることを理解させる。 ・商品流通における卸売業者の収集機能・仲継機能・分散機能の3つの機能によって分類できることを理解させる。 ・消費者と生産者の間の場所的・時間的隔たりを解消するのが物流の役割であることを理解させる。輸送・保管・荷役などについて説明する。 ・物流業者には、輸送業者と倉庫業者があることを理解させ、それぞれの具体的な業務を紹介する。 ・物流の情報ネットワーク化と物流のシステム化の動向を具体的な例を挙げてわかりやすく説明する。
		1. ビジネスの種類	
2. 小売業			
3. 卸売業			
後 期	9	4. 物流業	<ul style="list-style-type: none"> ・資金の需給を調整し、企業などが必要とする資金を供給することが金融業者の役割であることを理解させる。また、金融機関という用語にも触れる。 ・民間金融機関・政府系金融機関・中央銀行に大きく分類できることを確認した後、民間金融機関を中心に種類を整理する。 ・普通銀行・証券会社・保険会社のそれぞれのビジネスについて、その基本的な業務や仕組みなどを理解させる。 ・情報通信の技術開発やネットワークを構築し、サービスとして提供するのが情報通信業者の役割であることを理解させる。 ・情報通信業のおもな担い手として、通信業者と情報サービス業者があることを理解させる。
		5. 金融業	
	10	6. 情報通信業	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の役割や種類などについて理解させる。とくに株式会社のみや機関については、基本的な内容をしっかりと理解させる。 ・企業の組織について組織の発展をたどりながら組織の意味を理解させる。また、いろいろな組織と経営戦略との関連について説明する。 ・マーケティングの意味、活動について理解させる。 ・ヒット商品の事例から、ヒットに繋がった要因について分析し、答えを導き出すことができる。 ・ビジネスに必要な資金には、運転資金と設備資金があることを説明し、それぞれの資金の意味を理解させる。 ・各種の資金調達の方法があることを説明し、とくに社債の発行と株式の発行による資金調達を理解させる。 ・企業が外部に提供する情報について理解させる。 ・財務諸表と利害調整の関係について理解させる。 ・税の意味と法人税・住民税・事業税・固定資産税・消費税の概略を理解させる。 ・申告納税方式について、その概略を紹介する。 ・雇用の意義について、賃金・雇用契約・失業率などのキーワードを用いて説明する。 ・わが国における雇用の特徴について、終身雇用・年功序列・成果主義賃金制度・労働組合などのキーワードを用いて説明する。 ・正規雇用と非正規雇用について説明し、とくに後者の雇用の現状を紹介し、その問題点を考えさせる。
		第5章 企業活動の基礎	
		1. ビジネスと企業	
11	2. マーケティングの重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・小切手の意味、振り出し、受け取り、不渡り、繰引小切手などについて理解させる。 ・約束手形の意味、振り出し、受け取り、不渡りなどについて理解させる。為替手形の意味、振り出し、引き受け、受け取り、不渡りなどについて理解させる。 	
	3. 資金調達		
12	6	4. 財務諸表の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・割合の表わし方、基準量と比較量、割増しおよび割引の計算について理解させる。 ・取引数量と建・建値による商品の代価の計算方法を理解させる。 ・度量衡の意味を理解させ、換算に関する問題練習を行う。貨幣換算の意味を理解させ、換算に関する問題演習を行う。単利と複利、利息と元利合計、利息の日数計算を理解させる。
		5. 企業活動と税	
	7	6. 雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習等を通して、さまざまな地域で行われているビジネスについて理解を深める。 ・地域で行われているビジネスに関する知識をもとに、身近な地域のビジネスに関する課題を発見しその対応策について考えることができる。
		第6章 ビジネスと売買取引	
		1. 売買取引の手順	
1	2	2. 代金決済	<ul style="list-style-type: none"> ・割合の表わし方、基準量と比較量、割増しおよび割引の計算について理解させる。 ・取引数量と建・建値による商品の代価の計算方法を理解させる。 ・度量衡の意味を理解させ、換算に関する問題練習を行う。貨幣換算の意味を理解させ、換算に関する問題演習を行う。単利と複利、利息と元利合計、利息の日数計算を理解させる。
		第7章 売買に関する計算	
1	2	1. ビジネス計算の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習等を通して、さまざまな地域で行われているビジネスについて理解を深める。 ・地域で行われているビジネスに関する知識をもとに、身近な地域のビジネスに関する課題を発見しその対応策について考えることができる。
		2. ビジネス計算の応用	
		第8章 身近な地域のビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習等を通して、さまざまな地域で行われているビジネスについて理解を深める。 ・地域で行われているビジネスに関する知識をもとに、身近な地域のビジネスに関する課題を発見しその対応策について考えることができる。
		1. さまざまな地域の魅力と課題 2. 地域ビジネスの動向	
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の予習復習を大切にすること。 ・授業をよく聞き、分からないところがあれば質問をする。(放課後可) ・身の回りの企業、商品、サービスについて考えを巡らせてみる 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 定期考査(60%) 2. 課題・レポート(20%) 3. 関心・意欲・態度(20%) 以上を総合的に評価する。
備 考	・通信科目も上記内容に準じる。		

年間学習計画

教科：商業

科目：簿記

単位：3単位（2年次生以上）

学習目標：企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得させ、簿記の基本的な仕組みについて理解させるとともに、ビジネスの諸活動を数計的に把握する能力と態度を育てる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前期	4	第I編 簿記の基本	<ul style="list-style-type: none"> ○簿記とは「帳簿記録」のことである。 ○簿記の目的は「経営活動の成果を知り、結果として財政状態がどうなったかを明らかにして、将来の方針決定に役立てる。 ○資産・負債・資本の概念を理解する。 ○貸借対照表の形式と作成方法とその意味を理解する。 ○財産法による純損益計算の仕組みを理解する。 ○収益と費用の基本概念を理解する。 ○収益と費用と財産の増減との相互関係を学習させ、損益計算書等式を理解する。 ○損益法による純損益計算のしくみを理解する。 ○簿記上の取引の意味を明らかにする。 ○勘定への記入法は仕訳や転記の学習の基礎となるので、徹底して理解できるように繰り返し学習する。 ○仕訳の意味と役割・必要性を理解させ、その方法を習得する。 ○勘定口座への転記の要領について正しく理解する。 ○仕訳帳の役割について理解し、その記入方法を習得する。 ○総勘定元帳の役割について理解し、その記入方法を習得する。 ○試算表の種類とその作成方法を理解させる。 ○精算表の作成手順を明らかにし、その作成を習得する。 ○総勘定元帳と仕訳帳の締め切りの手順を理解する。
		第1章 企業の簿記	
		第2章 資産・負債・資本－貸借対照表－	
		第3章 収益・費用－損益計算書－	
	5	第4章 取引と勘定	<ul style="list-style-type: none"> ○現金に関する取引の内容を理解し、その記帳方法を習得する。 ○商品勘定の分割の意義を理解し、その記帳方法を習得する。 ○売掛金元帳・買掛金元帳などの補助元帳の記入方法を習得する。 ○商品代金の支払に用いられる約束手形と為替手形の内容と、その記帳方法を理解する。 ○売掛金・買掛金、受取手形・支払手形以外の債権・債務の諸勘定の特徴と、その記帳処理の方法を理解する。 ○有価証券の売買取引において、簿記上、有価証券として取り扱われるものの内容について理解する。 ○固定資産の取得時・売却時の記帳方法を理解する。 ○営業費の内容と種類について理解する。 ○個人企業における資本金勘定の性質と、資本金勘定の増加・減少の場合を理解する。 ○個人企業における資本金勘定の課される税金の種類と、どのようなことに課される税金であるのかを理解する。 ○税法上、必要経費または損金として認められない税金について区別する。 ○決算整理の意味を把握し、決算整理事項について理解する。 ○8けた精算表の意味を理解し、その作成方法を習得する。 ○帳簿決算の方法を理解する。 ○財務諸表の意味を理解する。 ○勘定式の損益計算書・貸借対照表の作成方法を理解する。 ○3伝票制による起票・集計・転記を習得する。 ○約束手形の書き換え・不渡り、営業外手形などの仕訳を理解する。 ○有価証券の評価、費用・収益の見越し・繰り延べに関する仕訳を理解する。 ○控除形式の貸借対照表と2区分の損益計算書の記帳法を習得する。
		第5章 仕訳と勘定への記入	
		第6章 仕訳帳と総勘定元帳	
		第7章 試算表	
		第8章 決算	
6	第II編 各種取引の処理	<ul style="list-style-type: none"> ○現金に関する取引の内容を理解し、その記帳方法を習得する。 ○商品勘定の分割の意義を理解し、その記帳方法を習得する。 ○売掛金元帳・買掛金元帳などの補助元帳の記入方法を習得する。 	
	第1章 現金・預金の記帳		
	第2章 商品売上の記帳		
7	第3章 掛取引の記帳	<ul style="list-style-type: none"> ○現金に関する取引の内容を理解し、その記帳方法を習得する。 ○商品勘定の分割の意義を理解し、その記帳方法を習得する。 ○売掛金元帳・買掛金元帳などの補助元帳の記入方法を習得する。 	
8			
9			
後期	10	第4章 手形取引の記帳	<ul style="list-style-type: none"> ○現金に関する取引の内容を理解し、その記帳方法を習得する。 ○商品勘定の分割の意義を理解し、その記帳方法を習得する。 ○売掛金元帳・買掛金元帳などの補助元帳の記入方法を習得する。
		第5章 その他の債権・債務の記帳	
		第6章 有価証券の記帳	
		第7章 固定資産の記帳	
		第8章 販売費および一般管理費の記帳	
	11	第9章 個人企業の純資産の記帳	<ul style="list-style-type: none"> ○現金に関する取引の内容を理解し、その記帳方法を習得する。 ○商品勘定の分割の意義を理解し、その記帳方法を習得する。 ○売掛金元帳・買掛金元帳などの補助元帳の記入方法を習得する。
		第10章 個人企業の税金の記帳	
		第III編 決算(1)	
		決算整理(その1)	
		第IV編 会計帳簿(1)	
1	第1章 帳簿	<ul style="list-style-type: none"> ○現金に関する取引の内容を理解し、その記帳方法を習得する。 ○商品勘定の分割の意義を理解し、その記帳方法を習得する。 ○売掛金元帳・買掛金元帳などの補助元帳の記入方法を習得する。 	
	第2章 3伝票制による記帳		
2	第V編 特殊な取引	<ul style="list-style-type: none"> ○現金に関する取引の内容を理解し、その記帳方法を習得する。 ○商品勘定の分割の意義を理解し、その記帳方法を習得する。 ○売掛金元帳・買掛金元帳などの補助元帳の記入方法を習得する。 	
	第1章 特殊な手形取引の記帳		
2	第VI編 決算(2)	<ul style="list-style-type: none"> ○現金に関する取引の内容を理解し、その記帳方法を習得する。 ○商品勘定の分割の意義を理解し、その記帳方法を習得する。 ○売掛金元帳・買掛金元帳などの補助元帳の記入方法を習得する。 	
	第1章 決算整理(その2)		
		日常の学習についてのアドバイス	評価方法
		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業を大切に。 ・簿記のルールでつまずくとその後の学習に大きく影響します。 ・繰り返し問題に取り組むことが大切です。 ・授業をよく聞き、分からないところがあれば質問をする。(放課後可) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期考査(60%) 2. 小テスト・プリント(20%) 3. 関心・意欲・態度(20%) <p>以上を総合的に評価する。</p>
備考	・全商簿記検定受験可能		

年間学習計画

教科：商業

科目：情報処理

単位：3単位（2年次生以上）

学習目標：
 ・ビジネスの諸活動における情報の意義や役割を理解し、情報をビジネスに積極的に活用する態度を身につける。
 ・コンピュータの基本的な仕組みやソフトウェアなどに関する基礎的な知識を習得し、目的に応じた機器の利用ができる。
 ・表計算ソフトウェアやワープロソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、情報通信ネットワークなどを活用したビジネス情報の処理ができる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点
前 期	4	第1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で利用されている情報システムや、情報処理に関わる仕事などを通して、どのような能力を身につけるべきかを考えることができる。 ・情報を正しく扱うことの大切さに気付くことができ、そのために必要なモラルや基本的な考え方や態度を身につける。 ・情報を取り扱ううえで守るべき法規の必要性とその概要を理解する。
		2節 情報モラルと法規	
		3節 コミュニケーションと情報デザイン	
	5	第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身につけることができる。
		2節 情報通信ネットワークのしくみと構成	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法について学ぶ。
		3節 インターネットの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の効果的な検索と活用方法について理解する。 ・電子メールを使ううえでの注意点や危険性について考えることができる。 ・情報社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について理解する。 ・情報セキュリティに問題が生じたときにの対策について考え、適切な行動をとることができるようになる。
		4節 情報セキュリティの確保	
	6	第3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計	<ul style="list-style-type: none"> ・関数を利用して有用なビジネス情報を導き出すための技法を学ぶ。 ・合計、平均、最大値、最小値、判定、件数カウント、端数処理、順位付けや日付などの関数を利用できるようにする。 ・データベース関数などの応用的な関数が利用できるようにする。 ・グラフを用いて表のデータをわかりやすく表現できるようにするため、グラフの基礎知識や作成方法を学ぶ。 ・表のデータを目的に応じた利用しやすい形で取り出し活用するため、整列や検索の技法などを学ぶ。 ・目的に応じた適切な計算やビジネスにおける需要予測などの傾向をとらえる力を習得させる。 ・問題の発見と解決の手順について理解するとともに、企業活動の改善に使われるツールを扱って情報の分析ができるようになる。
		2節 関数を利用した表の作成	
3節 グラフの作成			
4節 情報の整列・検索・抽出			
5節 問題の発見と解決の方法			
後 期	10	第4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解させる。 ・図形や画像情報の活用により情報の簡潔化、明瞭化、印象の強化などの効果が期待できることについて理解させる。
		2節 基本文書の作成	
		3節 応用文書の作成	
	11	全商情報処理検定対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロの利用に関する知識と技術を習得させ、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解させるとともに、基本的な社内文書や社外文書を取り上げて、作成に関する知識と技術を習得させる。 ・ワープロの多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術を習得させる。 ・各自の学習進度に応じて全国商業高等学校協会の情報処理検定3級・2級を受験することが可能です。
	12	第5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション活動の目的や方法について理解させる。 ・プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、発表用の資料の整理や作成などの準備から発表までのプレゼンテーション技法を習得させる。
		2節 ビジネスとプレゼンテーション	
1	総合演習	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ソフトウェアを適切に活用し、様々な報告書や文書を作成、発表することができるようになる。 	
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードの入力に慣れましょう ・機器の操作は繰り返して学習しよう ・授業をよく聞き、分からないところがあれば質問をする。(放課後可) 			<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期考査(60%) 2. 実技・技能(20%) 3. 関心・意欲・態度(20%) 以上を総合的に評価する。
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・全商情報処理検定受験可能 ・ビジネス文書実務検定受験可能 		

年間学習計画

教 科 : 商業
 科 目 : 電子商取引
 単 位 : 3単位 (2年次生以上)
 学習目標 :
 ・高度情報化社会における企業の役割を理解させる。
 ・情報通信ネットワークを活用した商取引の意義を理解させるとともに、それを行うための知識と技術を習得させる。
 ・利用者の立場に立ったシステムを構築するため、コンピュータを効果的に活用する能力と態度を育てる。

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標
前 期	4	第1章 情報通信技術の進歩とビジネス 1 ビジネスの変化	・電子商取引の必要性について理解させる。
	5	2 情報通信ネットワークの活用と課題	・電子商取引における広告・広報活動の特徴と用途について理解させる。 ・情報通信ネットワークの実態について理解させる。 ・個人情報、知的財産権の保護の必要性について理解させる。
	6	第2章 コンテンツの制作 1 ファイルの形式	・図形・静止画・動画・音声などの特徴について理解させる。
		2 図形	・図形情報の効果的な利用法を習得させる。
		3 静止画	・静止画データの取得方法やこれを活用するための技法を習得させる。
		4 動画	・動画データの取得方法やこれを活用するための技法を習得させる。
	7	5 音声	・音声データの取得方法やこれを活用するための技法を習得させる。
	8	6 情報の統合	・情報を統合することの意義や役割について理解させるとともに、情報を統合するための技法を習得させる。
	9	第3章 ウェブデザインと広告・広報 1 ウェブページ制作までの手順 2 ウェブデザイン設計	・ウェブページを制作するための手順について理解させる。 ・ウェブデザインの意義や役割について理解させるとともに、デザインの基礎的な知識を習得させる。
後 期	10	3 ウェブページ制作の基礎 4 ウェブページ制作の応用	・HTMLの基本的なタグやスタイルシート(CSS)、JavaScriptの利用方法を理解させるとともに、ウェブページ作成ソフトウェアやワープロソフトウェアを利用する方法で、ウェブページを作成する基本的な技法を習得させる。 ・CMSの意義や役割について理解させる。
	11	第4章 ウェブページの公開 1 ネットワーク機器の種類と機能	・通信ネットワークの仕組みや役割について理解させるとともに、ウェブページを管理・運営するために必要なネットワーク機器の基本的な知識を習得させる。
		2 公開の方法	・ウェブページを公開するための手順について理解させるとともに、インターネットの基礎的な知識を習得させる。
	12	第5章 電子商取引とビジネス 1 電子商取引のしくみ 2 企業間取引と企業対消費者間取引	・電子商取引の意義や役割について理解させる。 ・電子商取引サイト開業に必要な手順を理解させるとともに、店舗運営を行うための基礎的な知識を習得させる。 ・取引対象が異なる電子商取引の違いについて理解させる。
		1	3 電子決済のしくみと方法
	2	4 電子商取引システムの作成	※ 3・4年次生は後期末考査
	2	※ 2年次生は復習・応用問題	
日常の学習についてのアドバイス			評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の授業を大切に集中して取り組む。 ・座学並びに実習中は説明をよく聞き、疑問点があれば質問する。 ・普段目に見ているWebページのレイアウトなどを気にしてみる 			1. テスト(60%) 2. 実技(20%) 3. 関心・意欲・態度(20%) 以上を総合的に評価する。
備 考			

教 科：自立活動

科 目：未来を拓くⅠ（１年生１０月～）、Ⅱ・Ⅲ（２・３年生４月～）

単 位：学年ごとに１単位。

但し、２以上の年次にわたる授業時数を合算して単位の認定を行うことがある。

単位認定：定期考査はなし。出席日数等、必要な要件を満たした場合に単位の認定を行う。

学習目標：個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う。

受講条件：令和２年度入学生より受講可能。この科目を受講したい場合は担任に相談すること。

受講願を受理後、校内委員会で審議したのち、受講を決定する。

授業内容：学習目標や内容は、以下の６区分２７項目から個々の課題に応じて選ぶ。

<p>1 健康の保持</p> <p>(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事 こと。</p> <p>(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事 こと。</p> <p>(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事 こと。</p> <p>(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する 事 こと。</p> <p>(5) 健康状態の維持・改善に関する事 こと。</p>	<p>4 環境の把握</p> <p>(1) 保有する感覚の活用に関する事 こと。</p> <p>(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関 する事 こと。</p> <p>(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事 こと。</p> <p>(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況につい ての把握と状況に応じた行動に関する事 こと。</p> <p>(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関 する事 こと。</p>
<p>2 心理的な安定</p> <p>(1) 情緒の安定に関する事 こと。</p> <p>(2) 状況の理解と変化への対応に関する事 こと。</p> <p>(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・ 克服する意欲に関する事 こと。</p>	<p>5 身体の動き</p> <p>(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事 こと。</p> <p>(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 に関する事 こと。</p> <p>(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事 こと。</p> <p>(4) 身体の移動能力に関する事 こと。</p> <p>(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事 こと。</p>
<p>3 人間関係の形成</p> <p>(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事 こと。</p> <p>(2) 他者の意図や感情の理解に関する事 こと。</p> <p>(3) 自己の理解と行動の調整に関する事 こと。</p> <p>(4) 集団への参加の基礎に関する事 こと。</p>	<p>6 コミュニケーション</p> <p>(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事 こと。</p> <p>(2) 言語の受容と表出に関する事 こと。</p> <p>(3) 言語の形成と活用に関する事 こと。</p> <p>(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関 する事 こと。</p> <p>(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事 こと。</p>

特別支援学校高等部学習指導要領（平成３１年２月告示）第６章自立活動より抜粋

「総合探究」のテーマ別内容説明

No.	テーマ	定員	内容	実習費
1				
2	地域発見学習	前期 後期 各30名	高知県に関する地理や歴史、ニュースなどを学びます。各分野の専門家を招いて話を聞いたり、自分たちが校外へ出て実際に見学したり、調べたりします。	不要
3	未来へのプロセス	前期 後期 各30名	将来の職業選択を視野に入れた進路に目を向け、社会について広く主体的に学びます。さまざまな情報を収集し、それを活用する力をつけるとともに、最後に全員がテーマを決めて発表をします。	不要
4	私たちと環境	前期 後期 各30名	鏡川流域の身近な自然から、森・川・海を結ぶ生態系の成り立ちについて学ぶとともに、人の生活と自然との共生について探究します。「鏡川の散策」「水生生物の調査」「浦戸湾学習」「バードカービング」など、野外実習が多くあります。	実習費が必要な場合があります。
5	国際理解	前期 後期 各30名	インターネットで外国のことを調べたり、外国の方を招き、その国の文化に触れ、理解を深めます。また校外学習もあります。	実習費が必要な場合があります。
6	生活文化創造学習	前期 後期 25名	「自分たちの生活を潤いあるものに！」を目標に取り組みます。まず陶芸では、素手で粘土をこね各自オリジナルのお皿や器を製作し、次に調理実習で作ったもの（うどん、和菓子など）を盛り付け食します。また、興味のある食べ物（お菓子）の歴史やレシピを調べ各自で冊子やパワーポイント等にまとめます。	必要
7	生涯スポーツをめざして	前期 後期 各30名	参加する人たち全員がレクリエーションスポーツを楽しみ、交流を深め、健康や体力の維持向上を図るとともに、達成感、連帯感など、精神的に充実することも目的としています。卒業後も継続し、「一生涯」楽しみながら体を動かす術を学んでもらう授業です。フライングディスク、ラケットテニス、ソフトバレーボール、ラージボール卓球、ペタンク、キックベースボール等実施予定です。	不要

*今までに登録（受講）したことのあるテーマは、前期後期とも登録できません。

共通講座 令和5年度 時間割

曜 限	月	火	水	木	金	
	⑦		⑧	⑨	⑩	
5	器楽の楽しみ 洋画 暮らしとマナー 社会演習			現代書道 陶芸 発展英語	英語でトーク 数学課題探求	13:40 ～ 14:25
6	器楽の楽しみ 洋画 暮らしとマナー 社会演習			現代書道 陶芸 発展英語	英語でトーク 数学課題探求	14:35 ～ 15:20

	月	火	
	⑪		
7	国語探究 やさしい数学 やさしい英語	国語探究 やさしい数学 やさしい英語	16:15 ～ 16:55

形態	単位	科 目	受講対象者	授 業 内 容
⑦	2	器楽の楽しみ	音楽Ⅰの修得者	楽器に触れ興味を持ち、個人練習による技術向上を目指す。授業の中でその成果を発表します。
⑦	2	洋画	美術Ⅰの修得者	デッサンなど、絵画の基礎を練習したあと油彩画を中心に作品制作をします。調べ学習や発表もあります。材料費2000円程度必要。
⑦	2	暮らしとマナー	家庭総合または家庭基礎の修得者	日常のマナーや冠婚葬祭、日本の伝統文化など、暮らしを豊かにする内容を学習する。実習費3000円程度必要。
⑦	2	社会演習	2年次生以上	地理・歴史・公民分野全般について問題を解きながら学ぶ。
⑨	2	現代書道	書道Ⅰの修得者	創作活動を中心に様々な作品の制作、鑑賞を行います。教材費2000円程度必要。
⑨	2	陶芸	昼間部は工芸Ⅰの修得者。 夜間部・通信制は美術Ⅰまたは工芸Ⅰの修得者。	土と語り土に親しむ。決められたテーマで生活の中の用と美を追求し、やさしものを表現する。教材費2000円程度必要。
⑨	2	発展英語	3年生以上でコミュニケーション英語Ⅰの修得者	英語の総合力向上を目指す。入試対策(基礎)問題演習をする。
⑩	2	英語でトーク	コミュニケーション英語Ⅰの修得者	コミュニケーション英語Ⅰを修得後さらに英会話の能力を高める。ALTと日常生活で使える英語を楽しく学ぶ。
⑩	2	数学課題探求	数学Ⅰの修得者	数学Ⅰ・Aを中心に基礎数学の充実をはかり、就職試験の問題を解きます。ナンプレ研究。
⑪	2	国語探究	卒業予定者	文章読解を中心に、漢字から実践的な問題演習をする。
⑪	2	やさしい数学	新1年生のみ	数学の苦手意識をなくし、数学に親しむ。
⑪	2	やさしい英語	新1年生のみ	英語の苦手意識をなくし、英語に親しむ。

(*注)応募者多数の科目については、抽選があります。

教科	高大連携	科目	学びを創る	単位数	1	学年	1~4
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

答えが分からないような問題に対しても、他者と積極的にコミュニケーションを図り、色々な意見を統合して、自律的に学びを創ろうとする姿勢を養う。
(1) 課題解決に向け、論理的思考力や分析力を身につけようとしている。
(2) グループでのいろいろな意見を統合して、新しい学びを創造しようとしている。
(3) 自分が所属するグループ内およびグループ外において、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	時間 配当
		章・節		
前期	4	オリエンテーション	振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	35
		課題探求エクササイズ①	振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	
	5	チームビルディング演習①	振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	
		学びを考える「学び履歴」	振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	
	6	課題探求型学習プログラムを創る①~③	カードを使って学習プログラムを企画・作成・思考・改善する。報告とポスター作成をする。振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	
		ふりかえりとチームビルディング演習②~③	振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	
7	課題探求型学習プログラムを創る④~⑦	学習プログラムを企画・作成・改善する。報告をする。振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。		
8・9	報告会	ゲームボックスの作成、チーム報告をする。振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。		
	ふりかえり	ゲームボックスの実施、感想シートを作成する。振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。		
後期	10			
	11			
	12			
	1			
	2			
合計				35 時間

教科	高大連携	科目	大学生生活と心理学	単位数	1	学年	1~4
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

新しい環境や集団の中で感じたり、考えることについて、臨床心理学と健康心理学の知見から基本的な知識を学び、グループワーク体験をしながらその学びを深めていく。

(1) 心理学の知識を基に、自己を理解し、それを言語化することができる。

(2) グループワークを通して、自己理解・他者理解を深めることができる。

(3) 自分が所属するグループ内およびグループ外において、積極的にコミュニケーションを図り、新しい知見を得ようとしている。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	時間 配当
		章・節		
前期	4			
	5			
	6			
	7			
	8・9			
後期	10	オリエンテーション	e-大福帳の記入、復習課題の提出	
		自己理解と他者理解を深める	e-大福帳の記入、事前課題の提出	
		コミュニケーション技法の基礎知識の獲得	e-大福帳の記入、事前課題の提出	
		青年期の発達課題について理解する	e-大福帳の記入、事前課題の提出	
	11	自分の考え方(=認知)のクセについて考える	e-大福帳の記入、事前課題の提出	
		認知のメカニズムについて、体験から理解する	e-大福帳の記入、事前課題の提出	
	12	ストレスとストレスマネジメントについて考える	e-大福帳の記入、事前課題の提出	
		モチベーションについて考える	グループプレゼンの実施、e-大福帳の記入、事前課題の提出	
		「腹が立つ」アンガーマネジメントについて考える	e-大福帳の記入、事前課題の提出	
	1	カウンセリングの基礎知識の獲得①	e-大福帳の記入、事前課題の提出	
		カウンセリングの基礎知識の獲得②	e-大福帳の記入、事前課題の提出	
	2	人を支えるサポート理論(ピア・サポート)の基礎知識の獲得①	e-大福帳の記入、事前課題の提出	
人に教える技術を獲得する		e-大福帳の記入、事前課題の提出		
グループプレゼンテーション		グループプレゼンの実施、e-大福帳の記入、事前課題の提出		

35

合計 35

時間

